

蒙色望診通信講座

竹安輝高著

蒙色望診通信講座 上卷

## 蒙色望診とは何か

蒙色望診とは一般に耳馴れぬことばであるが、それでは蒙色望診とは一体どのようなものであるかを簡単に述べてみましょう。

蒙色とは人相学上の専門術語で内臓の疾患や体の異状が体表面に一種の気色、血色として現われる皮膚の色である。

この色は長年の経験と専門知識を修得した者が見れば微かな異状現象でも適格な視覚で素早く捕えて内臓疾患の根本的治療点とすることができるとです。

この方法は昭和二十三年に二代目、目黒玄竜子が発見し、同三十五年七月に「二十一世紀の医学蒙色望診（全）」で発表したものです。

## 蒙色の見方

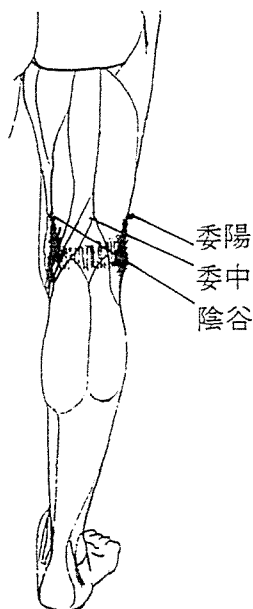
実際に患者を裸にして立たせ、真暗な室に一〇Wの蛍光灯をつけ、一・五M、二M位離れて見ると分別できるのであり、さらに60、80Wの蛍光灯を照射すればこの蒙色は見えなくなる。その色を気色と呼び、消失しないものを血色と呼んで分別する。但し、この気色を見分けるのが難かしく通常明るい所では見えにくいいため、10W位の明るさにして見るが、ただ、あまり近寄るとこれを視難いので二M位離れて見なければわかりにくいという不安定な性質のものである。それはあたかも皮膚の表面に鉛筆の芯の粉をまき散らしたよう、ときに、陰影のように、ときに雲か霧がかかっているように見えるものである。

一般に蒙色というのは、この気色のことで、血色は既応症や慢性病に現われる半固定色だからあまり重視せず、この不安定な気色こそ実は急性病や、発病の兆候までを表わす重要な蒙色であるといえましょう。

次に望診とは字の如く、少し離れて視覚により診察診断するということである。

目を瞠る様ないわゆる一発即治の効果をもたらす、そもそもの判断資料ともいふべきこの蒙色。……まずこの蒙色を除くことで即効のある病気の神経痛から始めてみましょう。

尚、本文ゴジックは経穴名を表す。



第1図

## ○下肢神経痛

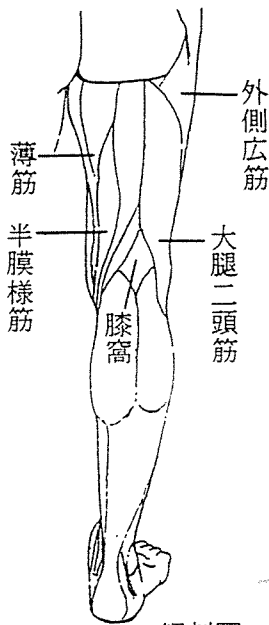
博多のある茶道の先生、神経痛を病んで四、五年になるが、ちつとも治らず、立ちあがる時に痛むため、出来るだけ長く坐らないようにしており、階段の昇り降りは手摺りにつかまり、助手につかまって、一段一段と昇り降りしなければならぬ有様だといひます。

そこで膝の蒙色（氣色・血色共）を見ると第一図のように出ているのでモグサをとり出して三ヶ所（一ヶ所に三壮づつ）すえると、すっかり消えてしまいました。そこで、

「蒙色なければ病なし」(目黒玄竜子先生の至言)だから、もう治ったから階段を昇り降りしてみなさい、という、不思議そうな顔付きをし返事もしないで階段をそろそろ降りだした。

しばらくするとトントントンと駈け足で上ってくるなり、

「まあーありがとうございました。もうひとりで手放しで昇り降りもトントントンですよ。不思議や



解剖図 a

なあ」という次第です。

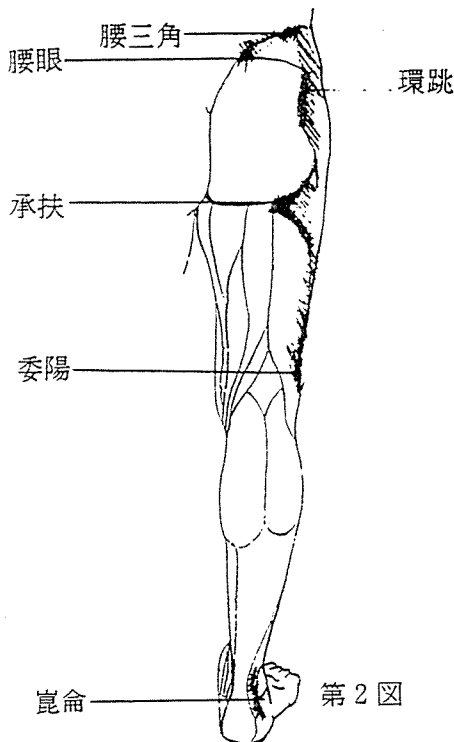
当人は注射・鍼灸・漢方薬・新薬と、いろいろ苦しんできたので、ますます有難かったわけです。

この人の圧痛点は、膝関節の前側の犢鼻のあたりが痛かったのに、灸は後ろ側にすえて前の痛みが去り、今迄の圧痛点をいくら圧しても痛くなくなつたので、これも不思議なのだそうです。

経穴では(第一図)のように陰谷、委中、委陽を横に結んで、両端の陰谷と委陽からは上下に伸びて、H型に出るものが最も多いが、正確に経穴に施灸しても治るわけにはいかず、蒙色の最も気のある、最も色の濃い中心に施灸すれば、一発即治となる。

この施灸点から分るように、内側はほぼ陰谷にあたるが、委中は気色がなくて、陰谷あたりと委陽の上下に二点が濃かったので、施灸点と決めたのであるが、烈しいものになるとHの字を埋めつくすように灸点が増えてくる。

この様に関節炎や神経痛の患者は施灸後どの程度まで治ったかテストのために階段の昇降をやらせてみるとよい。神経痛なら昇るのが困難で関節炎

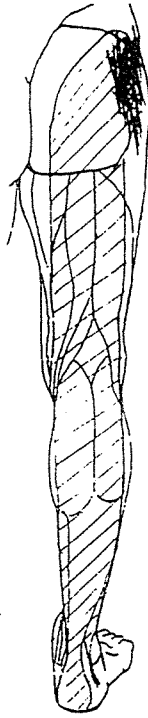


なら降りるのが困難だからである。T市の患者は  
 コルセットをして家族につき添われて来たがコル  
 セットを外して施灸後階段の昇降をやらせてみる  
 と始めはそろそろ柱につかまりながら昇降してい  
 たがだんだん早くなり何度も昇降したあとすつか  
 り自信をつけコルセットは棄て、くださいと云つ  
 て喜び勇んで家人を尻目に帰って行った。

また理論家のために解剖図(a)で説明すると、  
 このH字型の蒙色の一つは半膜様筋と薄筋の筋溝  
 で、もう一つは大腿二頭筋と外側広筋の筋溝にな  
 り、その左右の蒙色が中央の膝窩で連結してH字  
 型を形成する様に出る。

以上は下肢神経痛の比較的軽いものであつて重  
 症になると腰部や殿部に蒙色を出す様になる。先  
 づ腰には腰眼(奇穴)がある、この腰眼は別名ヴ  
 イナスのエクボと呼ばれて女性美の一つである。  
 この位置を解剖図で探すと上後腸骨棘の位置で、  
 こゝは皮下脂肪が他の所より少いので肥満体では  
 もちろん、女性の殆どの人が拇指で押した様な  
 凹みを作っている。(第二図参照)

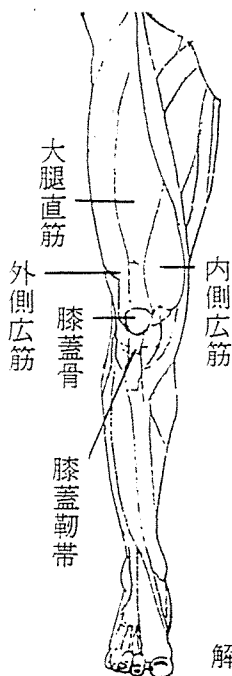
環跳の蒙色とその圧痛点



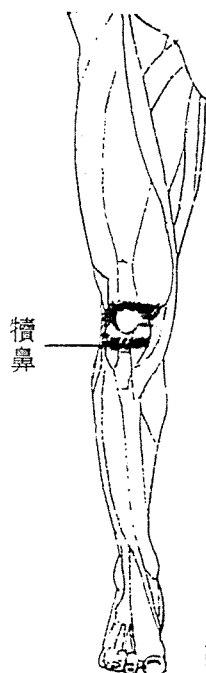
この凹みを腰眼と云つて重要な蒙色の出現点である。この蒙色が腰痛、下肢神経痛、肩こり、歯痛、頭痛の原点なのである、この腰眼から下へ下る蒙色、つまり腰眼、承扶、委陽、崑崙と縦に一系列に並ぶものは坐骨神経痛であり、今度は腰眼より腰三角の位置に蒙色が出て横一系列に並ぶものも下肢神経痛、そして更に腰三角の位置より下へ下って殿部の股関節の（環跳あたり）に蒙色を出すのが最も重症である、こうなると一人で歩行することが出来ないから車椅子、松葉杖が必要になる、そこで下肢神経痛で膝あたりの蒙色を消しても一向に軽快しないものや、膝から足首にかけて痛むのに、足首や膝に蒙色を出していないものは環跳周辺の蒙色を丹念に消してやると根治するもので、この様な患者には圧痛点だけ施鍼や施灸するという方法では殆んど軽快すらしないものである。

次に施灸に用いるモグサは、普通のモグサを使うが、その硬さと大きさが、ふつうのお灸の二、三倍になるので、（固くかため、しかも小さく、効力は強くなる）。強刺激を与えることになる。





解剖図 b



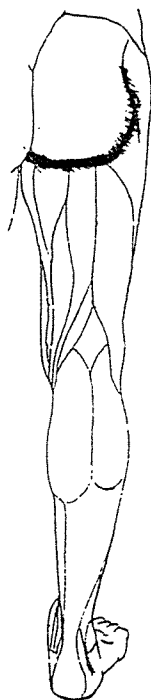
第3図

また、立つことのできる人は、立たせて施灸することが必要です。（立っている時と、坐っている時と、寝ている時では、皮膚が動くからで、したがって「蒙色」の出ている場所が動いてしまう）施灸後の蒙色の变化を望診しながら、蒙色の消え方や逃げ方（消蒙・飛蒙）を望診しながら、次の灸で追跡するので、立位のまゝで施灸する方が便利です。

ところが中風で足が立たない者や、リウマチ性のもの、スキー等で転倒して膝を捻挫したもの、正座出来ない人には、第3図の様に膝の前面にも蒙色を出しますから膝は前面後面とも良く観察する必要があります。

この蒙色を解剖図(b)で調べると膝蓋骨、膝蓋靱帯に多く蒙色を出すからこゝに停止する内側広筋、外側広筋、中間広筋、大腿直筋等の筋肉群の停止部位に蒙色を出し易いことが分る。

スキーで転倒して膝を捻挫した北海道のIさん、この主人が早速車の中からモグサを取り出し蒙色灸で解蒙、一時間後にはまた颯爽とすべっているの



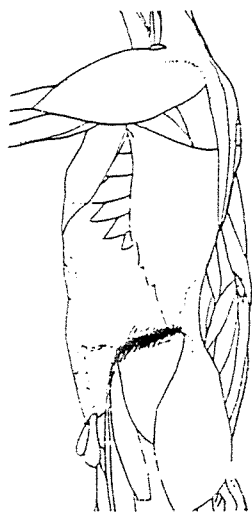
第4図

## ○下肢の痲痺

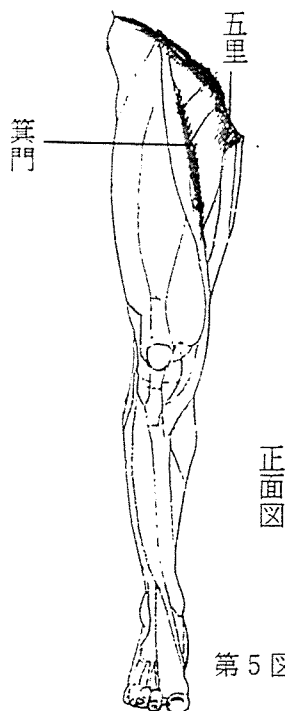
をみて一緒にすべりに来た友人達は「一体ドーナッテンノー」ということでした。

これには部分的な足指の痲痺から、下肢全体が痲痺するものと程度の差はあっても一般的には起居不自由という人が一番多い、そして人の手を借りたり椅子や机を支えてやっと立ったり坐ったりが出来るものです。

正面では主として鼠径部に出て、背面では殿部の下縁横紋上に出る、こゝを通過する経絡は殿部では太陽膀胱経か、鼠径部では陽明胃経、太陰脾経、少陰腎経、厥陰肝経が通過するから、例えば殿部下縁横紋と太陽膀胱経の交叉点なら承扶という風に早合点してはならない。蒙色は第4図の様に殿部の下縁横紋上に横に伸びて会陰に達したり環跳に達したりするから蒙色を追いながら消してやるのが肝要です。また鼠径部も同様で、鼠径部だけ単独に出るものから、この下の箕門にも蒙



第5図側面図



正面図

第5図

色を出す者、鼠径部から陰部を狭み殿部の承扶まで蒙色が伸びる者と色々あるが多くは瘀血体質で足腰が冷えて頭部にのぼせる者が多い。

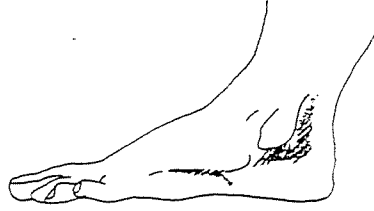
(第5図参照)

瘀血、つまり陳久性の古血による障害は婦人は生理不順として表われ男子では痔、神経痛となつて表われるから単なる解蒙法で蒙色を散らしただけでは駄目で、また元の所へもどつて来るから古血を溶かして排泄する駆瘀血剤が必要になる。

また大腿の中程の蒙色は五里か箕門に当り、この患者が殆んどあぐらをかく事が出来ないのが特徴で、左右の足を直角に開いて座することを箕坐(昔農家で使用した箕がこんな形をしている)というから箕坐出来ない人によく効くことが箕門の由来であると思われる。

次に鼠径部上部の腸骨溝の蒙色は足の冷る人に多く、この蒙色を消すと直ちに足が暖くなるから妙である。つまり下肢へ行く動脈がこゝで詰っているために下に降れずに上に逆上するから冷えのぼせ体質の典型的な蒙色と云えましょう。

(第5図側面図参照)



第 6 図

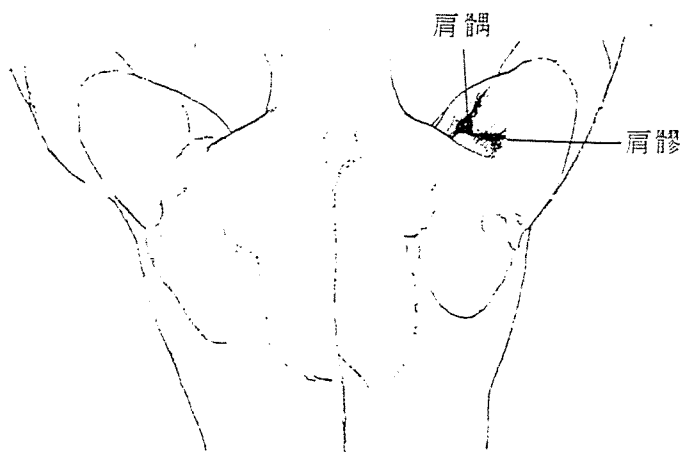
## ○足首

足首の蒙色は一番多いのが捻挫で、下肢の神経痛の治療中蒙色が下へ下って来て此処に達するもの、その他、大陽膀胱経の原穴の近くだから夜尿症、頻尿症も此の処に蒙色を出す。(第6図参照)

一方足首の内側面は少陰腎経の大谿という、原穴近くに蒙色を出し、之は更に下って然谷を通過して湧泉に達するもので、この様な長く連つた蒙色は明らかに経脉の存在を明瞭に確認出来るものである。

## ○足底

患者は靴をはいていても、素足で田舎道を歩く様に小石を踏んで歩いているような痛みを訴える。勿論永く歩行することは出来ず、早く歩行すると痛みは増加する。その他足の裏が麻痺しているものも湧泉あたりに或は上寄りに、或は下寄りに蒙色を出す。(第6図左参照)



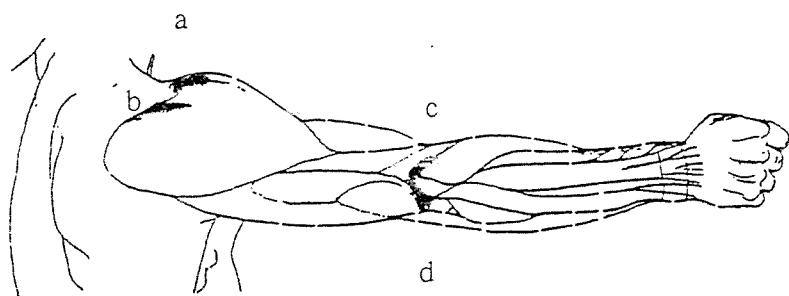
第7図

この湧泉あたりに出る蒙色は足の麻痺に最も効果がるもので、足に出ているあらゆる蒙色を消しても麻痺のとれない者、何処にも蒙色の出ない者には必ず足底の蒙色をみる様にすると良い。この足底の灸は一番熱くて焼き火箸を突きさされた様に猛烈な疼痛を感じ、足裏から頭まで突き通る様なショックを受けるから起死回生のツボと呼ばれるのも宜なる哉と思われる。そして紫色の足指や足底の皮膚がサツと黄白色に変ずると同時に麻痺は消失している。

### ○上肢神経痛

十年ぐらい前のことです。東京田無に住んでいる中年男子、体中どこも悪くないが、右腕だけがあがらない、本人はべつに不自由は感じないが、一番困るのは、狩猟が趣味なのに折角の休日銃が使えないことだという。

早速裸にして、主として肩関節を見ると、手の陽明大腸経の肩膵の上あたりに、直径1.5 cm位の円



第8図

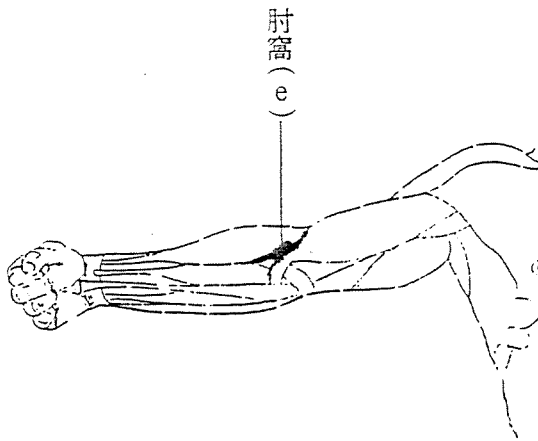
形の蒙色が灰色の斑のように出ている。それもただ一ヶ所です。

そこでこの蒙色の一番色の濃いところに一壮すえると、その場で即治。(第7図参照)

数年間も銃がもち上らなくて獺をやめていたのが、明日から又行けると大喜びでした。

この蒙色は、腕がつけ根からブラブラで、指一本動かせないというものから、指や肘は自由だが腕を挙上できないだけというこの人のような軽いものまで、いろいろありますが、病名でも神経痛・リュウマチ・中風といろいろな病名がつけられ、たりしていますが、蒙色は軽いもので第8図のa、重いものになるとb・cと伸びてくる。中風で倒れてあまり時が経っていないものなら、これで治ります。

五十才の女性。中風で倒れて四日目、右手足ブラブラ、口がころうじてきける。蒙色は左右腰眼に各一点宛、右腕はa bのみ。早速灸で蒙色を除くと、立居振舞いがどうにか出来るようになった。この様に手の麻痺は三角筋の起始部である肩峰



第9図

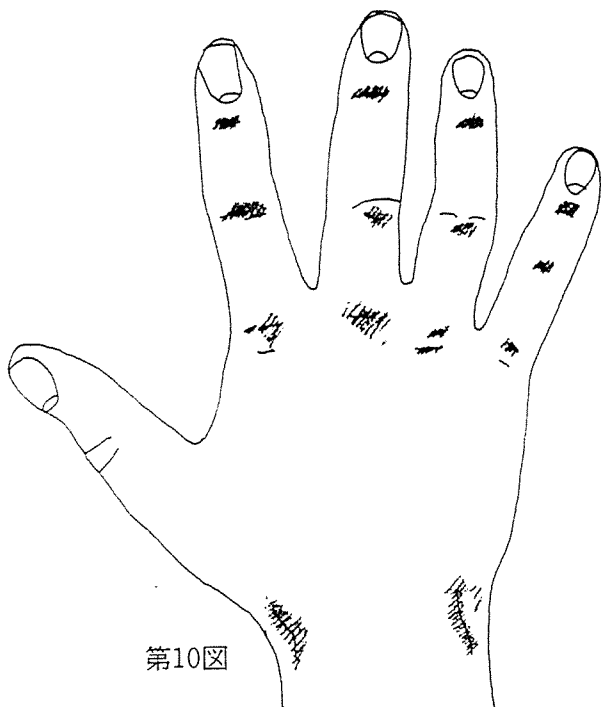
の肩隅、肩髁に蒙色を出すものが多く、足の麻痺は腰眼の蒙色が多い。

肩の次は肘関節になるが、肘関節の後面では一番出易いのが上腕骨外側上顆と肘頭の間の凹みで、(c)次に内側上顆と肘頭の凹み(d)に蒙色が出て、うんとひどくなると膝関節と同様にH字形が尺骨の肘頭を結んで完成するこの上腕骨内側上顆には前腕の回内屈筋群が起始し、上腕骨外側上顆には前腕の回外伸筋群が起始し、尺骨の肘頭には上腕の伸筋群が停止するからそれぞれの蒙色から何如なる運動が困難であるかを蒙色で判断出来る。

病院で投与される薬の包を引き裂くことが出来ない患者に、内側上顆に出ている蒙色を消してやると薬包紙を簡単に引裂くことが出来るようになった。この様に紙袋を引裂く運動は回内筋の作用によるからでしょう。

一方肘関節の前面は肘窩(e)に蒙色を出すから此処は上腕の屈筋群の停止位置である。

再び経穴でみると、この経穴はaは肩隅、cは外側上顆と肘頭の凹みで、一応曲池に近いから曲



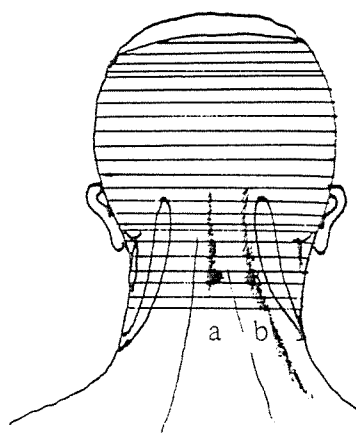
第10図

池と見なす。bは肩髀にあたる。そしてdが小海になる。

こうすると軽いものから蒙色はa、ab、abcdeと進んでゆくから、経絡で見ると陽の陽明大腸経から、陰の大陰肺経へ陽の急性から陰の慢性化、そして経穴はいずれも五行の金（大腸、肺）となる。

更にこれらの患者がいずれも食中毒から発生すること、家庭で手作りのうどんを作ったその中に入れた梅焼（ねりもの）に中毒したもの、シメ鯖による中毒など色々あるが、腹痛、下痢などにより毒素を排泄したものはこの症状を現わさないがめったに下痢をしたことがなく、中毒しても毒素の排泄ができない体質の持主に、この症状を現わす者が多いことから、この停滞した毒素が臓腑の大腸から経の大腸まで流れて行き、肩髀曲池に流れて、この症状を出したものと考えられる。





第11図

## ○手首・指

手首や指に出るものは一般に使い傷みが多い。機械化される前の農繁期の農夫に多いのが手首の蒙色で、指先のものにはピアニスト、キーパンチャーに多いもので、野球選手の肘と肩の関節に多発する変形性関節炎によく似ています。(第10図参照)

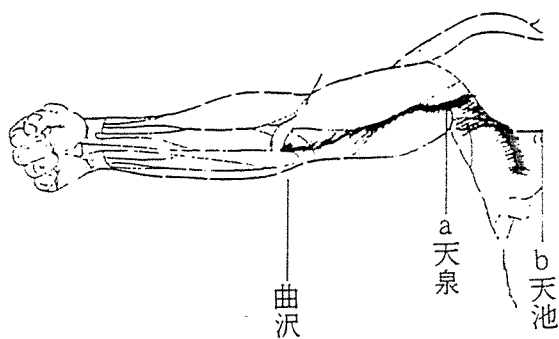
## ○後頭神経痛

一般の頭痛は頭部に蒙色を出す、この神経痛は頭部には蒙色を出さず、必ず第二頸椎か、第三頸椎の中央a又は右bか左寄りに蒙色が出る。

bはむち打ち症による頭痛が全くこの通りで患者は痛みが頭の表皮内にあるという。だから毛髪を触ると痛みが誘発される。(第十一図参照)

bの下えおりる蒙色は頭痛と共に右手の疼痛を訴える患者に出ていたものである。

aは典型的なもので後頭部から項にかけて痛み



第12図

が放散し、ときに下顎、耳の後に及ぶものもある。

(第十一図の横線は疼痛感覺域)

## ○上肢麻痺

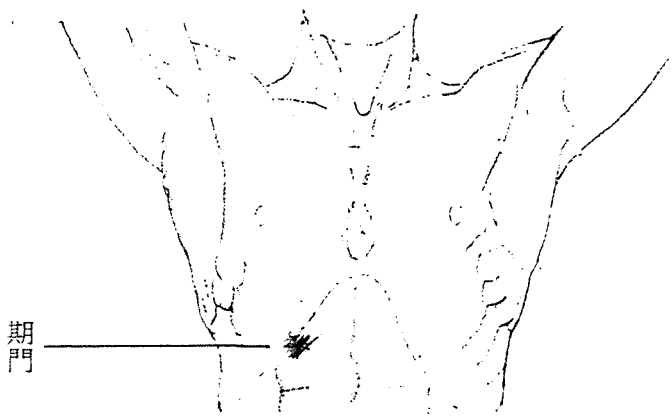
これは主として厥陰心包経の天池（b）と天泉（a）近くに蒙色がある。そしてこの蒙色を消すことで簡単に治せるが、この場所は、健康体に灸して逆に麻痺する場所でもある。（第12図）

施灸で肝蒙（肝臓近辺の蒙色）を消してゆく途中、乳根、食竇、天池に達すると途端に脇から肘にかけて放散痛を訴え、以後腕が麻痺するという。これは肘関節まで飛蒙するために起る現象で放つておいてもいづれ回復するが、肘の曲沢近くの蒙色を消してやれば麻痺は回復する。

この蒙色位置は正中神経麻痺によく効くものでまた手の神経麻痺では一番多いものである。

次に尺骨神経麻痺は前述の上腕骨内側上顆と肘頭の間の陥凹、つまり小海に蒙色が出る。

更に橈骨神経麻痺は肩髁と前述の上腕骨外側上顆と肘頭の間の陥凹（曲池）である。



第13図 a

## ○ 肋間神経痛

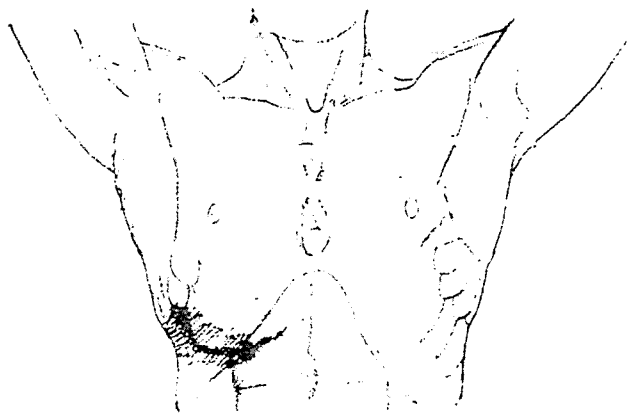
南九州のある医療団体で講演した時のこと。

蒙色を实地に見せてほしいということになった。

「蒙色なければ病なし」だから現在病気を持つて  
いる人は必ず気色の蒙色が出ている筈ですか」「誰  
かいま痛みをお持ちの方はありませんか」と云う  
と、一人該当者が現われました。

「普段は何ともないが、左下に臥せると胸全体  
が針をさすように痛んで、とても寝るどころの騒  
ぎじゃないんです。しかし右下に寝ると何ともな  
い」と云う。「今でもそうですか」と聞くと、「そう  
です」と云う。

「それでは蒙色が出ている筈だからお見せしま  
しょう。裸になりなさい」と云うと、聴講者の中  
にお医者さんがいて「一寸診察させてくれ」とい  
う。脈の切診、眼、舌の望診、胸腹の聴診をすま  
せてから、「この肋間神経痛は肝臓から出るものだ  
から少々全治に時間がかかりますよ」と云われる。



第13図 b 第

そこで蒙色望診の私の番です。

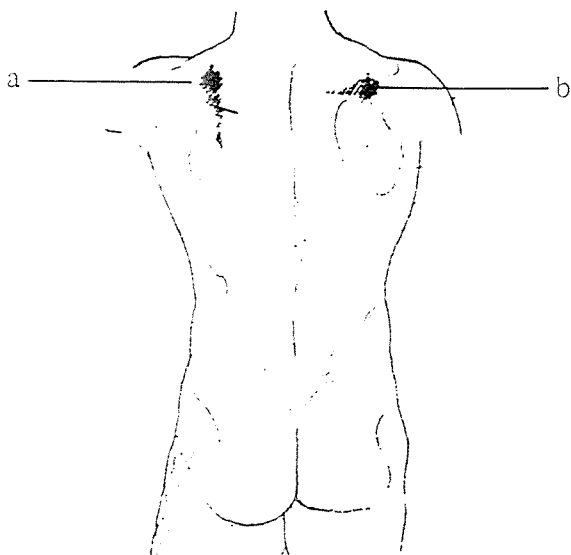
裸にして体の正面を一見すると、右肋骨の期門の部に気色の蒙色があるだけです。(第十三図 a 参照) 従って肝から出た肋間神経痛は共に一致です。蒙色は気色だけで血色(の蒙)が混っていない「これは急性だからすぐ治ります」と全治までの期間に診断の相違が出た。

この蒙気色なら多分施灸一発即治です。再発防止のため二発か三発すえると、それっきりで明日以後再び施灸の必要はありません。

そこで早速実施することになりましたが、「どのくらい痛むか一寸左下に臥って下さい」と云うと、膝をついて左下に臥せようとしただけで苦痛で顔がゆがんでしまいましたので、中止。早速施灸することとしました。そして2壮施灸「着衣して下に臥して下さい」と云うと、何ともない。

あまり不思議なので、二度も三度も臥してみましたが、当人は狐につままれたような顔、拍手喝采で閉会になりました。

この例のように、肋間神経痛は肝の期門に蒙色



第14図

が出るのが特徴ですから、当然肝臓から来たものであり、同時に蒙色を除けばそれっきりです。

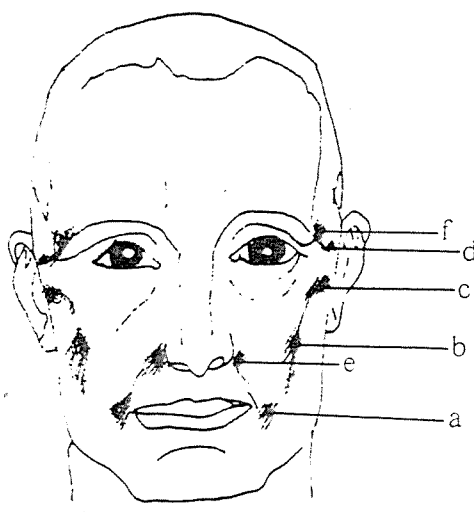
慢性の人は、第十三図bの様に血色の上に気色を帯びており、胸腹よりも脇の下あたりに枝を伸しているものです、このような場合は、2・3壮施灸で一週間ぐらい連続することもあります、そんなのは極めて稀で、たいてい二、三回ぐらいで完全に消失、治癒となります。

### ○三叉神経痛

私の同僚で東京の杉並に住むH氏。頬骨が碎けるほど痛みしばらくすると止む。又20分程経つと猛烈に痛む。そこで内科医に見せたが不明、歯から来たものかも知れないと、歯医者に行くと奥の二本がその原因であるというので抜歯したが、痛みは止らず抜歯後の疼痛と両方ではほとんど閉口していた。

そこで私の所へ漢方薬の相談にきた。

見ると第十四図のaのような蒙色が左肩甲骨の



第15図正面

上に出ている。経穴は手大腸小腸経の秉風より天宗に向って、縦に細長く出ているので「漢方薬よりも灸の方が早いですよ」と話すと、何でもよいから早く頼むと云うので、3壮施灸すると直ちに頬骨の痛みは消失。これでおしまい。

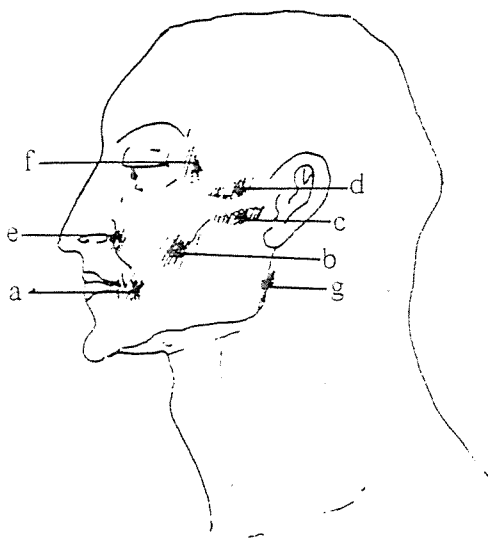
ただ抜歯した歯の跡の痛みが残っていましたので、鎮痛剤少々与えておきました。

大阪のある研究会で、会員が連れてきた五十年配の婦人、踊りの名取りで十数年間三叉神経痛に苦しんでいる。

鍼から灸、電気、注射、マッサージ、何でもござれ、はては顔にまで小さいが灸痕がある。

今迄はどれも一か月程はよく効いたが、その次にまた治療にゆくと、今度はうまくいかない。そんなわけで今日出てきました、という。

見ると目の様に丸い蒙色が気血色を混えて出ている。ほぼ経穴の秉風に当たっている。そこでこの中心に三壮施灸し、蒙色の消失を見て、もう大丈夫ですというと、半信半疑の面持ちで元の席にもどっている。おかしいナと思っているらしいので、



第15図側面

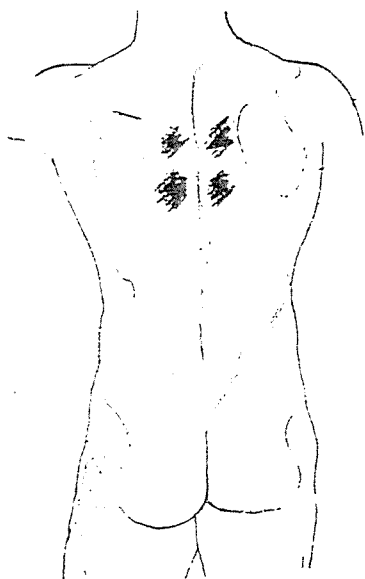
どうしましたかと訊いてみると、顔面の神経痛の治療に、肩に灸をすえて治るのか、と不審に思っているということです。

この様に三叉神経痛の患者が治ったかどうかの判定には湯呑の茶をのませてみるとよい。治つてないとしびれた片方の唇からこぼれてしまうから患者は手を出さない。そこで洗面所まで連れて行きこぼしても安心だからといって吞ませると一口吞んだが少しもこぼさなかったのに仰天する。

以上は三叉神経痛の体蒙であるがこの外に顔面に蒙色を出すものもある、(第十五図正面・側面図参照)そして顔面に蒙色を出すものは歯、鼻、眼の疾患からの続発痛が多い。a、b、c、d、gは歯の炎症から続発するもの、eは鼻の炎症からfは眼の炎症等である、しかし続発痛ばかりとは限らないから充分な診察が必要になる。

### ○顔面神経麻痺

これは上睨がだんだんたるんできて、眼がふさ



第16図

がつてしまい、手で持上げなければ見えなくなるという人です。

これでは仕方がないので、外科へ行くと、それじゃ睨を切つて短かくすればよろしい、と短かくして呉れたのはいいが、今度は夜になつても睨を閉じることができない、という誠に厄介な病気です。

蒙色を見ると、第十六図の様に左右の肩甲骨の中央あたりに四ヶの蒙色が左右対照に出ている。

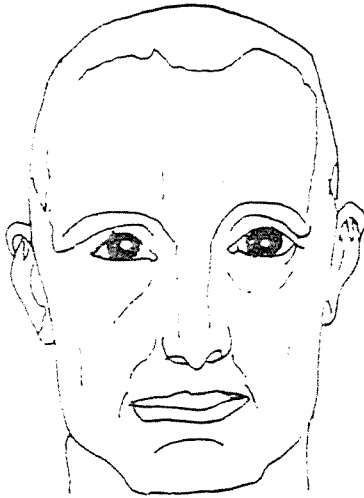
これもこの蒙色を消しますと、五分も経たないうちに睨はもとのように治りやれやれでした。

この様に三叉神経痛や顔面神経麻痺は大腸小腸経の病変であつて、五行の火に配当され、この顔面神経麻痺も五行の火の厥陰俞や心俞の第四、第五肋間に蒙色が出易いのでしよう。

以上で神経痛は終わりますが、膝から下の足神経痛は、腎と膀胱の水に属し、頭や顔は心小腸経の火に属し、手の神経痛は肺、大腸の金に属し、肋間は肝胆の木に属し、大腿部は脾胃経の土に属するものが多い。



六部定位と三停の対応



上 停	上 焦	(左) 小腸	(心)	(右) 肺 大腸	寸
中 停	中 焦	胆	肝	胃 脾	関
下 停	下 焦	膀 胱	腎	三 心 焦 包	尺

第17図

これを難經の六部定位と比較し、又顔面の三停と比較してみると、足は下停で腎、膀胱と陰に属し、手と頭は陽で上停で心、小腸と肺、大腸が占め、陽（上）でもなく陰（下）でもない中に肝胆の木と脾胃の土が占めている。そしてそれぞれの神経痛と対応しているのがわかる。

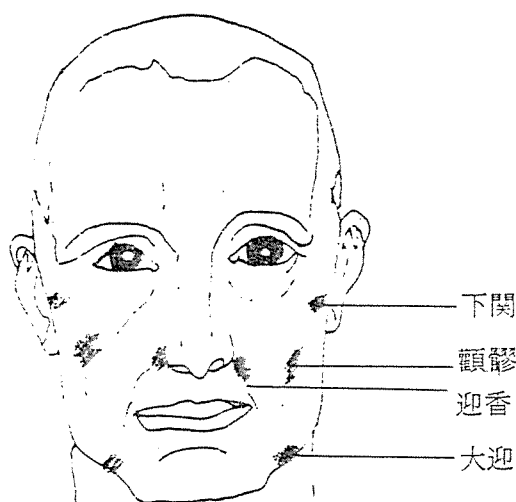
この対応をおぼえておくと、鍼灸治療のみならず湯液治療する場合にも、大変参考になる。

例えば、肋間神経痛で蒙色が期間から日月に伸びているとすると、肝胆に共通して引経する柴胡が必要となる。つまり柴胡剤を投与すればよいことになる。

○歯痛

軽い歯痛は顔面の蒙色だけで片がつくが烈しい歯痛は腰の腰眼（奇穴）腎俞あたりの蒙色を消さなければ治らない。

軽症から先に始めると上歯の痛みは鼻孔から横に水平面を引き、頤の皮膚の交る線上に蒙色が表



第18図

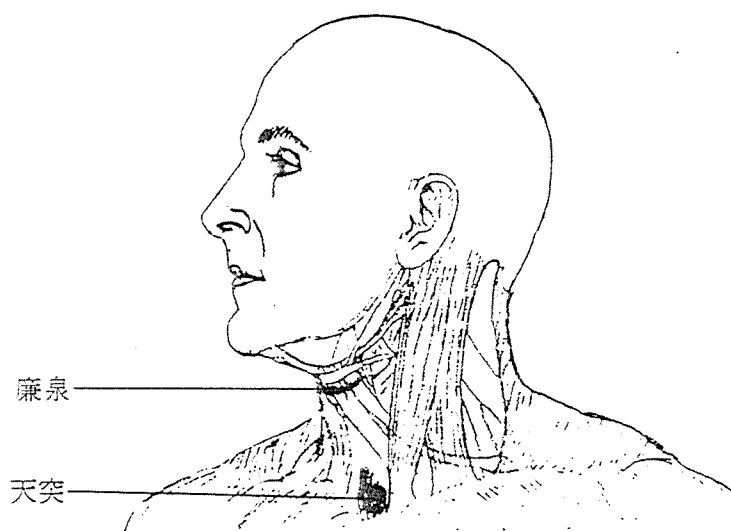
れる。(第18図)

鼻孔直下に門歯、小鼻脇に犬歯、頬骨下に小臼歯、頬骨弓下に大臼歯という風に表れる。

一方下歯は下顎骨の下縁に沿って門歯から臼歯へと蒙色を表す。その中でも代表的なものは顴髂、迎香、下関が上歯で、大迎、頬車が下歯の蒙色である、之等の蒙色は煙草の火で表皮が発赤する程度の刺戟でいろいろと鎮痛剤をのんでもとれなかつた痛みが消失するから妙である。

この様にして顔面蒙を消しても軽快しないものや、二、三〇分で再発する様な劇しい歯痛は「歯は骨の余り」という腎の蒙色を消さないと痛みは消失しない。

十数年前北海道の旭川に蒙色の講演に出席した時のことです。千歳空港に着いた頃から痛み始め、旭川の会場であるホテルに着いた時(お昼過ぎ)には痛みのために口を利くのも大儀になりました。しかし遠路はるばる御出席の方を会場に置いて帰る訳にもゆかず一計を案じて提案しました。「私の今の顔をご覧になったら分りますように歯痛のた



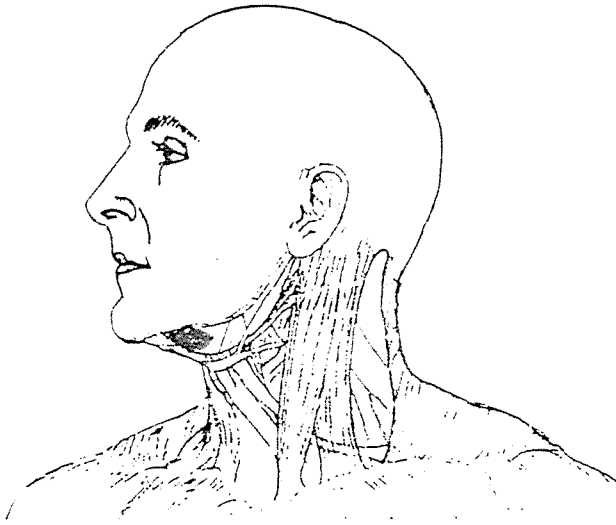
第19図

めに之からの講演が出来るかどうか分りません、唯一つの妙案は私の腰に蒙色が出ている筈だから何方かその蒙色をみつけて消して戴くと二、三〇分以内に軽減しますから講演を続けることが出来ます」と二十人の内の三、四人で十数ヶ所施灸された様に思いますがその内の一つが当って二〇分后から再開夕方めでたく閉会しました。

### ○咽痛、扁桃炎

嗔声、選挙の応援演説で声をつぶした者、宴会で騒ぎ過ぎて声をつぶした者と色々原因は異つても声が出なくなつたものや出にくいものは皆頭部の喉頭隆起の上際の廉泉に横一文字の蒙色を表す。そして天突に蒙色を表すものは一般に胸骨両脇の少陰腎経にも蒙色を出し、咽痛のみならず咳嗽も併うようになる。(第19図)

また扁桃炎の慢性化したものや、何度も再発を繰返すようなものは、少陰腎経の俞穴である、腎俞の蒙色を徹底的に消去することが先決であつて、



第20図

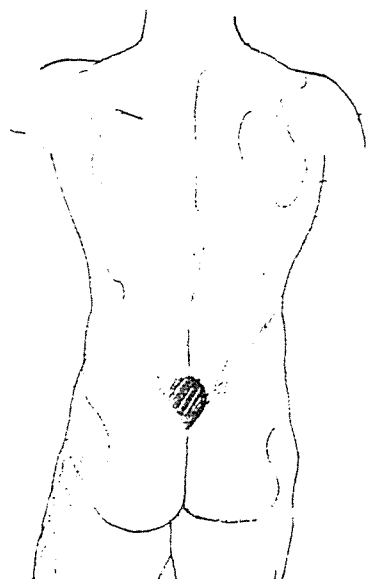
咽喉や首の蒙色だけでは一時押え程度の効果しか表さない。

15才男子扁桃炎で来院、左顎下三角窩に円形の蒙色が出ており、解蒙ローションを塗布して、蒙色を消し、微熱があつたので熱が出る様なら解熱剤をのむ様に云つて帰したが、電話で痛みと共に微熱もなくなつたと返事があつた。(第20図)

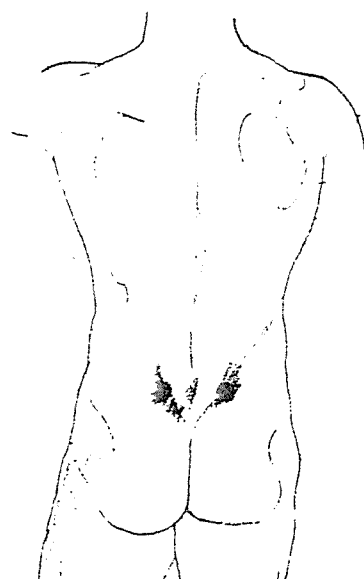
## ○腰痛

腰痛は坐骨神経痛と共通するものが多く、原因も同様なものが多いものです。

原因の一つに椎間軟骨ヘルニアがあります。一名ギックラ腰と呼ばれて何らかの動作のほずみに猛烈な疼痛の一撃を受けて回復するまでに二〇〜三〇分から一時間近くかゝる人もあります、大體一番多いものが第四、第五腰椎間におきやすいので蒙色も丁度この所と云うと先程坐骨神経痛で述べた左右の腰眼、及びこの腰眼を結ぶ線上の陽関あたりに多く出ます。つまり一番多いのが腰眼で



第21図 b



第21図 a

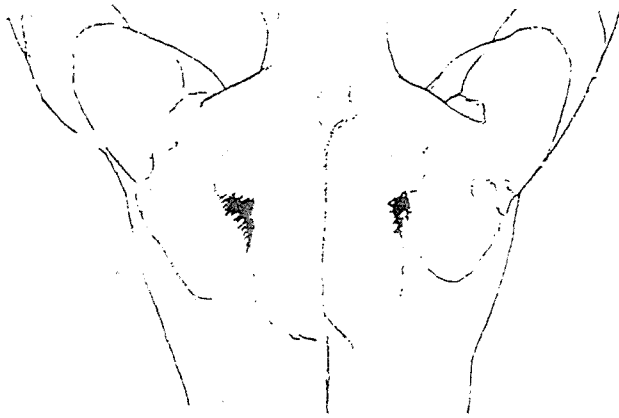
す。(第21図 a)

その次に背椎迂り症というのがあります。これは無理な力が何回となく働いたためではないかと考えられています。一昔前の話で学徒動員でボーライマンをやらされてこの病に犯され半身不随に近い人を治療した事がありますが、この蒙色は腰眼よりや、下の仙骨三角に楕円形に縦に出ています。(b)

その他関連痛として腰痛を訴える者は主として腎虚によるもので大抵が腎俞から志室、京門と連なり下は左右の腰眼を結んで菱形(男子)楕円形(女子)に蒙色が出るものが多い。

### ○肩凝り

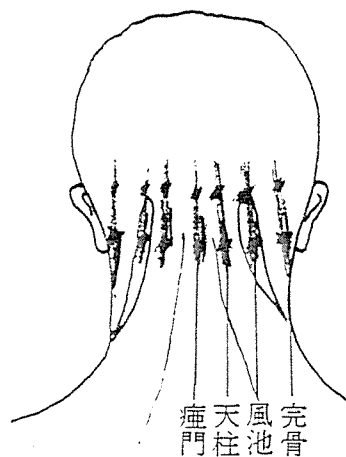
肩こりは前述の腰眼がある、一般に筋肉労働者ならともかくまだ廿才前後の娘さんで肩をこらすのは先づ腰眼を探すべきである。首筋から肩まで万遍なく視て蒙色のない人はあきらめずに腰眼まで探して下さい。近くのすし屋で働く21才女子、



第22図

肩こりのために毎日鍼に通っている。その主人の頭痛を灸一壮で治したものだからその主人の紹介だという、やはり腰眼に一つ蒙色が出ていて「お灸なら一回きりで治るがどうか」と尋ねると一回こつきりなら我慢すると云う、そこで二壮宛施灸、本人は肩こりだけでなく耳鳴までとれたと大喜びでした。

次に出るのが肩甲骨の上角あたりの僧帽筋と三角筋と棘下筋の交叉点で胸を張ると左右の肩甲骨が寄つて来てここに陥凹が出来る。(第22図)この蒙色は左右の肩甲骨を開くと見えないので必ず胸を張らせて望診すること。蒙色から命名するとこれが風門で風邪の初期、ゾクゾク悪寒して鼻づまり頭痛、肩こり、発熱等の時にこの蒙色が浮出して之を消すと肩こりが消滅すると共に発汗して風邪が治るから風門と命名せざるを得ない。この様に僧帽筋上に出る蒙色は葛根湯が効くと思つたらよろしい。次に首と肩の境界を首のまわりをとり囲む様に蒙色が出る、この蒙色は首と肩の境界だから、首をちぢめると此処に皺が浮き出し、その皺の上に



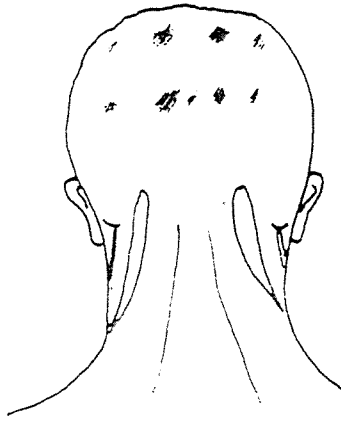
第23図

色がか、っていることが分るもので首を伸したまま、では蒙色を見落してしまうから注意が必要です。またこ、に磁気ネックレスをした人を見かけるが大抵の場合首の径より大きいために肩の上につかって、肝心の蒙色から離れているので、磁気ネックレスは蒙色の見れる人に寸法を合わせてもらうとい、でしよう。

### ○首筋の凝り

首筋の凝りの一番多いのは大陽膀胱経の天柱と督脉の風府、瘻門であつて、その次が少陽胆経の風池、完骨、が代表的でしょう。しかしこの首筋の蒙色は施灸すると大抵上部へ飛蒙して頭部に蒙色を出し首は楽になったが頭が重くなったと云う者が少くない、勿論頭部の飛蒙も消去して治療は完了する。(第23図)

また首のまわらない患者では首を廻す筋肉が胸鎖乳突筋だから、この筋肉の停止する乳様突起の下部に横一列の蒙色を風池、完骨から前面へと伸



第24図

すものである。

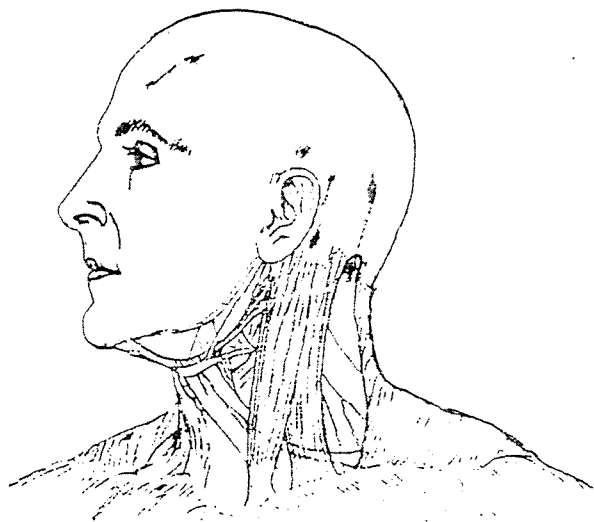
斜頸も此処に蒙色を出し、この位置は胆経であるので体幹部では肝の期門あたりの蒙色を消すことが原因療法になる。吐乳のひどい斜頸の赤ちゃんは完骨周辺の蒙色と期門の蒙色に解蒙ローションを塗った処、翌日、だきかゝえて歩くと吐乳するため肩当てが必要であつたのに、たつた一回のローション塗布ですっかり吐乳が止み、これなら斜頸の治る日が楽しみですと喜んで帰りました。

また首筋の凝りは何れも頭重、後頭部痛を併うもので、頭痛の患者は後頭部と首筋の境界を注意深く探すように心掛けるとよい。

## ○頭痛

前条に引続き後頭部痛の首筋に蒙色のないものや、首筋の蒙色を消して頭部に飛蒙するものは大抵の場合、太陽膀胱経と督脉を上部え向つて飛蒙する。そして後頂、絡却あたりに止まるもの、通天まで伸びるものと色々あるが大抵の場合は頭頂



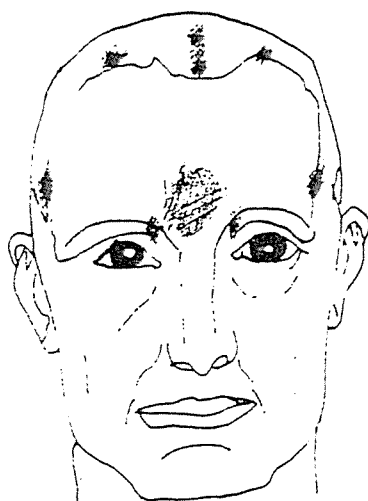


第25図

部で停止してそれ以上には飛蒙しない。(第24図)  
 一方側頭部は眼、齒の故障が原因で頭痛を起すものが多い、大白齒や親不知の故障は耳の後部あたりに蒙色を出し、入齒の不適合や齒槽膿漏は左右の乳様突起から後頭隆起をとり囲む様な蒙色を出すものである。

次に目の故障から来るものは殆んどが少陽胆經に蒙色を出すと云つてもよい。所謂頭痛持や首の凝りと頭痛の合併症が大陽膀胱經に出易いのと対照的である。後頭部では風池、腦空、完骨、耳の上の角孫、浮白、眉尻の絲竹空等が蒙色点で小児の原因不明の発熱、頭痛、抗生物質で下らない高熱がこの蒙色を消すことで片づく。(第25図)

最後に前頭痛は之も眼の故障から来るものは胆經の臨泣、目窓、陽白、督脉の上星、等であるが、古典の医書では角膜の白い所を白、紅彩を睛、瞳孔を瞳と称するから、側頭部や前頭部には眼と頭痛とを同時に治す經穴が多い、浮白、陽白、目窓、臨泣、その他睛明、瞳子髎、承泣、四白、等々沢山ある。また左目を日とすると右目は月、その次



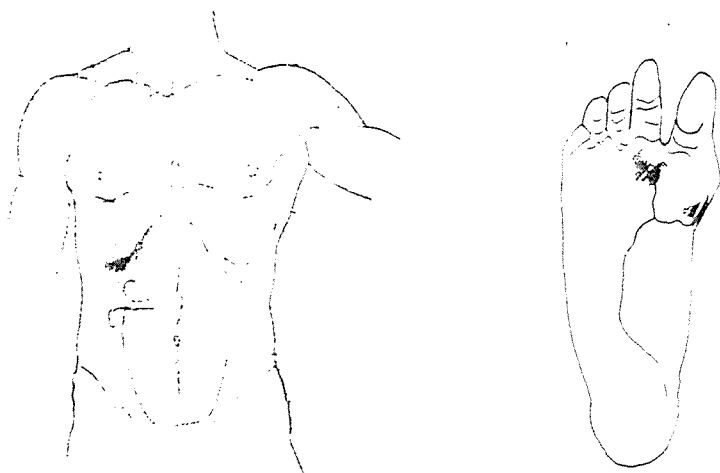
第26図

に明るいものは星だから上星。はやはり眼の治療点になることを物語っている。またうんと烈しい頭痛は三叉神経の第一枝の前頭神経の痛みで之は印堂にはつきりと蒙色を出す。目黒玄竜子著「蒙色望診」に、印堂に蒙色を出すのは頭痛の象とされているが、この様に猛烈な頭痛以外には蒙色を表わさないのが印堂に蒙色が出ていないから頭痛はないと早合点しない様に心掛ける可きである。

(第26図)

## ○痛 風

この病気はリウマチが何年何月頃からという風な表現しか出来ないのに対して何日の何時といえる程、突発的で急性です。一番出来易い所は足の親指のつけ根の所で、蒙色も暗紫色がかつた色で表れます。そしてこの蒙色は消してもさっと消えることが少く飛蒙に飛蒙を繰返して患部が移動します、つまり尿酸ソーダの結晶が動き廻るといふことなのでしょう、この様にして疼痛箇所は足の表面から側面、裏面と移動してゆき軽くなつても



第27図

完全に消失しませんが、ある時皆共通して肝の期門あたりに蒙色が出ているのを発見しました。

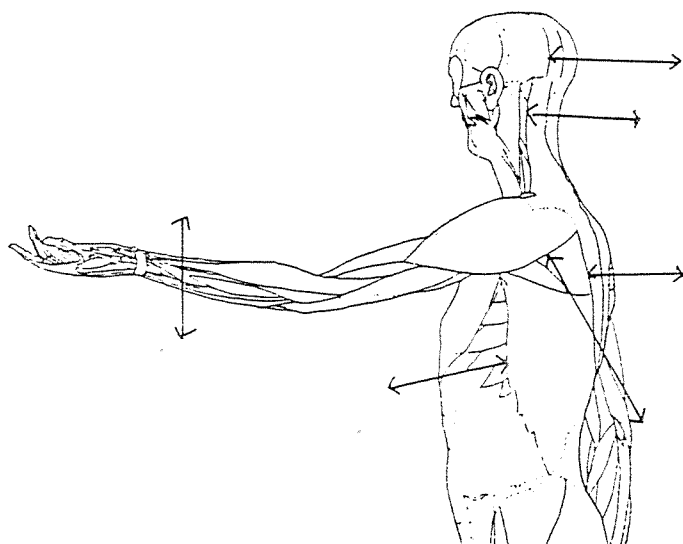
(第27図参照) これは肋間神経痛の肝蒙と同じでこの蒙色を消すと、二、三日で完全に疼痛が消失して足の親指近辺の蒙色も消失してしまいます。

それ以来専ら足を診ることなく肝蒙だけで片ずけていますが、肝臓の代謝機能が低下して尿酸を過剰生産してこの尿酸が血中を廻り足の親指に沈着して痛風を起すものであることを知りました。

また面白いのが、この体質で、昔から帝王病と呼ばれる様に高級官吏、政治家、会社役員、等のぜいたくな生活をする人で、楽天家で、社交家で健啖家で酒豪となると、八面体質で云うMF(男女面)でMFが共通して肝蒙を出すことを考えると、帝王病とはMF病で生活環境を即座に病名にするのは仲々八面的な名称で面白い。

### ○蒙色の消し方

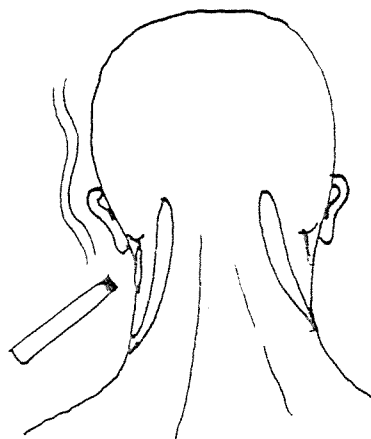
蒙色の正体は凝固した血液(瘀血)だから医薬



第28図

品の抗凝固剤が広く使用出来る。この誌上で登場する解蒙ローションとは、これに近いものを配合した外用剤で気色並に半血色の蒙色を消すことが出来る、しかし血色の蒙色はこの様なもので消すことが出来ないから解蒙灸が必要になる、また鍼は気色並に半血色に奏効するから純血色になると灸になる。また遠赤外線温灸器（ネッサー）も気色から半血色に広く応用出来る、そしてこの遠赤外線は蒙色点は熱く、そうでない皮膚には温く感ずるから蒙色点のみ発赤し、健康皮膚は発赤しないから蒙色の発見器としても使用出来るし蒙色点は熱いのを我慢して何度も繰返し摩擦していると熱くなくなる。すると蒙色が消えたことになり病氣は治癒するから治療器になる。

一方蒙色灸は一般のモグサよりもや、大きくとり力一杯かたくもみ上げるので灸の温度が一般のお灸より二十度位高くなるため刺激量が大きいので何壮もすえる必要がなく、大抵の場合は一壮で症状を頓座させることが出来る。また解蒙ローションの使い方は筋肉の走行と直角の方向に、筋肉



第29図

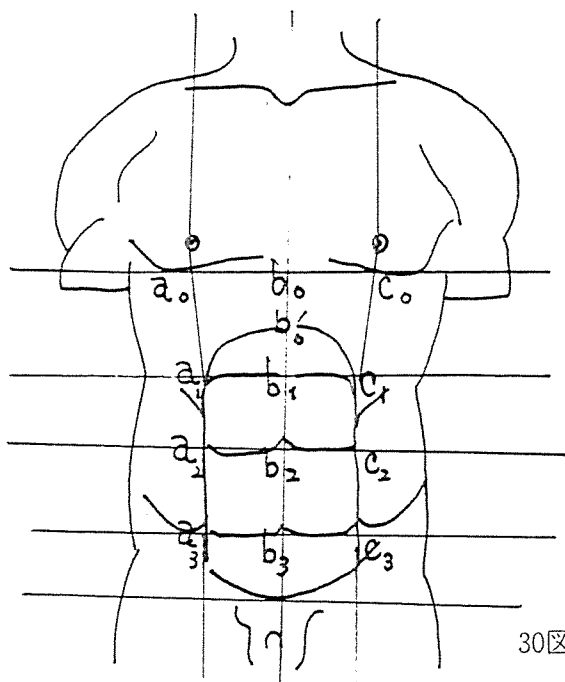
を引かける様に強く塗擦する。そうすると蒙色点  
は真赤に発赤して蒙色は消えてゆく、この様に灸  
でも鍼でもローションでもネッサーでも蒙色点を  
発赤させると蒙色は消えるので皮膚が真赤になっ  
たことを確認して治療を終る様にすべきで、ロー  
ションを軽く塗った位では全く発赤しないから、  
とんとんたたいたり、ゴリゴリこすりつけたりす  
ると簡単に発赤して症状は軽快する、灸や鍼が確  
実だとは云っても皮内鍼や隔熱灸では殆んど発赤  
することが無く、したがって解蒙即治という醍醐  
味は味はえない。そうすると面白味もないから蒙  
色なんかつまらなくなつて挫折してしまうものが  
多い。

また蒙色を消す手段の何物をも持合せていない  
時や、灸痕を作らなくて灸並みの効果を期待する  
時はタバコ灸が手っとり早い。(第29図)

例えば歯痛の鎮痛に最適である。その方法は人  
指と拇指で火のついたタバコを火を先にして持ち、  
人指を蒙色点に接触させる、そうするとタバコの  
火と皮膚の間に人指がさえぎり、火傷を避けると

同時に自由に火を皮膚に近ずけることも出来る、近づけたり離したり二三度繰返して発赤すると同時に蒙色と痛みは消失する。これは灸痕を作ることなく速座に蒙色が消えるから婦人や子供にも適している。

蒙色望診通信講座 中卷



30図

上巻では最も効果の現れ易い手足の神経痛から体の疼痛の蒙色を主として述べましたので中巻ではや、効果は遅くなるが重要な内臓疾患の腹部や腰背部の蒙色に進みましょう。

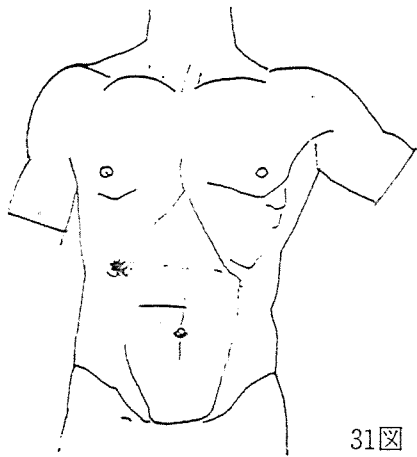
初心者の方の見方は先づ体表の凹みに目をつけることである。上巻では膝窩、肘窩、鼠径溝、腰小窩、筋溝や腱間や骨間の陥凹が一番蒙色の出易い所で古来の経穴でもこの様な陥凹が非常に多い事は注目すべきでしょう。

先づ腹部から始めると二つの腹直筋の間の陥凹部が白線で任脉が走っており、外腹斜筋と腹直筋の間の陥凹を大陰脾経が走っており、これと直交する様に三本の腱画が腹直筋を横断して陥凹を形成している。

次に胸部では大胸筋の下縁が胸部を横断している。そしてこの大胸筋下縁の陥凹こそ胸部の蒙色の好発部位になっている。

そこでこの縦走筋の筋溝にそれぞれ a b c の符号をつけ、之と直交する腱画やそれに類する陥凹に 0 1 2 3 と番号をつけることにする。(30図)





31図

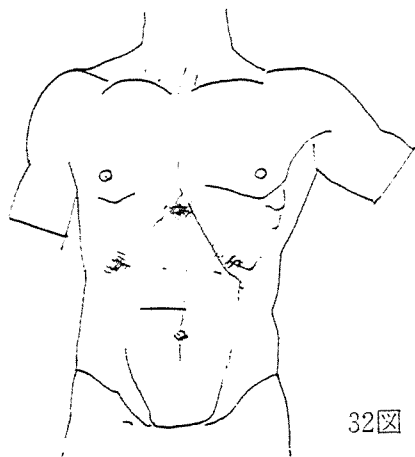
## 肝蒙Ⅰ（肝疾患に特有の蒙色）

肝炎、胆嚢炎、胆石症、黄疸等の肝や胆の疾患はa<sub>1</sub>に蒙色を出す。忘年会で酒の過飲による急性アルコール中毒で人事不省の者に直径1cmの円形の蒙色をa<sub>1</sub>に発見、施灸一発で2分後正常に回復した。また旭川市内の老婦で、たった一人息子がぐれて、その為に落胆して半病人の日々を送っていたが、近くの者が二人がかりでむりやりにつれて来た。之もa<sub>1</sub>に横に細く出ており、施灸二発ですっかり気が晴ればれして喜んで帰って行った。

落胆とはよく云った言葉で、施灸により落した胆を拾いもどしたのでせう。この外脾の蒙色を出す人は脾弱い子が多く、肝に蒙色を出す人に肝積持ちが多いのは偶然の一致ではありません。

痙攣発作、テンカン、ヒキツケ、斜頸、転筋、等筋肉の痙攣する病は同じくa<sub>1</sub>に蒙色を出すものである。（31図）

H市に往診に行った時のこと、家族や患者と一諸に夕食を御馳走になり、酒が入っているので車



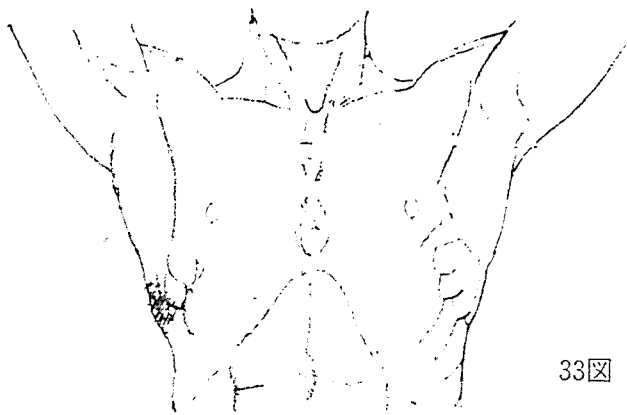
32図

の運転の為に娘さんを電話で呼びました。所がこの娘さん、斜視の軽症で何とかその蒙色で治りませんかと相談を受けた。そりや蒙色が出ておれば治りますよと安請合をしたが、a<sub>1</sub>の位置の蒙気色を解蒙すると家族が治った治ったと騒ぎ出し、娘さんも鏡をみてびっくり、喜んで帰りました。

怒りっぱい、気短、肝積持ちは言葉で説明するより先に手が出るもので（喧嘩の時然り）啞かどもりが案外肝の蒙色を消すと治ります。北九州市の7才男子、キィキィ鳴声とも叫声ともつかぬ声を出して走り廻っている。この子は御飯を手づかみで喰うという。これは気短のせいだろうと思ひ顔を見ると山根を横断する青蒙がある。やはり肝の病と判断してa<sub>1</sub>からb<sub>0</sub>c<sub>1</sub>に連る蒙色を消すと同時に柴胡剤（漢方薬）を与えて治癒した。（32図）

## 肝蒙Ⅱ（呼吸器病）

気管支炎、気管支喘息、気管支拡張症、肺炎、肺気腫、肺結核、助膜炎等の胸部疾患はa<sub>1</sub>より上



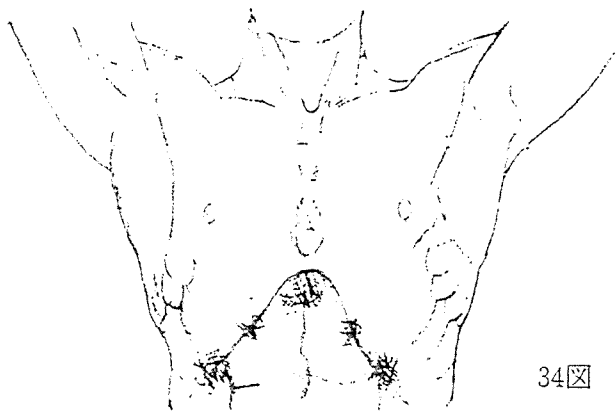
33図

の胸部の  $a_0$  に蒙色を出す。しかもスポットではなくて線状に出るから慢性病が多いものである。肺疾患は主として  $a_0$  から第5助間を外へ廻って側胸部に達する者が多い。そして背中方面へ向うものは、腰眼の蒙色と一体になって発熱を伴う結核、流感、肺炎等がある。この逆に  $a_0$  から  $b_0$  に向うものは心悸亢進、心臓喘息、心臓神経症等の心臓疾患が多くなる。

次に側胸部だけに出て胸腹には全く蒙色を表わさないのに悪性リンパ腫がある。但しこれは腎蒙（腰並に命間、腎俞あたりに出る蒙色を指す）を併う。（33図）

### 胃蒙（胃、十二指腸疾患）

胃炎、胃酸過多、無酸症、胃潰瘍、胃痛、食慾不振、嘔吐等は  $a_1$  から  $b_0$ 、 $b_1$  に向う。 $b_0$  は胃の噴門近くに位置するから胃痛、嘔吐、食慾不振が主訴となる。また  $b_0$  単独で出る蒙色も同様である。胃潰瘍は主として  $b_1$  が多く、慢性化したものは



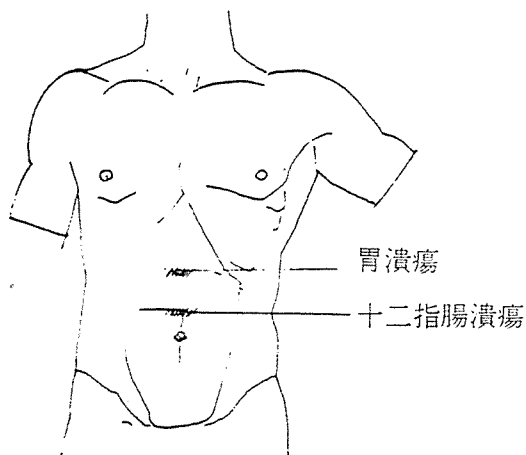
34図

a1 | b1、又はc1 | b1と連続する。その外老人の腰曲りが此の位置から左右に伸る a1 | b1 | c1、の形の蒙色を出す。任脉のbを建里というが建とはシヤンと建てることであり里はすじ道という意味だからやはり腰曲りをシヤンと真直に建てやる横筋なのである。勿論なぜ曲り出したかというと言うまでもなく胃病である。

慢性肝障害は a1 と c1 に丸い蒙色を出す。これは肝障害による脾腫を起している時に多い蒙色で、色の濃い方から消してやるとよい。

胃癌、肝硬変、脂肪肝、肝臓癌の様に胃や肝の重症では a1 | b0 | c1 と連続した線状の蒙色が出て a1 b0 c1 点是一段と大きな塊状に出ると共にその中間にも飛石状に小塊が表れる。(34 図)

またこの様な重症でなくても一週間も連続して宴会に出席するとこれに近い蒙色が出てかなりの酒豪でもこの様な蒙色を出す。酒の臭いを香いだだけで嘔気を催すに至る。また a1 c1 の蒙色は大鼓腹に必ず出る型で、この蒙色を消すと二、三分で大鼓腹が凹むから妙である。十二指腸潰瘍は主とし

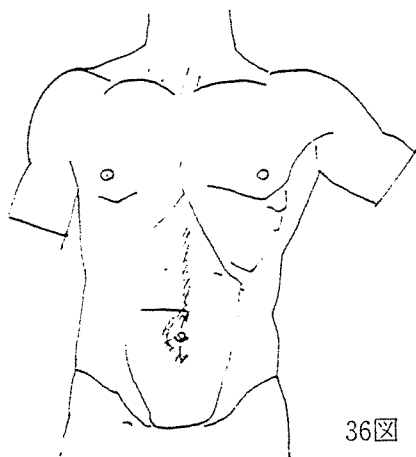


35図

てb<sub>2</sub>点に蒙色を出す、大体縦よりも横に1 cm位のものを出し易い。またこの様な人は山根の下部にも赤点を出し易いから顔の望診からもそれと分るものである。医家は胃潰瘍よりも十二指腸潰瘍の方が難しいと言うが蒙色で治療するかぎり十二指腸潰瘍の方が遥に治し易い。胃潰瘍は一〜二週間もかゝるとすると、十二指腸潰瘍一〜二日つまり1/4の早さで治ってゆく(35図)

### 臍蒙 (腎疾患)

さて今度は真中の臍であるが臍は、蒙色を出す。と臍の穴が黒くなるからよく分る。そしてその周囲まで黒くなるもの、横一文字に皺が出てそれが蒙色を帯るもの等である。此の処は直熱炎が出来ぬからクリームを塗ったり塩灸にしたり、色々な方法があるが、生薬は細辛末を酢で練って臍の穴に充填して絆創膏で固定しておくといよい。病は腎臓関係、特に浮腫、ネフローゼ、リウマチの膝に水の溜るもの、夜尿症、頻尿等の効力を發揮



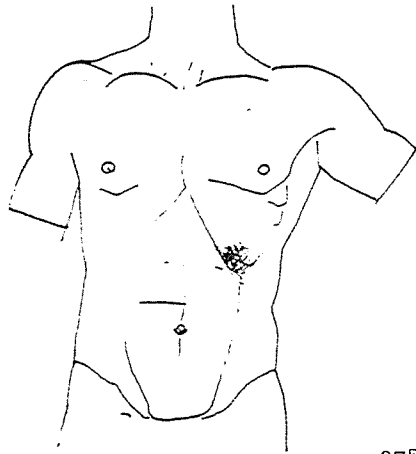
36図

する。

次に上下に伸る蒙色は  $b_0 - b_1 - b_2$  と下って臍の周囲を半回廻る胃癌がある。(36図)この様に線状に伸るものや面状に出るものは難治性の肝硬変とか胃癌に多いもので線状や面状で出るものは初心者は蒙色の目をつかみにくいので先づ蒙色用のクリームで薄いものを先に消し、あとに残った濃いスポットに施灸すると中心をはずすことなく捕えられる。また癌等は飛蒙飛蒙の繰返しであちこちと逃げ歩くから完全に飛蒙点をつぶしてしまわないと再発、転移の原因になるから慎重に追跡する必要がある。

次に  $a_1 - a_2 - a_3$  や  $c_1 - c_2 - c_3$  という型は宿便特有の蒙色であるからどの様な病気であれ先づ宿便の排泄を急務とする。

(宿便とは古便が腸壁にこびりつき、その為に腸が細くなつて、排泄出来ない残留古便による障害であるから、毎日排便があっても宿便は存在する訳で腹の望診と顔の望診で判断する)



37図

### 脾蒙Ⅰ（心臓疾患、脾疾患に特有の蒙色）

心臓弁膜症、心臓神経症、動脈硬化症、高血圧、低血圧、心筋硬塞等は  $c_1$  に主として表れる。また心臓そのものに病気はなくとも心悸亢進を訴える車酔、船酔い等も此処に発蒙する。生来の車酔いで子供時代から旅行した事がなかった60才の老婦がたった二壯の解蒙灸で車酔いが治り以後バス、汽車、電車、タクシー、船も平気で旅行を楽しみ、それ迄の旅行ノイローゼをすっかり帳消しにしてしまった例があります。旅行出来ない病気にこの外夜尿症があります。之も後述する様に解蒙することとで解消します。（37図）

その他白血症がこの脾蒙を特長とする。つまり脾の  $c_1$  あたりに丸く出て、この反対の  $a_1$  にもや、薄い蒙色を出す。

### 脾蒙Ⅱ（呼吸器病）

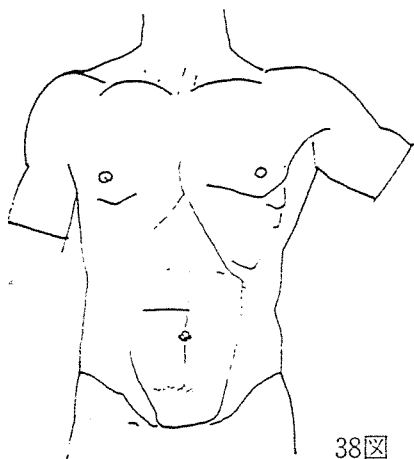
喘息、咳、痰、息切れ吃逆、等の気管支炎、気

顔 貌	氣 質	病 氣
赤面恐怖 陽氣 快活 楽天家	いらいら。 くくくく。 逆い易い かう氣 不安 お天氣屋	車酔い。船酔い。 心臓神経症 心悸亢進 嘔吐。悪心 脱腸。脱肛 夜尿症。頻尿性 吐血。下血。 消化不良 胃拡張。胃下垂症 胃アトニー
黄面憂鬱 沈着 鬱達	悠長 愚図 無精 物臭太郎	胃炎。胃カタル。 胃酸過多。胃痙攣 胃。十二指腸潰瘍 肝炎。胆石症 気管支炎。喘息 肺炎。肺結核。 肋間神経痛。 頭痛。胃凝り。
青面勁積 勇氣 深慮遠謀	おせっかいやき 取越苦労 小言幸兵衛 一言居士	神経質。ノイローゼ てんかん。啞。どもり 痙攣発作

体質と氣質と病氣の一覽表

管支喘息、氣管支拡張症、結核、肋膜炎、心臓喘息等は c1 より上行して c0 に、更に之が激しくなる  
と b0 に続く蒙色を出すことは肝の場合と同様です。  
そして胃症状の悪心嘔吐が加わると c1 ↓ b0 となり  
鳩尾の b0 に蒙色を出すに至る。この關係を氣質  
と病名や症状名で表にすると上図のようになる。こ  
の表の様に顔貌と氣質と病名が一致するものは体  
質病であるから蒙色のみで治療することは困難で  
体質改善法を行わなければならない。一例をあげ  
ると脱肛患者は顔面の青や黄色い人なら蒙色を消  
すだけで簡単に治るが、赤い人は体質病だから解  
蒙だけで簡単に治らない。之の様な人を女面（八  
面体質論）と呼び内臓の結合織の伸び切った人だ  
からこれを締めてやる食養（男面化）を指導する必  
要がある。そして赤面恐怖型を女面と呼び、青面  
肝積型を男面と呼ぶ。詳しくは拙著「八面体質論詳解」  
を御参照下さい。





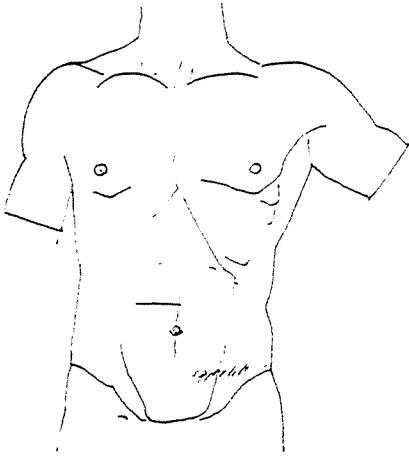
38図

## 婦人科疾患

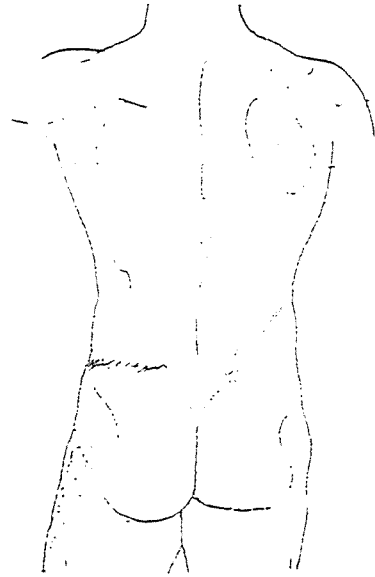
次に肝蒙や脾蒙ほどはつきり病名を表わさないが泌尿、婦人科疾患は腹部の  $b_3$  に多く表れる。主として横に走る蒙色で、此処はあぐらをかいて座ると臍下の横皺の正中に当る。(38 図)

切迫流産は蒙色と赤点で、子宮筋腫、卵巣嚢腫、卵管炎等は蒙色で表れる。その他膀胱炎、夜尿症、頻尿症、腎臓結石、等も此処で尿道結石はもつと下の会陰になる。

子宮筋腫は主として  $b_3$  と足太陰脾経の血海に蒙色を出す。そしてこの蒙色を消すと沢山の汚血を下して筋腫は消失する。蒙色灸単独で下すとなると一ヶ月近く施灸する必要がある。その理由は飛蒙するものが多いのでその追跡に時日を要するの飛蒙しないものは一週間位の連続施灸で下つてしまう。



〔正面図〕



〔背面図〕

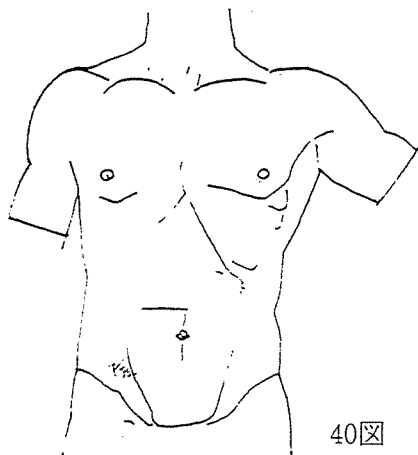
39図

## 腎石

腎石となると  $b_3 \rightarrow a_3$ 、又は  $b_3 \mid c_3$  と横行して腰に廻るものが多い。之も蒙色を追跡しながら消してやると翌日から褐色の砂の様になった腎石が便器の底に残留するから水洗で流してしまわない内に確認する必要がある。そしてこの砂状の結石末を排泄しなくなると飛蒙が残っていないか確認して終了となる。但し胆石、腎石に共通して言えることはM、F（八面体質論参照）の人は結石が排泄し易いのC、Oの人は排泄が困難であるから此処にも体質改善の必要が要求される。（39図）

## 虫垂炎

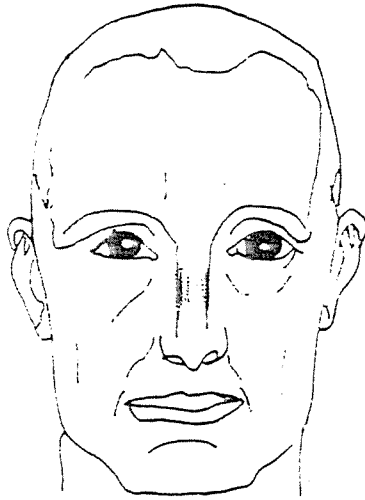
虫垂炎は  $a_3$  に蒙色が出る。気色が出るものは解蒙ローションやクリームで簡単に片がつくが血色で出るものは施灸以外には大黄末による宿便を排除した方が婦人には喜ばれる。



40図

化粧品販売のマネキンさん、蒙色治療の実習をのぞきに来て私は鶴の様にカリカリに瘠せていますが肥れるでしょうかと質問した。上唇は薄く、下唇は厚いので貴女は生れつき食の細い人で好き嫌いが烈しくそのためあまり肥れませんが結婚して妊娠すると何でも食って肥って来ますよと云うとビックリして私の母が全くその通りですと驚きぜひ私の体も悪い所がないか診て下さいと言う。蒙色はa3に細く長く血色の蒙色が出ているだけで気色はないし、そこで大体食べるものが少いから出るものも少く便秘気味だがその上虫垂の位置に蒙血色があるから時々下腹部が吊ったり痛んだりする筈だ、出来れば大黄で下したらよいが放っておくと虫垂炎の可能性があると言うと首をかしげていたが腹痛らしいものもなかったので放っていたのでしよう三ヶ月後虫垂の手術をしたと報告がありました。(40図)

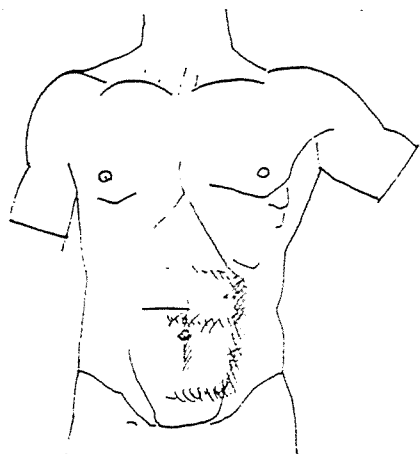
年上の褐蒙



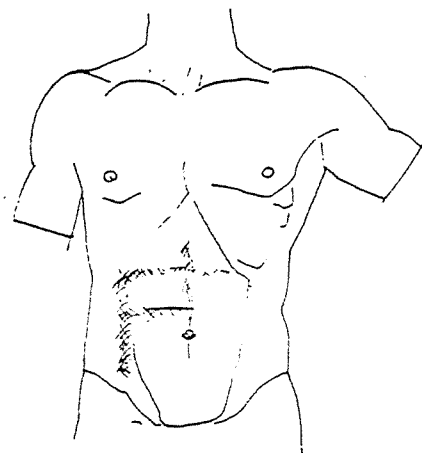
41図

## 宿便

縦に連続する蒙色の宿便は目里玄竜子原著の「蒙色望診(全)」に詳しいから重複を避けるが少々追加すると宿便が溜ると一番弱い所が犯されて発病する。その病名は前述の虫垂炎、腹膜炎、子宮筋腫、腎臓病、肝臓病、糖尿病、脾臓炎、痔、精神病、耳鳴、頭痛頭重、視力障害、味覚障害、臭覚障害と多種多様であるが、どんな病名であれ患者の鼻の年上、寿上を一見して褐蒙を発見したら迷うことなく宿便のせいとみてよろしい。(41図)治療法は腹の蒙色にずばり施灸してよろしいが之はむしろ下剤の適応症になる。下剤には色々な種類があるが腸全体に利く硫酸マグネシアや界面活性剤や植物繊維剤に、大腸のそれぞれの位置に効く、大黃、アロエ、カスカラサグラダ、フェノバリン、ラキサトル、センナ、等があるが専門家は宿便の溜っている処にズバリ効くものを選ぶべきである。また単なる便秘は直腸内の溜りであるから浣腸で充分である。



センナ・アロエ適応

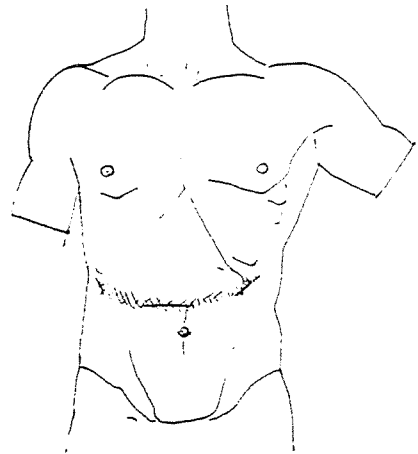
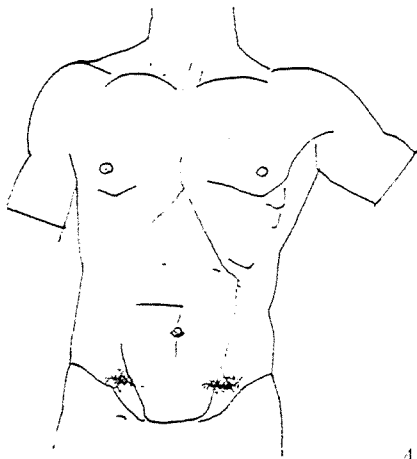


大黃適応

42図

専門家の為に年寿と腹部の蒙色と下剤の関係は年上の褐蒙は腹部では a1 a2 a3 か a1 b1 c1 の蒙色で主として大黃を、寿上の褐蒙には腹では c1 c2 c3 か a3 b3 c3 の蒙色でアロエ、センナ等でよろしい、また準頭の褐蒙は腹には出なくて浣腸でい、ということになります。(42図)

知人の80才の田舎の母親が悪寒戦慄発熱で医者から注射やら手当してもらったがちつとも変らないとの事、早速田舎へ帰って母親の顔を見ると、準頭が赤褐色になつていたので便通の有無を聞いた所、そう言えばそうだとの事で浣腸二本で沢山の排便で下熱しましたと言う。またこの手を逆用しますと、準頭のみみず腫れには皮膚科に行くよりもセンナ葉を3gのませてすっきり治した治験例もあります。準頭は浣腸を与えるべき直腸の便秘ですがその隣のS状結腸に効くセンナ葉でも代用してよろしいという例です。



43図

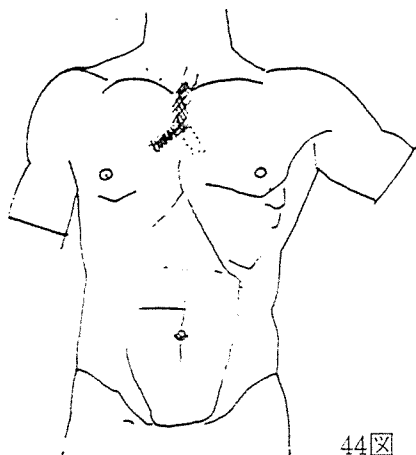
## 糖尿病

最後に左右の腹部を帯状に連結する蒙色がある。それは  $a_2 - b_2 - c_2$  で糖尿病に特有です。但しこの蒙色が中央で連続せずに中断するものは食事によって糖が出たり出なかったりするが之の様なものは食事療法だけで糖を押えられるが根本治療ではないのでやはり解蒙の方が早い。また視神経萎縮症や角膜軟化症がこの蒙色と同じで原因は糖尿か宿便と考えてよいものかも知れない。症例が少くて断言出来ない。(43図右)

更にその下の  $a_3 - b_3 - c_3$  の帯状の蒙色はヘルニアの子供に共通したものでこれは宿便が原因であるとはっきり言える。(43図左)

## 呼吸器疾患

胸部の陥凹で第一の大胸筋の下縁の陥凹は前述したので次に鎖骨外端の下部で三角筋大胸筋三角(モーレンハイム氏窩)がある。この位置は経穴の

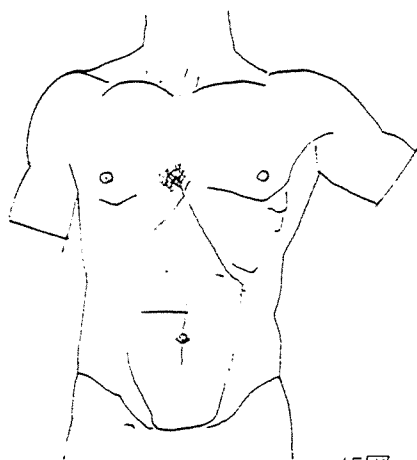


44図

雲門があり、こゝは骨度法で取穴するのではなくいきなり陷凹そのものを取穴するので経穴と蒙色点は一致する。

肺結核はこの雲門から中府を通つて任脉の紫宮か玉堂に達する蒙色を出すに至る。咳でもこの蒙色を出している人は結核性だから油断出来ません。更に之に肝蒙と腎蒙が加わる複合した蒙色が肺結核の特徴です。また空洞所在は中府かその一横指下の所に直経1〜2 cmの円形の白気が出てその周囲を蒙色がとり囲みます。だからこの点をマジックインキで印をつけレントゲン写真を撮らせないと空洞の位置がピッタリ一致します。

気管支炎、気管支喘息、気管支拡張症等は胸骨上を左右に一对の蒙色を出す。この位置は少陰腎経の上で大胸筋の胸骨附着部の陷凹である。W市の急性気管支炎の40才男子の患者には胸骨上を下降する蒙色が紫宮あたりで右下へ2〜3 cm伸びていた。勿論右気管支炎で咳込むと右胸が痛むという。これもレントゲン写真をみる様だ。(44図)



45図

## 心因性疾患

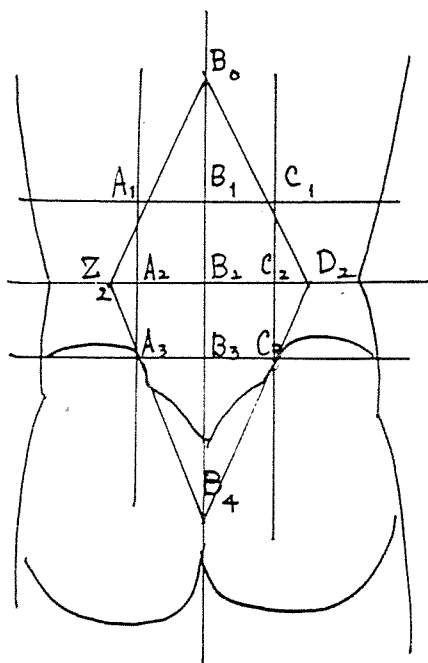
心の病は膈中に表れる。(45図)

例へば咽喉に物がひっつか、った様でのみ込んで下らず吐いて出ず全くやりきれないと言う人や食事は何んでも平気でのみ込めるのに錠剤やカプセルは咽喉につまってどうしてものみ込めないというもの、酸素欠乏症、空気嚥下症(呑気性)、大腸神経症(便秘、下痢)、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、偏頭痛等は膈中の蒙色を消してやると直ちに気が晴れてサッパリするものや、カプセルが水なしでのみ込める様になったり患者は不思議がる。この様に心因性の病気は此処に表れるから全身をくまなく望診してか、るべきで胃潰瘍は必ずbiと決めてか、ると膈中の蒙色を見落すことになる。

## 腎蒙 (腎、腰の病に共通する蒙色)

今度は人体の背面の陥凹を探ってみよう。第一番に目につく所は腰部の胸腰筋膜の菱型のくぼみ





46図

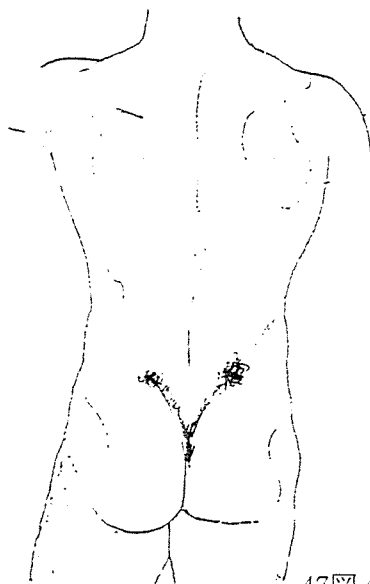
である。そして腰部の蒙色は此処に集中するので腎蒙と呼ぶことにする。この胸腰筋膜の菱形も脊椎と左右の最長筋、左右の腸肋筋で縦に4分され、横には腰眼線、腰三角の上端、第12胸椎の線で3分する。そして腹部同様に左からA B C上から1 2 3と番号をつけると、46図のようになる。先づ仙骨三角の下端のB<sub>4</sub>から始めることにする。

痔の蒙色はこのB<sub>4</sub>から出発する。軽症ではこの三角上の上に、重症ではA<sub>3</sub>、C<sub>3</sub>の腰眼に向って枝を伸す様になる。

### 痔疾患

この痔も蒙色を消すことで即刻手術を要する程の重患でも、一週間連続の蒙色灸で簡単に治すことが出来ます。この即刻手術を要する重患とは、痔瘻のことです。

痔瘻がわずか一週間の施灸で治る位だから、脱肛や痔核、裂肛は更に簡単です。



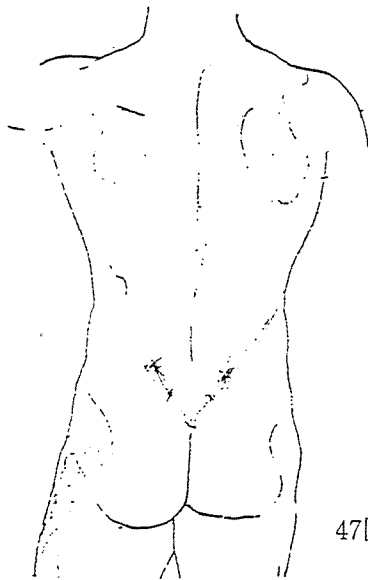
47図A

しかも蒙色治療は根治療法だから、手術等は始めから考える必要はありません。簡単なものから重患まで割合いに蒙色の長さから分りますし、素人治療でも危険がなく手軽に治せます。知人友人にこんな方があれば、是非治してあげて下さい。喜ばれること必定です。

**脱肛 外痔核 肛門裂創の初期** 腰かけることが出来ない、坐れない、自転車にのれない、という程度のは、蒙色灸は要りません。加里石鹼で洗うことで治ります。この加里石鹼の洗滌治療法は次のように二点に注意して下さい。

第一に入浴すること。第二に掌に加里石鹼をよく泡立て、局部を一回の入浴中に五、六回洗滌すること。五、六回も洗滌するなら塗った方がよく効くなどと思って塗ってもそれは効きません。

この加里石鹼洗滌で、軽い人は一回で痛みがとれますが、再発せぬために連続もう二回位の入浴洗滌が必要です。痛みがとれたからといって、一回きりで止めてしまう人が多く、これではとても治りきりません。しかもこういう人が痔持ちに



47図B

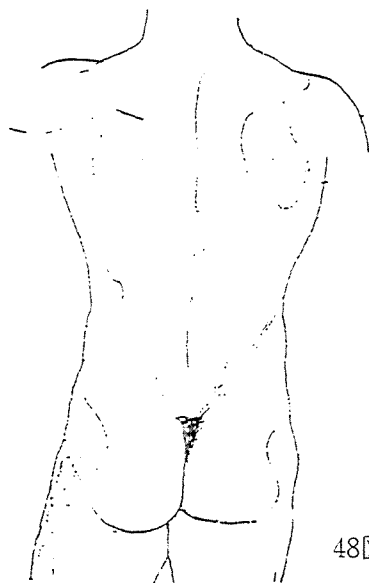
は多いのです。大体痔を患う人はこのような気短かな性格の持主が多いものです。機会ある毎に観察してみてください。

痔瘻 脱肛 痔核の重症 これは加里石鹼位では及びません。

六十五歳男子、一度痔の手術をしたが再発して閉口し、いよいよ再手術してもらうつもりでかかりつけの病院へ行つた所、室がふさがっているので一週間程手術が延びた、といって青い顔して出てきました。体の蒙色は47図Bの様にB<sub>4</sub>よりA<sub>3</sub>C<sub>3</sub>にV字型に伸びている。そこで「この様な蒙色なら手術せずとも一週間も施灸を続けると治りますよ」といって施灸をはじめたら、五日目にT字帯がとれ、七日で治癒しました。これは左右共三点宛施灸しました。(同患者の五日目の蒙色47図B)

この人は三ヶ月程化膿していた痔瘻であり、初回で痛みがなくなった例です。つまり肉が盛り上って来て患部がふさがった治癒です。

第48図の蒙色はB<sub>4</sub>を頂点とする三角形に出て、



48図

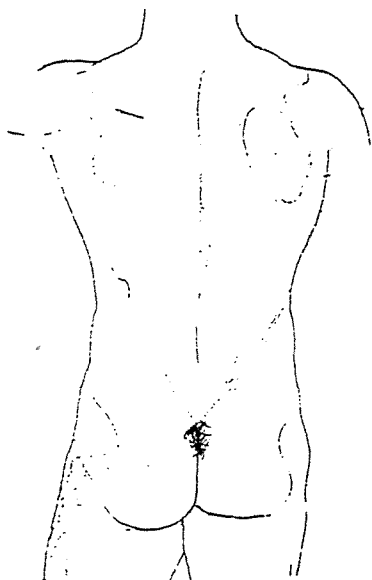
この形は随分多く出るもので第47図よりも蒙色の面積が少いから軽い場合が多い。

これも蒙色によって病名が異ることがなく、肛門裂創、外痔核、内痔核、脱肛、痔瘻とも同じ出方をします。

蒙色の位置は尾骨の中心よりも右寄りに出たり、左寄りに出たり、真中に出たりするから、施灸の時はその中心を見極めてから施灸して下さい。(黒いところは皆蒙色だからということ。幾個所へ据えることは、熱いばかりで効果なしです。台風に目があるように蒙色にも目があり、その中心を狙うのです。)

十数年前、六甲山のホテルに宿った時のこと、ホテルの女中さんが足をひきずりながらゆっくり歩いている。事情をきくと脱肛で、こんなふうにしかな歩けませんという。「尻を出す勇氣があるか」ときくと、「この苦しみにくらべたら何でもありません」というから、早速裸にならせてみてあげた。

蒙色は第48図のように三角形に出ているので、



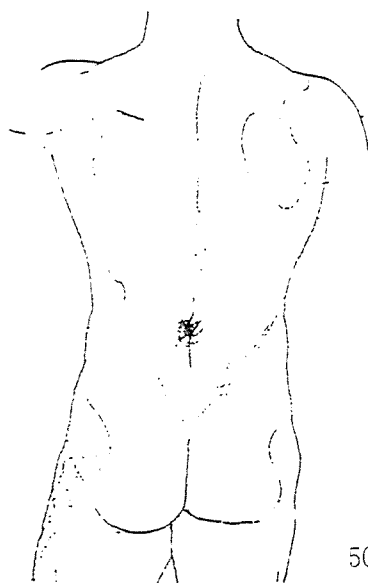
49図

中心に一壮すえると、3〜4 cm位い出ていた脱肛が忽ち還納して了った。本人は全くの一発即治に驚くやら喜ぶやら、飛んだり跳ねたりの喜びようでした。

同じB<sub>4</sub>に出る蒙色でも特と全く関係のない歩行しだしたら自分で止ることが出来ない運動障害がこゝに蒙色を出す。これは本人が手を前に出して壁に向って行き、手をついてやっと止る奇病で蒙色が大きく消失する迄に一週間もかかって治りました。(49図)

### 神経運動器病、腎臓病

下肢神経痛、下肢静脈瘤、上肢神経痛、リニーマチ、関節炎、腰痛、月経痛、夜尿症は腰眼というA<sub>3</sub>C<sub>3</sub>に蒙色を出す。このA<sub>3</sub>、C<sub>3</sub>の位置と腹部のそれと比較してみると共通点は月経痛と夜尿症の泌尿、生殖器病だけで過半数を占める神経痛は腹部にはなく腰部の専門である。

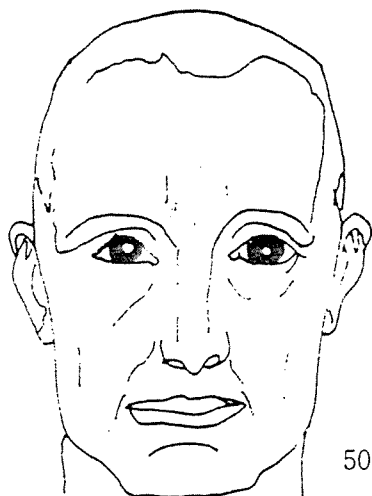


50図A

次に腎俞や命門に当るA<sub>2</sub>B<sub>2</sub>C<sub>2</sub>に蒙色を表すものは生殖、泌尿器、眼病がある。腎俞の名の通り腎臓病に出易い場所で親指に灰をつけて皮膚に押しつけた様な蒙色を出すものから縦か横に伸る血色状のもの、一面のべた蒙まである。そして腹部では臍の蒙色と同じく腎臓病が共通している。

腹になくてこの位置に特異なものに急性伝染性疾患の感冒、流感、小児マヒがある。次に肺結核肺炎、助膜炎、腹膜炎、腎炎、子宮内膜炎、骨盤腹膜炎や、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科の炎症で多くの感染症がこの蒙色に関係する。東洋医学の古典にはこの命門(B<sub>2</sub>)に守邪之神があり、命門の陽気の在る所で先天の元気の宿る所とされている。

守邪の邪とは外感のことで風、湿、燥、寒、熱、火、の六邪をさしており、この風とは風のように次から次へと感染する感染症を含んでいる。そこで感染を起す病原菌の細菌やウイルス、カンディダ、糸状菌、ヘルペス等から身を守る神がこのB<sub>2</sub>の命門に在るということである。(50図A) また腰の命門に蒙色が出ると顔の命門にも蒙色が表れる。(50図B)



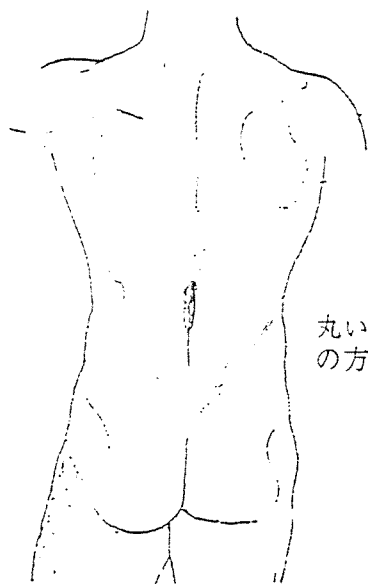
50図B

## 流感

先づインフルエンザの重症でもこの蒙色を消してやると39°、40°近くの熱も半日程で下ってしまう。もつと軽いものなら商陸や夏枯草の様な副作用の少ない利尿剤を買って来て煎じて服めば良い。極言すればビールでも飲んでせいぜい利尿しなさいと言える。私のこの話を聞いていた国際鍼灸科(M東洋医学院)のペータ君が「先生、ドイツの家庭では風引きにはビールを燗して服むと発汗してすぐ治ります」と言う。成程ドイツの家庭療法も太したものです。

## 中耳炎

同じ場所のB<sub>2</sub>に同じ大きさで出る蒙色に急性中耳炎がある。これも一、二回の解蒙灸で平熱になり耳だれが始めていても簡単に治ります。(流感や中耳炎の様に有熱時は灸は避ける様になって



丸いものより細長いものの方が重症です

いますが施灸点が一、二点で灸壮が一二壮なら差支えありません。しかし初心者はやはり熱が出ますから避けた方がい、でしよう。その他腎臓の病氣というと腎炎、ネフローゼ、萎縮腎、腎盂炎、蛋白尿と腎臓関係の病氣は何んでもこの蒙色を探して下さい。スポットの出方は一発で解消します。之が横へ伸びたり上下に拡がったりするものは時日を要します。(51図)次に足によく出来るものに水虫があります。

## 水虫

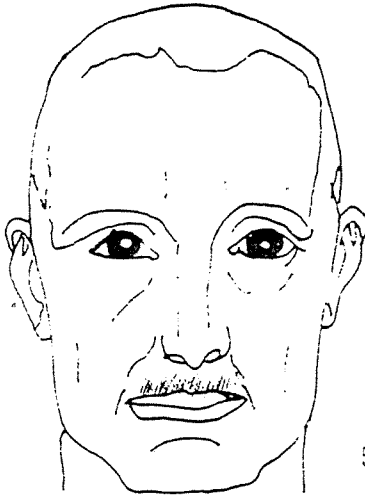
水虫を皮膚科の専門書で調べますと、水虫や田虫は白癬菌という一種のカビが皮膚の角質層に寄生したために生じた皮膚病だと書いてあります。

そのために、このカビを殺す薬の研究を盛んにやっています。①

次には皮膚の角質を溶かす薬②を配合すること。更に角質の奥底にまで浸透する薬を配合すること。③



食禄の蒙色



52図A

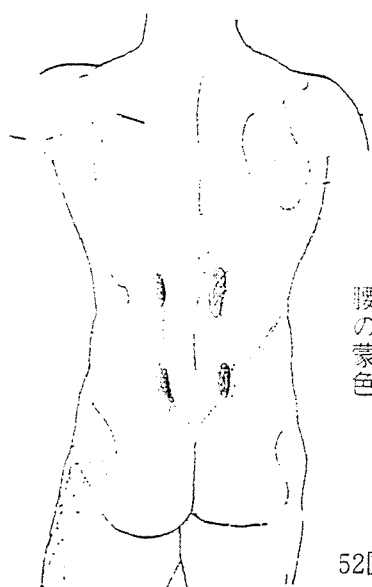
この①②或いは①③を配伍したものが市販の水虫薬です。ところが一向に水虫は治らないから困ったものです。

寝込まれる程の病人になると、大小便の世話をしなければならぬし、伝染性の菌についた皮膚を、朝から晩までかきむしり散らかすし、ボリボリ一日中かいていられては、家族の者もあまり氣持のいいものではありません。まして他人は益々眉をひそめるでしょう。——白癬菌の殺菌剤というものはここでは一応棚上げにして、体質学的見地からこの問題を考えてみましょう。

一合の酒で苦しくなるほど酔ってしまふ人もあるし、一升酒を呑み干してもケロリとしている者もある。これは酒の強弱の方に問題があるのでなく、体質の相違です。水虫もそうです。

かかる人とかからぬ人とかがある。面白いことに世界中の子供という子供は水虫にかからない。これはなぜでしょうか。

靴をはいていると足がむれるから水虫になりや



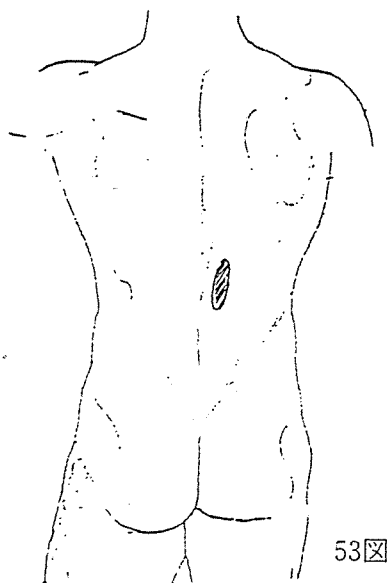
腰の蒙色

52図B

すいという。(靴にも牛革製・ズック・ゴム・合成皮革あり、さまざまですが)同様に肌を並べていても、かからぬ人はかからない。

頭寒足熱とは、いつの時代をも通じての健康法であるのに、建築してから完全に湿気をぬくには二十年かかるという鉄筋コンクリート内での靴ばき生活、椅子生活をし足を動かさず頭ばかり使っているかどうか。仕事熱心な人は「のぼせ冷え」になるし、さぼり屋は「冷えのぼせ」になりどっちみち頭熱足寒の状態は変わりません。だから年中動きまわっている子供や外廻りのセールスマンに水虫の人がなく(少く)事務系統のサラリーマンが真先に洗礼をうけることになる。

水虫とは読んで字の如く水を扱う水商売の人に多いところから生まれた名前で、事実そういう人に多い一種の職業病みたいなものであります。昔は紺屋(染物屋)でしたが今は豆腐屋、こんにゃく屋、生うどん・そば製造業者魚河岸の兄さん、板前さん、長靴をはいたり高下駄をはいたりして、



53図

一生懸命湿気を遮断しようと努力していますが、それでもなる。

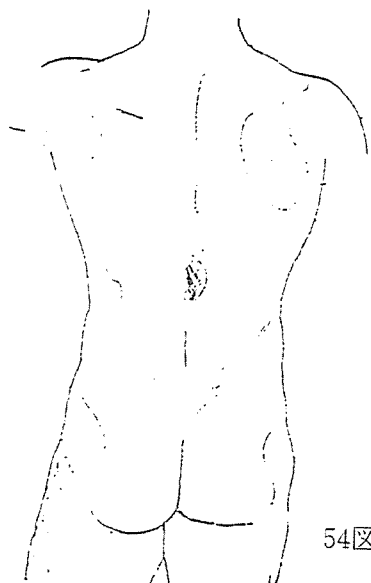
そこで今度は顔にうつります。水虫になりやすい下の冷えた顔はどんな顔か。第一に食禄が曇る。年中腰の冷えている人しかり。急に水風呂や海水浴で長居する人しかり。つまり食禄の曇りと腰の蒙とは比例します。(52図A B)

この蒙色を消してしまうことが水虫退治の秘訣です。水虫体質を治し、子供のような体質にする。水虫そのものを治す治験例。

東京の会で蒙色の実習ということになったが適当なモデルがない。見廻すとステッキをついた足の悪い人が一人いました。事情をきくと、毎年夏の二ヶ月は寝込んでしまうほどの重症の水虫患者です。

「そんなら蒙色から水虫をみると、わけなく治せるから、灸一二発の辛抱ができるか」と尋ねると、「包帯巻いて、ステッキ片手に歩くことに比べると、灸の辛抱ならお安いことです」という。

蒙色は、右腎俞の真上に一つ細長く出ている。(53図)



54図

例の如く灸三壮で蒙色が飛んでしまいました。

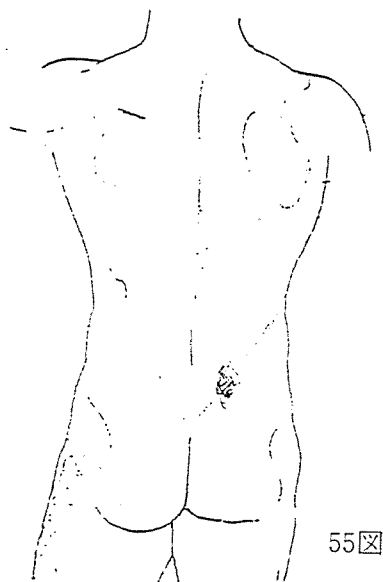
それから会食になり、酒が出て、その人も談論風発。やがて、散会となって帰りがけたとき、女中が走ってきて、「お忘れものです」という。その忘れ物はステッキ一本でした。

水虫は注意すべき蒙色について一言しておきます。

- ① 相当重症でないと水虫の蒙は出ない。
  - ② 出る時は、背骨を挟んで両方か片方に出る。また背骨の上にかかる場合もある。
  - ③ 局部療法として水虫薬、蒙色軟膏の併用は一層効果を早める。
  - ④ ステッキが必要な程の重症には灸が一番早い
- が、中・軽度のもは蒙色軟膏で充分。
- ⑤ 蒙色の大きさは直径一〜二cmで形は殆んど円形か楕円形である。

## 眼病

結膜炎、角膜炎、中心性網膜炎、虹彩毛様体炎



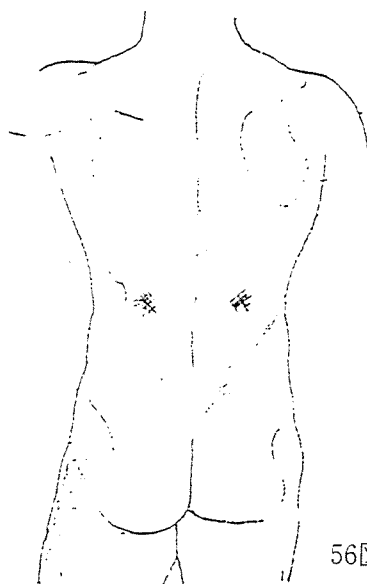
55図

パンヌス、フリクテン、トラコーマ、ブテリギウム、弱視、眼瞼炎、白内障、黒内障、緑内障、これ等の眼病は $A_2C_2$ か $A_3C_3$ に蒙色を出す。更に之が伸びて $Z_2D_2$ に達する程重症である。そして肝蒙も併うものである。

東京40才台婦人、数年前より眼に霞がか、った様になり午後はひどく、全く濃霧の中に居る様だと言う。蒙色は命門の $B_2$ に直経1cmの円盤状があった。之を二壯の灸で消すと突然患者は線香の火が見えると大声をあげ煙が見えると叫び三壯ですっかり蒙色が消えたとき私の顔がハッキリ見え私があり若かったので二度も驚いていた。(二十年前)(54図)

緑内障の診断を受けた40才婦人来月早々に友人の眼科で手術する予定だと相談を受けた。みると右腰眼の $C_2$ に直経7mmの蒙気色を発見、早速解蒙してあと二回施灸後再診を受けてみなさいと告げました。再診の結果は異常なしで手術する必要はありませんでした。(55図)

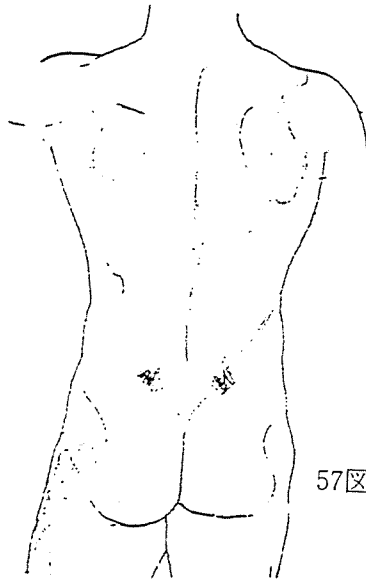
## 婦人病



56図

月経痛、月経困難、無月経、閉経、子宮出血、  
 帯下、更年期障害、血の道症、卵巣機能不全、  
 同脱落症、子宮後屈、子宮内膜炎、付属器炎、メ  
 トロパチー、子宮筋腫、卵巣嚢腫、骨盤腹膜炎、  
 流産癖、不妊症、乳腺腫瘍、子宮癌、乳癌、遺精  
 夢精、早漏、陰萎、睾丸炎、等は  $A_2 B_2 C_2$  のどれか  
 に蒙色が出ます。(56図)

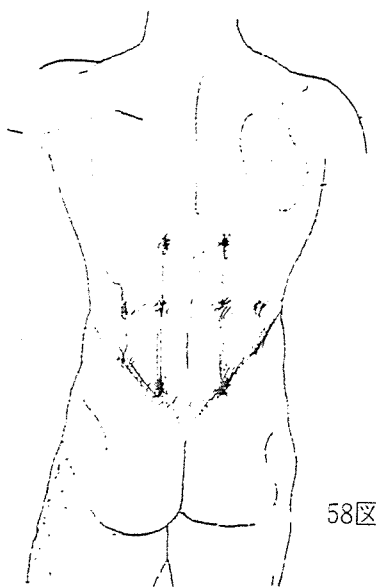
50才婦人、左右の小鼻が最近赤くなり目立つて  
 困るという相談を受けました。小鼻は金甲とい、  
 卵巣を表すから体をみましようと腰部を見ると腰  
 眼  $A_3 C_3$  に蒙色がある。これを消してやると成程小  
 鼻はキレイになるがもう上っていた生理がやって  
 来た。何とかありませんかという。  $A_3 C_3$  を放って  
 おくとまた蒙色が出て来て成程生理はなくなつた  
 が又、鼻が充血するという厄介な患者でした。卵  
 巣機能不全又は脱落症というのでしよう。(57図)  
 月経痛は解蒙即治です。不妊症は  $A_3 C_3$  が  $A_2$



57図

C<sub>2</sub>が $\frac{1}{3}$ でした。共通した冷症の体質で顔の臥蚕は黒ずんで乳頭は薄いピンクで赤黒くならない。施灸と共に下半身全体が暖くなり臥蚕の蒙色が消えて頬に赤みがさして来る。次に一番上部に当るA<sub>1</sub>、C<sub>1</sub>には単独では蒙色を表わさない。むしろ下から上行する蒙色の終末点や腰のべた蒙の上限として表われる。(58図)

そして縦に上行する蒙色にはA<sub>1</sub> A<sub>2</sub> A<sub>3</sub>とC<sub>1</sub> C<sub>2</sub> C<sub>3</sub>がある。A線とC線と二列に上行するものは腎臓病、生殖器病のみならず、高血圧、低血圧、動脈硬化、アレルギー性喘息、気管支炎、心臓喘息、等がある。更にA<sub>2</sub> B<sub>2</sub> C<sub>2</sub>から横にZ<sub>2</sub> D<sub>2</sub>と枝を出すものから腰眼のA<sub>3</sub> C<sub>3</sub>点からA<sub>2</sub> C<sub>2</sub>とZ<sub>2</sub> D<sub>2</sub>と放射状に開くものは子宮癌、乳癌、小児マヒがある。次にこの胸腰筋膜の菱形の凹み全面に蒙色を出すものが一番重症で単なる泌尿器や生殖器病よりももっと広範な内臓疾患の複合症とでも言うべきもので呼吸器、循環器、消化器、泌尿器と全臓器に及んでいる。それはこの胸腰筋膜には肝、胆、脾、胃、三焦、胃、大腸、小腸、膀胱までの全俞穴を



58図

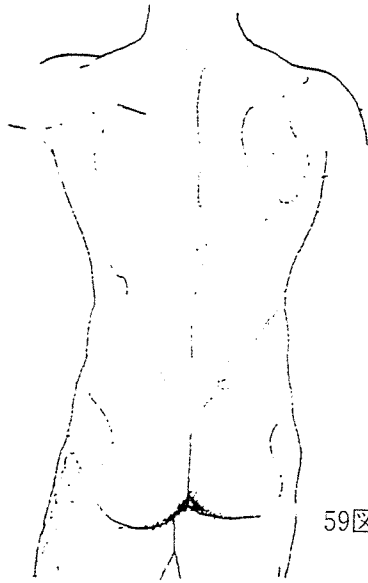
包含するからであろうか、同じ泌尿器疾患でも腰部に出ない例外に前立腺炎がある。

### 前立腺炎 (59図)

これは会陰部から殿溝にそって中央に向って蒙色を出す。九州のある市長さん、前立腺肥大で的確な治方が無くもうあきらめていたが、この蒙色を発見、遠赤外線治療器で放射した所、尿が楽になる様になって人生に希望がもてる様になったと大変喜んで帰りました。その他尿道結石、帯下がこの場所に丸く小さなスポット状の蒙色を出す。

十八才女子、一週間後に結婚式をひかえそれ迄に帯下を治してくれという。そんなに簡単にゆくかどうか分らぬが一応体蒙をみましょうと裸にしたが何処にも出ていない。そこで止むを得ず会陰部をみると一点斑点の様な蒙色がある。灸一壮で消失、めでたく結婚したと連絡があつた。次は胸椎上の蒙色に参りましょう。





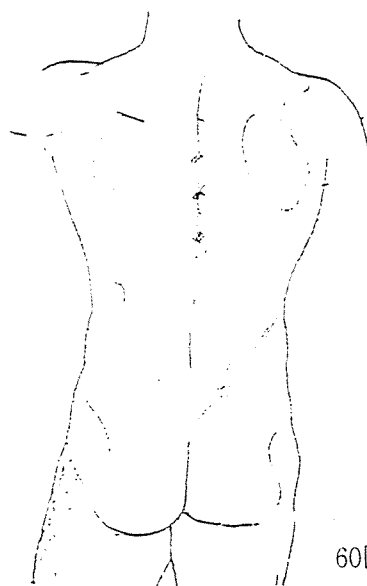
59図

結膜炎、角膜炎、中心性網膜炎、仮性近視、腎炎、ネフローゼ、萎縮腎、心臓喘息、心臓神経症、心臓弁膜症、高血圧、低血圧、テンカン、眼球振盪症、メニエール氏症候群、百日咳、喘息、神経衰弱、ノイローゼ、精神分裂症、ヒステリー、燥鬱病とこの蒙色も腎蒙に負けない多才ぶりである。そしてこの様な多種多様な病状も源をたどってゆくと腎虚による水を併う上衝です。だから此処の蒙色のみならず腎蒙を除くことが急務で更に臍傍の蒙色を消して水さばきを良くすると治療は終了です。(60図はヒステリー患者の蒙色です)

### メニエール氏症候群

眩暈には高血圧や低血圧の為におこる血圧性のもの、血流に関係ある血の道症、水の変化によるもの、三半規管の原因のある耳性等色々な原因があげられているが、その代表的なものにメニエール氏病がある。

このメニエール氏病も現代医学的な原因が追求さ



ヒステリー

60図

れているが、その一つに胸椎の異常がある。

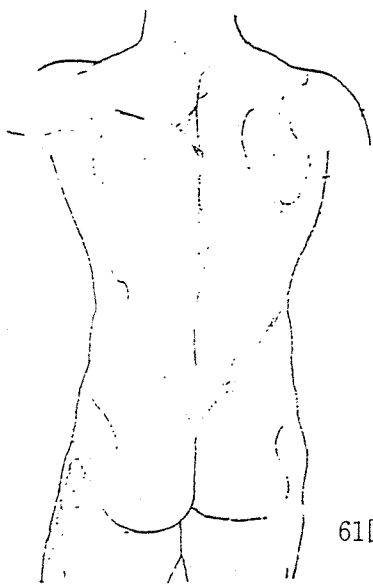
蒙色ではメニエル氏病の原因はこの胸椎の異常と思われる第三、第四胸椎近くから頸に昇る蒙色だけであつて、現代医学の頸椎の異常と合致していて面白い。

未だ数人の治験だけで何十例とみたわけではないので、全部が胸椎から頸椎の蒙色だと断言出来ないが、みた人は全員此処に蒙色があり、これを消し去ることによつて全部治療した。

蒙色は61図Aの様に直線のようなものや、斑点の様なものは少なく、いずれも蛇のように曲りくねりながら上昇している。

この曲りくねりながら上昇する蒙色は特異で（他の病気の場合に出る蒙色と異つて）他の体表には、まだかつて表われたことがない。この曲りくねること自体に意味があるのだろうと思われるが、症例が少くて未だその意味を理解するまでは至っていない。

またこの蒙色の中心に灸をすえても色は薄くなつて消失するがその形は変えない。他の体表なら形



61図A

と色を変えながら消失してゆくのに――。

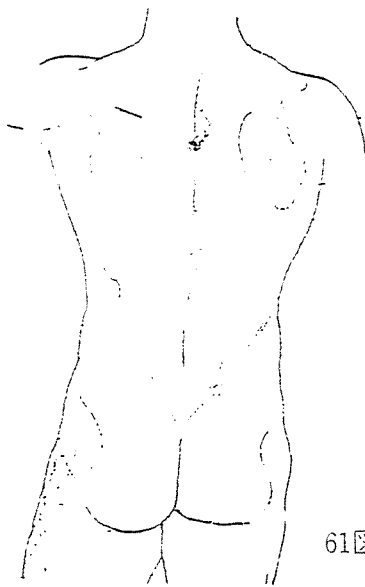
この蒙色も(他の病気の場合の蒙色と同様)消し去れば症状は直ちに去り烈しい眩暈のために付添いと一諸に來た病人でも、付添いがあきれているのを尻目に帰ってゆく。

最もドラマチックなものには、淡路島の福良へ魚を食いに行った時のことだった。

翌日午後の時間をもてあました一行は、旅館の女中の蒙色治療無料サービス(私の「蒙色講義」の受講者たちなので)をすることにしたのである。十人ぐらい集ったが、その中に肘関節の複雑骨折をした三十歳ぐらいの婦人がいた。この人はなんでも自転車から落っこちて、二度とも右側へ倒れ、一度骨折したところを更に重複骨折したというのである。そこで肘関節の内側と外側に出ている蒙色を消し、次の患者の番になった。

すると近くに泣き声が聞えたので、まわりの人がどうしたのかと聞いてみると、例の複雑骨折の女性である。

その人のいうのには、顔がかゆかったので、思わ



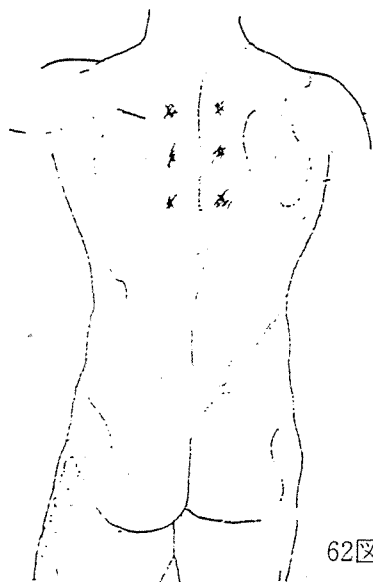
61図B

ず掻いてしまったが、今まであがらなかった手が顔まで上ったのでハッとし、更に頭髮まで手を伸ばしたところ、これも出来た。あまりの嬉しさについ泣いてしまった、というのである。

われわれ男には分らないことだが、自分の化粧（顔や頭髮）さえ人の手を借りなければならなかったということは、女性として堪えられない苦痛だったそうである。

この有様を見ていた一行は、どうしたわけかあとの患者を診るときから、眼をいからし一切の無駄口をきかなくなってしまった。そのわけは、あまりにドラマチックな治験を目のあたりにして、それまで冗談半分でやっていた勉強を猛省すると共に、自分たちの蒙色の勉強はまだ未熟だ、今からガッチリ勉強しなければ……と固く決意したのだということだった。

ところで、この患者を少し離れたところから見ていた岩国のWさんが「胸椎にメニエルが出とるゾ」といった。（61図）



62図

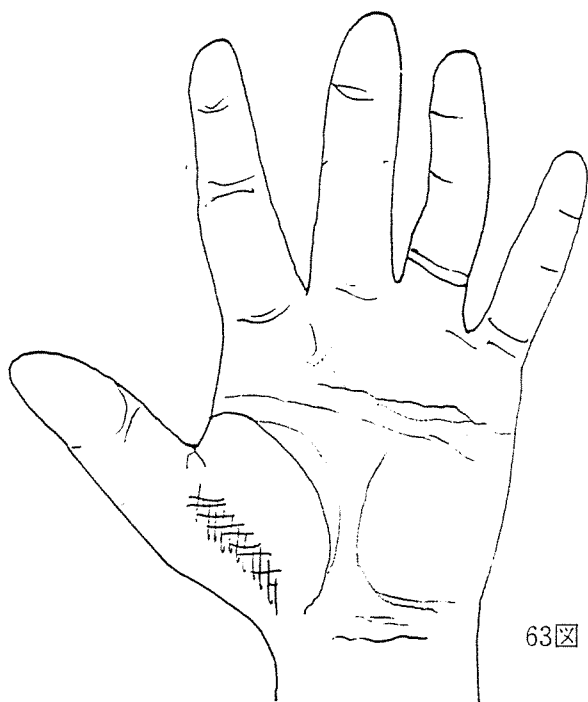
この患者が、自転車からたびたび落ちたのは、自転車乗りの上手下手からではなく、複雑骨折に至るまでの原因が、走行中に起きたメニエル発作による顛倒だということが、これで判明した。

このメニエルの発作は、紙に筆で文字を書いている時に起ると、文字が紙からはみ出してしまふほど強烈なもので、車上で発作に襲われると転倒するのが当然といえよう。

二度と自転車から落つこちないように、この蒙色も除いておいた。

### 百日咳 (62図)

私の長女がまだ一、二才の頃だったと思う。腺病質で風邪を引き易く、毎冬になると真先に風邪を引き、冬中治ったり、悪くなったりで、その為夜中に咳込んで家内は勿論睡眠出来ず、私も咳込む音で目が覚めるので止むを得ず体の蒙を探すことにしました。蒙色は左右の肩甲骨の間を胸椎に沿い二列に二ヶ所宛並んでいる。お灸が出来ない

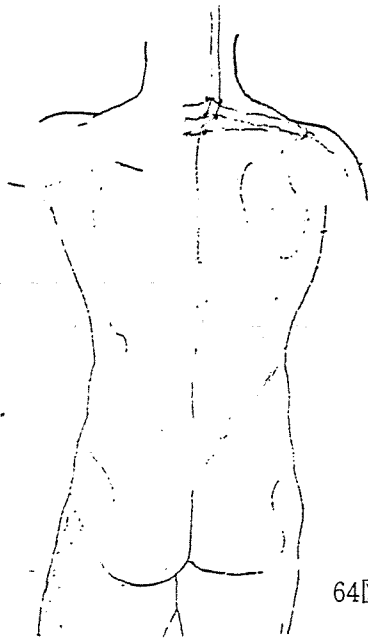


63図

から掌でパチパチた、きました。すると皮膚は発赤して蒙色が消えたと共にすや／＼寝入ります。そのの繰返しでこちらが参つて来ました。ある日そろ／＼咳込むなあと、思い傍の長女の掌を触つてハツと気がつきました。掌の拇指球が筋ばった様硬くなっています。やがて咳が始まりましたが、拇指球をもみほぐしてやるとすぐ止り、娘も私も寝入つてしまいました。此処は大陰肺経の魚際のある所で咳が止る筈です。(63図)くるみで掌中をマッサージする健康法は之から生れたのでしょうか。先づこの咳には風邪を引かない様にすることが先決だと考えて毎週二回にんにくをギョーザにして食べさせて治しました。次は頸椎上の蒙色に移りました。

### むちうち症

頸椎上の経穴は、瘡門と大椎だけで、胸椎や腰椎上のように沢山の経穴を見出すことは出来ません。



64図

それは胸・腰椎のように内臓に神経を送る必要がないからか、その理由は分らないが、5頸椎から第1胸椎の背髄神経が腕神経叢を形成するから腕のしびれや疼痛を伴うむちうち症は殆んどのが5・6・7頸椎間から腕へ向って蒙色を伸すものである。

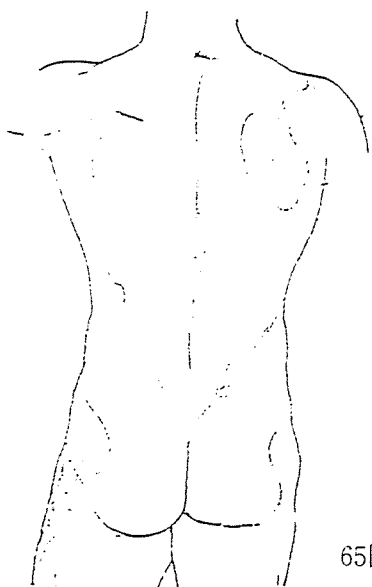
父の葬式に千葉の田舎へ帰った家内が、病気の姪を連れて来た。

姪は自転車にのつているところを車にはねられ、重症のむちうち症となり、猛烈な頭痛と腕の疼痛に悩まされ、睡眠薬自殺を図ったが、助かり、以後再度の自殺を怖れた両親は、座敷牢に入れるようになった。

不憫に思った家内が、灸で治せたらと思い連れて来たものである。

蒙色は64図のように頸椎から腕の方へ伸びるのと、上の方へ走り頭に至るものとが合併している。その気の集ったところへ施鍼して様子を見ることにした。

一、二、三分も経過すると、この気色はすっかり



65図

消失したので、安心して抜鍼これなら案外簡単だなあと思つて、出勤した。

夜七時頃帰宅すると、部屋の片隅にうずくまり、全く連れてきた時と同様のおびえた表情で、壁に向つてゐる。

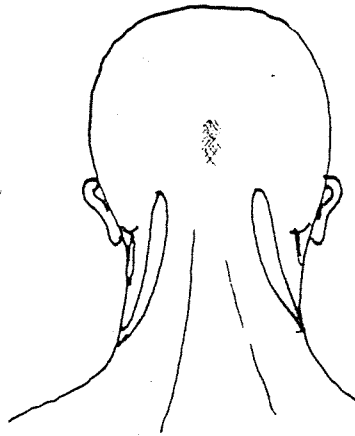
家内に事情をきくと、二、三時間の後にはすっかり良くなり、家事の手伝いをするやら、洗濯するやらでたいへん助かつたのだが、午後三時頃からだんだん口をきかなくなり、夕食頃になると、以前のように別人になつてしまふという。

二、三日同様の事を繰返しているうちに、フトある事に気がついた。

「産後七、八日、無太陽症、少腹堅痛、此惡露不尽、躁躁發熱、切脈微実、再倍發熱、日晡所煩燥者不足、食則識語、至夜即愈、宣大承氣湯主之。熱在裏、結在膀胱也。」（金匱要略産後病）

金匱要略の産後病の解説は略して、フト気がついたところというのは、「日晡煩燥」で、血病は陽氣が減少して陰氣の増してくる夕方（日晡所）になると悪化することで、姪の夕方悪化するのと





66図

似ている。すると、このむちうち症は、内出血の存在を予想させるのに充分である。

そこで泻血するのに充分な血絡が発見出来なかったもので、漢方薬を与えることにした。瘀血を去るものは牡丹皮。

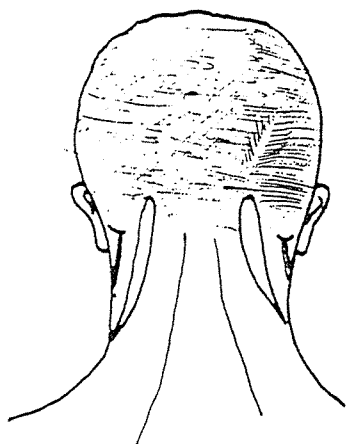
血滞を通ずるものは桃仁。部屋の片隅にうずくまる氣ウツを散ずるものは桂皮。とすると桂枝茯苓がこれにあたる。

この薬を内服させながら施鍼すると今度は夕方再発することがなくなり、一日一日と軽快、一週間で完全に治愈治療もおしまいになった。

患者は今日は大阪見物、明日は京都、翌々日は神戸、そして奈良と、関西の主要都市の見物を全部終って、もう見物する所がなくなつたといつて、十五日程で千葉の故郷へ帰つていった。

このように肩から腕へのしびれや疼痛は、第5・6・7頸椎から蒙色を出すものが殆んどであり、寝ちがい、スキーで転んで腕のしびれるものなどいろいろある。(65図)

次に頸椎の異常で頭痛を訴える者は第2・第3



67図

頸椎の異常を、蒙色で表わすものが多い。

妊の場合は、この両者の合併症であるが、この頭痛の特徴は後頭部から頭頂部にかけての放散痛で、しかも一般の頭痛とは異り、患者は痛みが皮膚の表面にあるという。

だから毛髪にさわることにより痛みが誘発される。蒙色は第2、第3頸椎の右か左に点として出るもの、妊の場合のように線で出て、頭に上るものの別があるが、蒙色点の中心に施灸か施鍼で簡単に片づく。

頭の蒙色は既に上巻に述べましたので白内障の蒙色をやりましょう。

## 白内障

66図で分る様に位置は大体督脉の脳戸と強間の中間位で頭髮が枝分れしたり、立ったりしているのてそこを注目すればその点が蒙色点である。又此処が陥没している者もあり、之に施灸するとその都度盛上つて来るから不思議としか言いようがない。

い。そして此処に蒙色灸をすると涙が出たり目やにや、充血する者が多くあまり涙を沢山こぼすので眼病と泣虫の関係があるのかと思う程で、この様に涙や目やにが出る者程、毒素が早く出て治りが早いことが分った。

また脳硬塞により失明に近い65才男子の頭部には此処より右寄りに斜上に走る3 cmの毛髪の亀裂があり、此処に施灸して毛髪が正常になってからどうか文字が書ける迄回復した。(67図)

蒙色望診通信講座 下卷

# 五臓の色體表 (No. 1)

五 志	五 惡	五 味	五 香	五 色	五 兄弟	五 方	五 季	五 支	五 主	五 根	五 親	五 行	五 腑	五 臟
怒 <small>いかる</small>	風	酸	臊 <small>あぶくさし</small>	青	甲乙	東	春夏	爪	筋	目	水子	木性	胆	肝
笑 <small>わらふ</small>	熱	苦	焦 <small>こげくさし</small>	赤	丙丁	南	夏	毛(面色)	血脈	舌	木子	火性	小腸	心
思 <small>おもふ</small>	湿	甘	香 <small>かんばし</small>	黄	戊己	中央	土用	乳(唇)	肌肉	唇(口)	火子	土性	胃	脾
憂(慮) <small>うれふ</small>	燥	辛	腥 <small>なまにくさし</small>	白	庚甲	西	秋	息	皮毛	鼻	土子	金性	大腸	肺
恐 <small>おそる</small>	寒	鹹 <small>しほからし</small>	腐 <small>くされくさし</small>	黑	壬癸	北	冬	髮 <small>かみのけ</small>	骨	耳(二陰)	金子	水性	膀胱	腎

## 爪

爪の半月の大きい人は新陳代謝の盛んな人で外向性性格。半月の全く出ていない人は新陳代謝の少ない内向性性格で健康そのものは左右しないが半月の出る順序やバランスは大きく健康を左右する。

一般には拇指から小指の順に出方が少くなり、小指に至ると僅かに出ているか出ていない人が多い。特に利き腕の右手の方が大きい。

一番悪い見本は拇指と人差指にだけ強く出て、他は全く出ない場合で、これは頭寒足熱の逆だから頭に血が昇る人で不眠症になるし、胸部に充血する病は胸部疾患がある。

もし何処にも病氣のない人は足腰が冷える筈だし、運動不足の典型的パターンであって、マラソン、ジョギングを二週間も続けると小指まできれいに揃うものである。

次に五指と体部との関係は半月の出方で判断する方法もあるが、五指の蒙色でみる方法もある。

# 五臓の色體表 (No. 2)

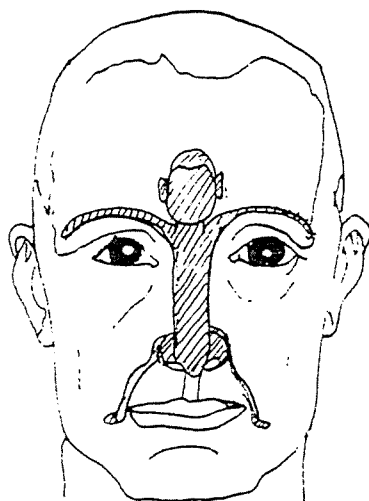
五 經	五 果	五 菜	五 畜	五 穀	成 數	生 數	五 位	五 調 子	五 音	五 聲	五 役	五 變	五 液	五 精
足厥陰	李 <small>すもも</small>	韭 <small>にら</small>	鶏	麦 <small>むぎ</small>	八	三	震 <small>しん</small>	雙調 <small>さうこう</small>	角 <small>かく</small>	呼 <small>よびかけ</small>	色	握 <small>にぎる</small>	泣 <small>なみだ</small>	魂 <small>こん</small>
手少陰	杏 <small>あんず</small>	薤 <small>らっきょう</small>	羊	黍 <small>きび</small>	七	二	離 <small>り</small>	黃鐘 <small>わうしき</small>	徵 <small>ち</small>	言 <small>いふ</small>	臭	憂 <small>うれふ</small>	汗 <small>あせ</small>	心 <small>しん</small>
足太陽	棗 <small>なつめ</small>	葵 <small>あひひ</small>	牛	粟 <small>あはきび</small> (稷)	十	五	坤 <small>こん</small>	一越 <small>いちつ</small>	宮 <small>きう</small>	歌 <small>うたふ</small>	味	噦 <small>しやつくり</small>	涎 <small>よだれ</small>	意 <small>い</small> 智 <small>ち</small>
手太陽	桃 <small>もも</small>	葱 <small>ねぎ</small>	馬	稻 <small>いね</small>	九	四	兌 <small>だ</small>	平調 <small>へうどう</small>	商 <small>しやう</small>	哭 <small>かなしみなく</small>	声	欬 <small>せき</small>	涕 <small>はなしろ</small>	魄 <small>はく</small>
足少陰	栗 <small>くり</small>	藿 <small>まめのは</small>	豚	豆 <small>まめ</small>	六	一	坎 <small>かん</small>	盤渉 <small>ばんしき</small>	羽 <small>う</small>	呻 <small>うなる</small>	液	慄 <small>ふるふる</small>	唾 <small>つば</small>	精 <small>せい</small> 志 <small>し</small>

小指	薬指	中指	人差指	拇指	指
生殖器、腎、膀胱	肝胆、大腸	心、血管	胃、肺	頭	体部
心、小腸	三焦	心包	大腸	肺	経絡

- 一、指腫れつぽく、蒙色を出す。
- 二、爪気なし、蒙色、褐蒙。
- 三、自覚症状 冷え、しびれ、屈伸障害
- 四、指に凍傷、さかむけが出来る。

## 眼の角膜望診法

目は口程にものを云うという諺があるように、対面して真先にみるのは相手の目であるから眼の角膜は予診に役立てることが出来る。



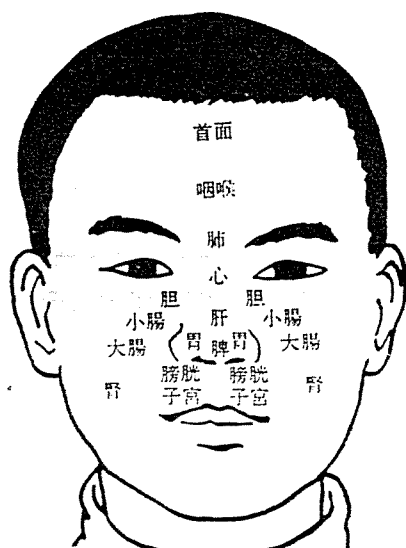
68図

体表の蒙色が終ったので、爪と眼の予診に続いて顔面蒙色に入りましょう。  
顔の気血色から人体の病気を診断するには普通小人形法というのがある。これは顔の中央部に人体の小人形を置いてみる方法で原著者は不明で目黒玄竜子が発表して以来専門家に知られるようになった。

68図がそれで命宮を首より上と見る。眉間を首、咽喉、眉を両手、鼻を胴体とし、胃腸の消化器系統、両法令を両足、眼を乳房に、人中は陰茎子宮卵管、口を肛門と見る方法である。

中国の古典靈樞五色篇には天庭を首面、命宮を咽喉、印堂を肺、山根を心、仙舎を胆、年寿を肝、

黒	白乾	黄	赤脉	青
腎勞	肺燥	(淡)脾虚(濃)湿	肝火、命門の火	肝鬱
八味丸	麦門冬、人參、烏梅	建中剤、利湿剤	生地、知母、黄柏 芍薬、当帰、熟地	柴胡剤



69図

準頭を脾、金甲を胃、観骨を小腸、その下が大腸で、腎門は腎、食禄と人中を膀胱、子宮としている。(69図)

この二つを比較してみると似ている所と全く似ていない所があり、最近の中医診断学(上海人民出版社一九六四年二月第一版)をみても新しい望診点が増えられてあつても靈枢五色篇が追試加筆された形跡はなく、殆んど使いものにならないのであらうと思われるのに対し、普通小人形法は病患部のみならずその原因まで望診出来る正確なものであることが本書を読んで了解されました。

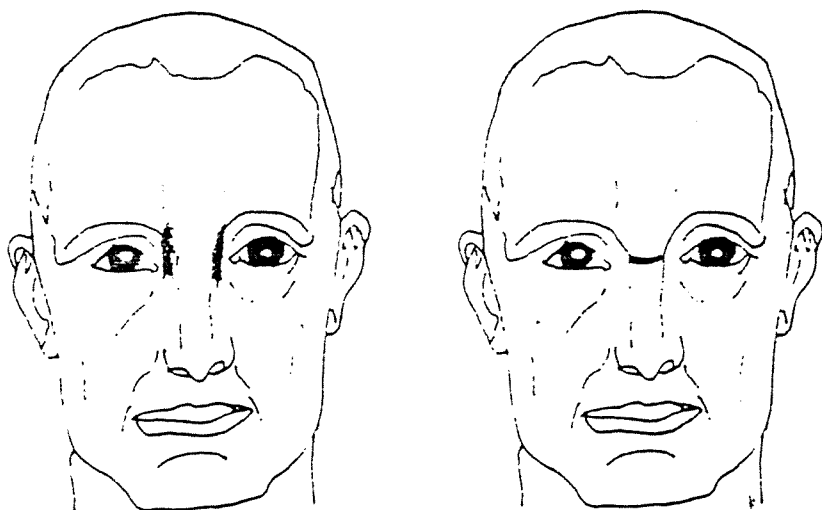
## 五色とその意味

一般に色が皮膚に浮いて見えるものは表証で、皮下に沈んで見えるものを裏証とする。(9頁参照)

次に色の淡いものを(人体の)虚証とし、濃いものを病邪(人体ではない)の充実とする。

(18頁参照)





70図

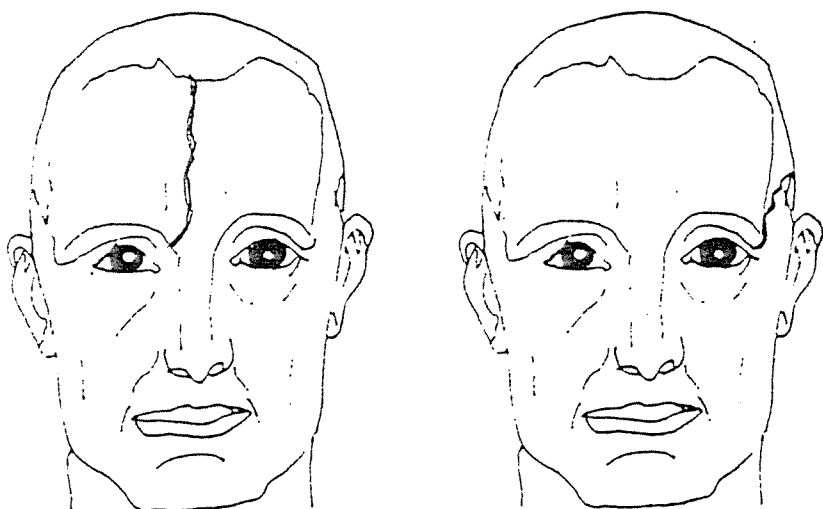
更に色の潤沢なものは病盛なりとも生機はあるが、枯れるものは悪化の兆である。(29頁参照)

## 青

五臓の色体表から青の意味を考える。五悪は風で、五変の握は手指を握りしめてひきつけを起す子供の癇の虫、筋肉が痙攣を起すと痛みを伴うから疼痛、肝障害、五色は青となる。これを易しく覚えるには怒り狂った人の表情を想像してみても下さ。指を固く握りしめ眼は青くかつと見開き、青筋を立て、怒鳴り散らす。(呼)

## 肝障害

山根を狭んで左右の眼頭に縦に二本青筋が浮出してくる。人体では胃の両脇は肝と脾だから左右期門から鳩尾に伸びる蒙色を顔から判断出来る。この他に山根に横に一文字青い静脈が表われるのも同様に判断してよいが山根の胃を表す所に出で



71図

いるから自覚症状は胃痛となる。(70図)

#### ヒステリー

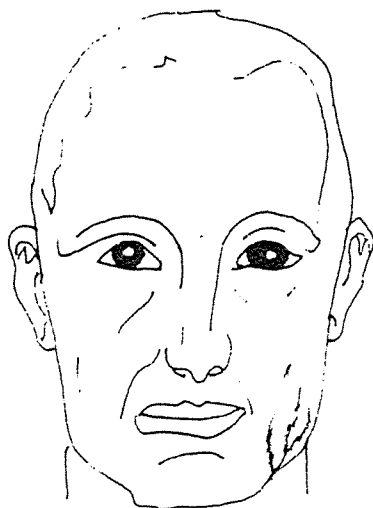
癩癧玉が破裂しそうでトサカに來たという諺があるがトサカは百会のこと、百会に向つて上昇する青脉は癩癧である。命宮から天中に向うもの魚尾(眼尻)から玄武に入るもの何れも然りと云えます。(71図)

#### ネフローゼ

ネフローゼとは腎臓病であるがこの72図の様に顎から頬にかけて青脉が浮出していて肝の病と判断して治療した例がある。

#### 啞

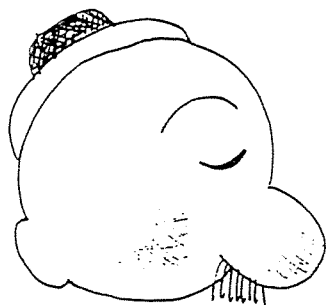
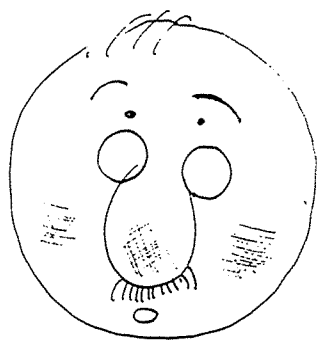
北九州市の口の利けない幼児で、山根の青い静脉から肝の病と見当をつけ、この子は短気で箸を



72図

使わず手ずかみで御飯を食べるという母親の言葉から癩と判断。(アトピー性皮膚炎や小児喘息の敏捷な子供で人の菓子等を横取りするのは大抵肝の病が多い)このように気短な癩持ちは口で説明するのは面倒だ。口が利けなくなる位に腹が立つというように、癩癧を治めてやると口が利けるようになった例が二、三例あり、大柴胡湯一ヶ月与えてやや口が利けるようになり、母親がよく走り廻るがすぐ転ぶと云った言葉を下虚と判断し、下虚を補う竜骨と牡蛎を配合した柴胡加竜骨牡蛎湯に変えて三ヶ月で治癒した。

この例のように漢方薬で治療する場合は肝の病と判断する。そして大人(だいにん)は大柴胡湯に小人(しょうにん)には小柴胡湯を基本処方とし、上停(第71図参照)に青が出ると上衝ありと判断して上衝を治す桂枝湯を加えて柴胡桂枝湯とし、下停に青が出ると下焦病として枳実芍薬を加えて大柴胡湯と考える。(72図)



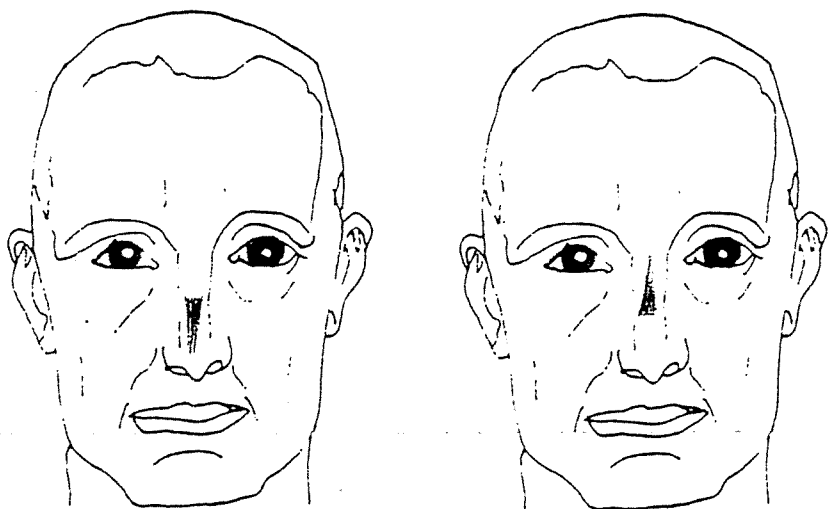
73図

## 難聴

母親に連れられて難聴の子が来院した。その母親が首筋に青い静脈が露出していた。経過を聞くと去年の暮に風邪をこじらせてから難聴となり、以来あまり食欲もないと云う。太陽病から少陽病に伝えたものと考え小柴胡湯を考え、子供の眼の青から間違いないと決めました。またこの子の母親のように小人のように小柄な婦人は童面が多くブルーや紺のスーツが良く似合うもので、スーツの青色とキンキン声（呼）から母親にも内服するようにすゝめました。

## 赤

この色も五臓の色体表から酒呑みの笑い上戸を想像すると良い。真赤な顔をして、ハゲ頭が多く、鼻は団子鼻の赤鼻で、暑がり屋の汗っかきで笑っている。笑い過ると心臓が苦しくなる。昔のマンガののんきな父さん、外国マンガではポパイのウエ



74図

リントン・ウインピー、どちらも心の病で漢方薬なら泻心湯の適応です。(73図)  
五悪では暑邪、熱病、心の病、出血、炎症等が赤の色を表す病である。

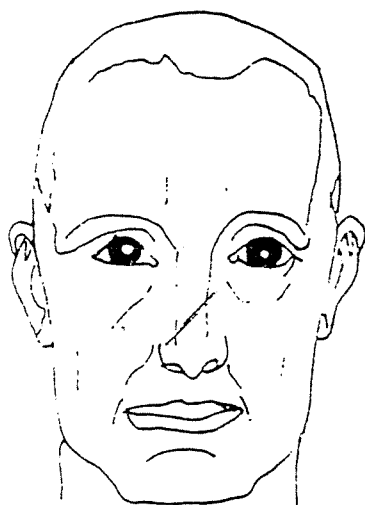
### 面赤

顔の周囲が淡赤く浮いているときは表熱証で発汗不充分。これを応用して蕁麻疹、皮膚炎で顔が痒くて赤い人に発汗剤一服で治すことが出来ます。(桂麻各半湯)

赭顔豊頬と言つて赤黒い顔は裏熱証になるから実証なら攻下出来ますが頬がこけていて午後になると頬骨に赤味が出るのは裏熱の虚証ですから滋阴降火が適しています。

### 吐血と下血

吐血と喀血とを合せて口から吐出すものは鼻梁の中央あたりから幅3㍑から10㍑の赤気が上に向つて勢よく上衝する。



75図

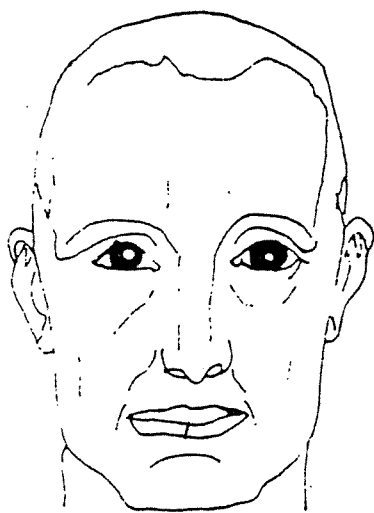
この逆で下に勢よく下るものを下血とする。  
吐血と喀血の区別は、炎症を表す赤点や蒙色が胃を表す山根にあれば吐血とし、印堂にあれば喀血とする。

下血には子宮出血、腸出血、痔出血を含むがこれも前者と同様、赤点や蒙色が年寿準頭なら腸、痔出血、人中、金甲縁なら子宮出血とする。

次に出血の多寡であるが痔を例にとると排便後にポタポタ位では鼻に表れない。俗に走り痔といって排便前に力むとシャーと音がして鮮血がほとばしる。立上がると貧血でくらくらする。常時痔出血して下着から靴下まで赤くなる程度になると鼻にはっきり表れます。(74図)

#### 外科手術

年寿を中心にや、斜に安全剃刀でさっと切ったように細い真赤な血色が勢よく出るのは外科手術か交通事故による大量出血である。(75図)



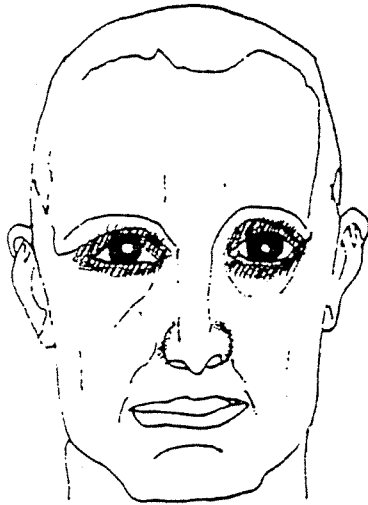
76図

臨月の妊婦に之が出ると帝王切開を表している。知人の臨月の妻君にこの血色が出てこれは一大事と顛倒事故と早合点して、一階の産室を一階に移し、それでも消えないからトラックが飛込むのではないかと道路に面した産室を一番奥の薄暗い部屋に移したが、それでも消えない、私は出来るだけの事はやりました。あとは神の御心にと開き直っていたら赤ちゃんが大きくなり過ぎて帝王切開による出血を表していた。

また唇に真赤な切疵のような気のある細い赤線が唇を縦断するものは肛門裂創か痔の外科手術を表している。場所は下唇のほぼ中央に出るものが多い。(76図)

#### 月経

金甲の周囲を桜色でとり囲むようになるとメンス、メンスの始る一週間位前よりこの気色が下から上に昇り始め、上に到達すると開始、終了すると前とは逆に降り始め一週間で消失する。



77図

そしてこの色は子宮の充血状況を表しているから通経剤の効く人と効かない人の看別にも応用出来る。つまり通経剤とは子宮の充血剤だからこの薬一日分を投与して金甲が桜色を帯びる人と全く金甲縁の桜色の表れない人の差が有効無効の差となる。

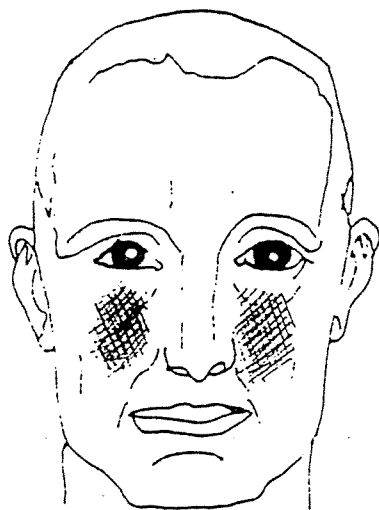
#### 性的神経衰弱

内生生殖器である子宮の充血が金甲縁の充血なら外生殖器の充血は眼の周囲の発赤である。男女共性興奮時に表れる一過性の色で、飲酒によって眼の周囲がぼつと赤くなるのもそれである。(77図)これが常時出る様になると性的神経衰弱である。この病が更に進行すると田宅が焦げた褐色に変つて来るようになる。

#### 気の上衝(のぼせ)

臍下丹田を別名で気海と呼び気が充滿しているのが健康体で、この下腹部が虚して来ると気海に藏





78図

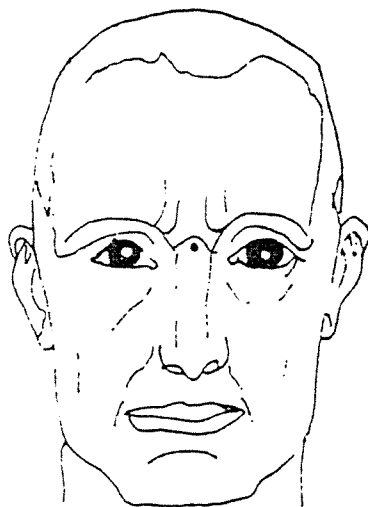
されていた気が動揺し、上に向って動くようになる。これを気の上衝という。

その症状は先づ臍上で動悸が高まり、次で胃の部分（みぞおち）で動悸し、次に胸で動悸が高まると心臓がどきどきして胸が苦しくなる。次にはコメカミの部分で動悸を打ち、耳が赤くなり、頭痛があり顔まで赤くなる。

このように耳のみ赤くなったり、耳も顔も赤くなると脳にも充血が起っているから適当な処置が必要となる。

#### 瘀血症候群

瘀血とは古血の事でこれが蓄積すると任脉の終末である顴骨上に鬱血斑を表すようになる。病名では脳出血、動脈硬化症、高血圧、婦人科疾患、痔、下肢静脈瘤、症状では興奮、不眠、健忘、狂状、譫妄等の精神症状が著名になる。（78図）



79図

# 乳癌

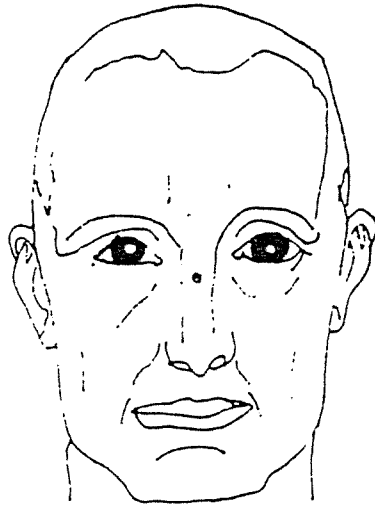
眼の周囲は乳房を表すから此処に赤点が出るものは乳癌を表すことがある。しかし単なる乳腺炎のことでもある。この赤点は丁度針で突いたような真赤な点で、この色の鮮明なものほど気ありとし、癌やその他の炎症を表示する。但し直径3㍉以上の大きなものや、気なきものは炎症とは判断しないので注意が必要である。

## 子宮癌

人中に表れる赤点は子宮癌が多く、子宮筋腫や卵巣腫や妊娠時にも表れるが、その大きさや出現の期間で区別出来る。

それは赤点の3㍉以上の大きなものが妊娠の場合で赤色は易の離為火で離れるとか切離す意味があつて流産したり掻把したりすることが多く、出産なき妊娠である。

またこの赤点の出没するのは筋腫や膿腫が多い。



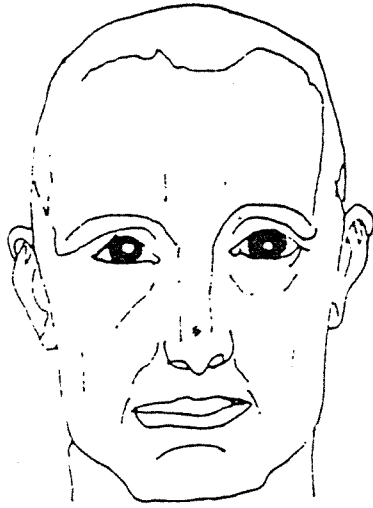
80図

この赤点が鮮明になる時は炎症の進行期だからこの赤点が出没するのは一寸ひどくなったり、休止期に入ったりするのだから筋腫と言えし、連日赤点が消えないのは毎日々々癌細胞が分裂を繰返して増殖していることだから癌の場合が多い。

この望診法を習得された御婦人方で自分の人中の赤点を発見して早速婦人科へ出掛け、絨毛上皮腫が指頭大の大きさであつたので早速手術してその日の内に帰って来ましたと喜びの電話をかけて来られた人が少くない。

#### 胃潰瘍

顔をしかめると山根にへの字の皺が寄りますが、このへ字の字のところが人体では肋骨弓に当り、この頂点が鳩尾になるからこのあたりに赤点が出る。(79図)



81図

### 十二指腸潰瘍

山根と年上の境界が十二指腸に当るからこの境に出る赤点は十二指腸潰瘍である。(80図)

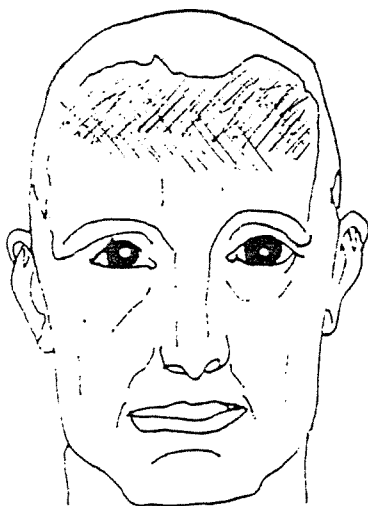
私の所に入出入する商業デザイナーが十二指腸潰瘍で苦しんでおり、山根の赤点で診断し、臍の上の蒙色を施灸で飛ばしてやると自分の会社のデザイナーを六、七人連れて来た。

これ等は山根に赤点を出している者あり、ただの蒙色の者ありどれも臍の上の解蒙で治してやったが、いつもの洪面で灸一発ですっかり良くなり朗らかになった。

その杜長曰く「凡そ心血を注いアイデアに没頭する者はすべて胃潰瘍か十二指腸潰瘍になっており、何ともない健康な奴にロクな仕事が出来とりません。」と：

### 下痢 (81図)

年寿から準頭に至る間の赤点は腸疾患による猛烈な下痢で時には出血する迄に至る。この下痢は



82図

食中毒によるものが多いから承漿とも見比べて梅干しの茶漬のような胃腸に負担をかけない食事に留意すべきです。

博多の小料理屋で数人で夕食中にその内の一人に準頭の赤点を発見、近日中の下痢を告げた処、私は胃腸は丈夫でむしろ便秘気味です。今朝もトースト、コーヒーで昼食はそばだけですと不思議そうな顔付でした。その夜一時過ぎに急患にたたき起されました。やはり先程の人で赤点は燃えるように赤く腹痛と下痢で苦しんでいました。

先づ鎮痛が先決ですから腹部をみると臍上に横一文字に横行結腸に沿って蒙気色が走っているのが灸二壯で解蒙、はらわたをえぐるような腹痛はピタリと治まりました。

## 黄

黄色は五臓の色体表では湿で五臓は脾とするから先づ黄色は脾と湿を重点的に考える。

更に之に加わる色が濃淡で複雑になってゆくが



83図

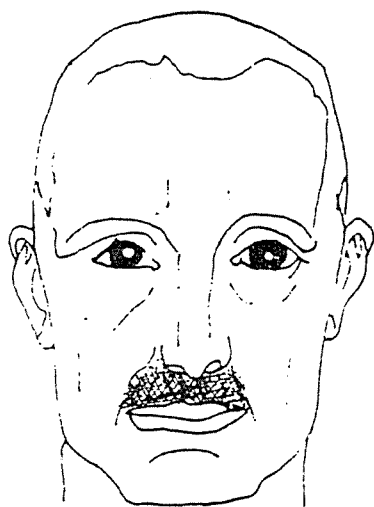
先づ白から始めると白を虚か寒とするから薄黄色で艶なきものを脾虚か寒湿と考える。

赤を熱とするから黄赤は湿熱とする。浮沈で言うと黄色が浮いていると風湿とし、沈んでいると裏湿つまり裏水である。また湿熱というとい現代病にすると黄疸となる。しかし顔が黄色くなる前に眼が先に黄色くなる。

脾虚……甘草、膠飴……………小建中湯
寒湿……半夏白朮厚朴……………半夏厚朴湯
風湿……桂枝麻黄細辛……………麻黄湯
裏水……麻黄、白朮……………越婢加朮湯
湿熱……茵陳、防己、黄連、黄芩……茵陳蒿湯

### 胃瘕瘕

山根の青脉が胃瘕瘕である。また眼の角膜の淡黄色も胃瘕瘕である。そしてこの胃瘕瘕も肝によるものか脾によるものか漢方の証を決める時はむづかしく脉診が重要な鍵をにぎっているが望診ではとても簡単で眼の角膜が青かったら肝として小柴胡湯とし、黄だったら脾とし小建中湯とする。



84図

また額の髪際は陽明胃經の枝が左右の頭維を結ぶように走っているから黄色は脾虚性の胃痙攣で白氣は胃寒による猛烈な下痢である。(82、83図)

## 白色

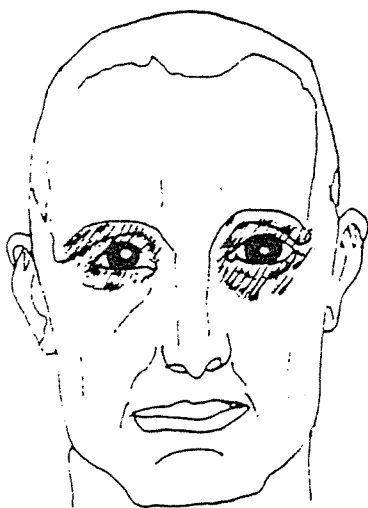
白色は五臓の色体表では五惡なら燥、五主は皮毛、五根は鼻、五臓は肺大腸を表す。

皮膚が白くてぶよぶよしているのは虚。薄黒いのは寒、艶がなく枯れて見えるのは失血、脱氣、脱津と言って貧血や精血の虚として予後不良である。

顔が白く痩せていて頬骨のみ赤いのは陰虛火動と言う。

(陰虛火動とは人体根元の元氣である腎水が欠亡するために肝火、命門の火が炎上して脾や肺を灼きつくすの言う。治療法は地黄、知母、牡丹皮、黄柏、芍薬、等で津液虚耗せるを潤して解熱せしめる。滋陰降火湯、六味丸。)

眼の角膜が白濁するのは肺疾患である。また肺



85図

## 黒色

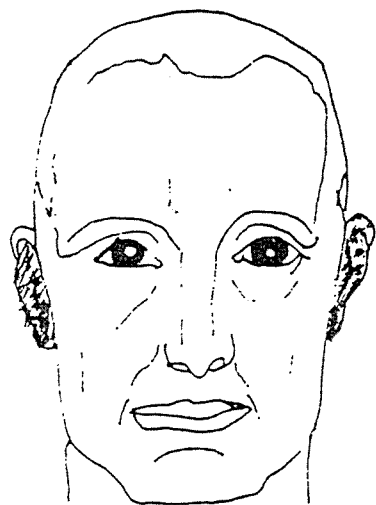
灰色から鼠色や鉛筆の芯を粉にして吹きつけたような蒙色からずつと色の濃い油煙を吹きつけたような純黒気まで黒の範囲に入るが、この純黒気は死相である。

そしてこの純黒気が死相として表れる位置は食禄、臥蚕、耳である。

先づ食禄から始めると食禄の黒気色は命門の陽気の虚である。この命門の陽気は父母が精を合せて受胎すると両親の命門の火を受けて胎児の先天の元気の素となり、守邪の神というからその人の

は皮毛を司るというがこれは皮膚とそのウブ毛のことでは膚は白くて透明で青い静脈が透けて見えるような人は肺の虚弱な人に多いものである。次に毛の方は成人は勿論のことであるが、子供の頃のウブ毛が長かったり多かったりするために年中脱毛クリームを使用している婦女子には肺が弱く、鼻炎、喘息、風邪引きの持病を持つ者が多い。





86図

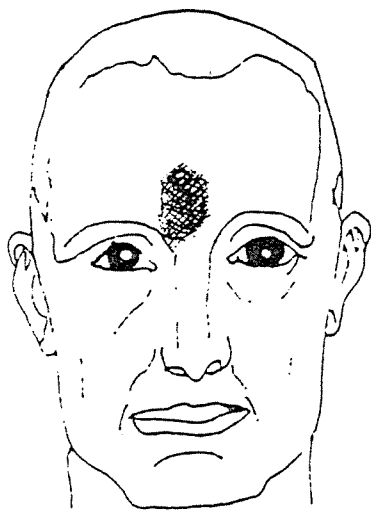
体を外敵から守るガードマンといえましょう。そしてこの命門の陽気は先天の元気だから年令と共に減少してゆき、之が失われるとチョツとした風邪がもとで肺炎を起して死ぬ老人の体のようなものです。つまり外敵に対して抵抗力が無くなった状態であるから入院して充分な保護下にあればある程度まで生き長らえることが出来るが普通人と同様の生活をするとい寸した侵襲があつても一たまりもない状態である。死の数ヶ月前から表れる。

(84図)

臥蚕の黒気は死ぬ一ヶ月以上前から出る。臥蚕のみならず眼の周囲が黒いシミがついたように黒く集ったり散ったりして表れる。これは体内の津液や精血の虚というより枯れてしまったのである。

(85図)

耳の黒気は最も遅く数時間前か一、二日前から出る。始めは下から黒気が昇り始め耳の中頃まで達すると絶望、強心剤の注射でこの黒気はや、下るがまた上昇を続ける。そして上端に達すると終焉となる。



87図

## 顔の蒙色

### 命宮

首から頭に相当する処である。命宮の上半分が頭で下半分を咽喉に当てる。

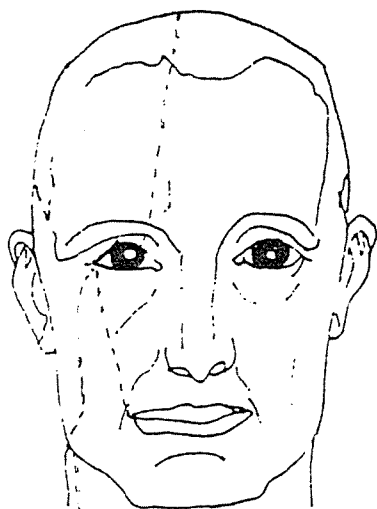
風邪の初期のように頭痛、発熱、肩こり等の症状の時は命宮に蒙色を出す。一般に陽病は頭から下へ病が侵入してゆくから初期は全部頭を表す命宮に頭痛の蒙色が表れる。

その他気候の変化である風、暑、湿、寒、燥、火は六淫と呼ばれて人体を犯す外感で、それぞれの青、赤、黄、黒、白色を命宮に表わす。

この黒気も臥蚕の黒気と同様に落葉のように処々に散ったり、集ったりして見える。

一方腎臓病は耳に蒙色が表れるが、これは灰色が全身を蔽うように見えるから蒙色と黒色は注意すれば見違えることはない。

以上で五色とその意味が終ったので顔面の各部位とその蒙色に入りましょう。先づ第一番に上から始めると眉間の真上に命宮という場所がある。



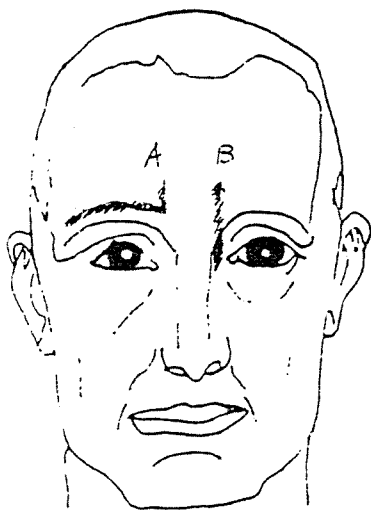
88図

つまり風湿なら青味がかった黄色を傷寒なら蒙色を、喘息や百日咳を起す燥邪なら白い斑点を命宮に表わすようになる。

兵庫県F市の老人がリユーマチのような疼痛で来院した。真先に額の命宮の曇りが目についた。青味がかった黄色で曇っている。風湿と判断し尋ねてみると一ヶ月前宴会の帰りに雨に会い、止まないもので、ぬれて帰って来た。翌日風邪気味で発熱し、薬で一応解熱したが以来手足や腰の関節が痛み出したと言う。

その年は己未年で大陰湿土が司天の年だから前半は湿邪によるリユーマチ、神経痛患者が多かった。腰眼と手足の関節に表れている蒙色を消し、湿気はまだ体表にあるから麻黄、薏苡仁、白朮等の中から処方を作成すれば良いので皮膚が乾燥してざらついていたので之を肌膚甲錯の薏苡仁の証として麻杏薏甘湯一週間分で治癒した。

(48頁運氣論と蒙色に詳述)



89図

## 眉

眼は肝の竅というように肝の表れる処であるが眉もこの支配下にある。

また厥陰肝経は眼尻を上行して督脉と頭頂中央で合するから肝の病は眼が釣上っている。(88図)つまり釣上った目は胃酸過多、垂れ目は胃下垂といえましょう。

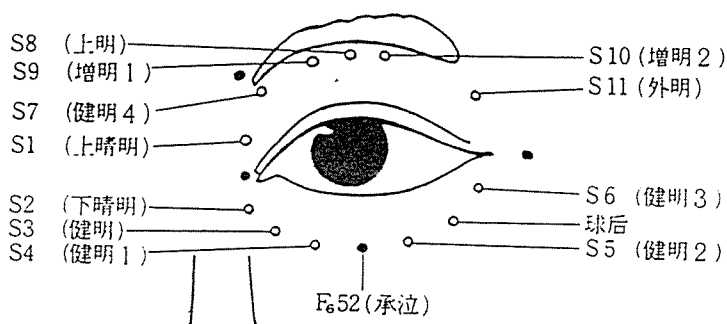
### 左眉頭の赤点

左眉頭は普通小人形法では心臓に当るから赤点や赤色は心臓弁膜症。直径3〜5mmの丸い赤色の上に赤点を表すと重症とする。

### 肩凝り

眉は手を表すが手は肩から始るから眉頭の横に表れる細長い蒙色は肩こり、おなじみの葛根湯で片づく。(89図A)

# 頭 頸 部 新 穴 図



90図

所が同じ肩こりでも山根の側面を上行して眉頭に達して表れる蒙色は内臓障害に併う肩こりだから葛根湯のような発汗剤では効かないから蒙色の位置から(右側なら肝胆、左側なら脾胃)処方を決めなければならぬ。(89図B)

## 霞み目

眼のかすみ目は頭の胆経によく蒙色が出るがこの人は眉尻の絲竹空あたりに蒙色を出していた。此処は普通小人形法では手指に当る処で尋ねてみると全身の径穴図を書いたと言う。経穴は全身657ヶ所もあり点画の多い旧漢字だから大変な手指の過労だったのでしょう。つまり手指の過労から肩をこらして眼に來たという訳です。眉尻の蒙色からその原因の手指の過労と、かすみ目の治療点を表していた訳です。



91図(a)

## 遠視

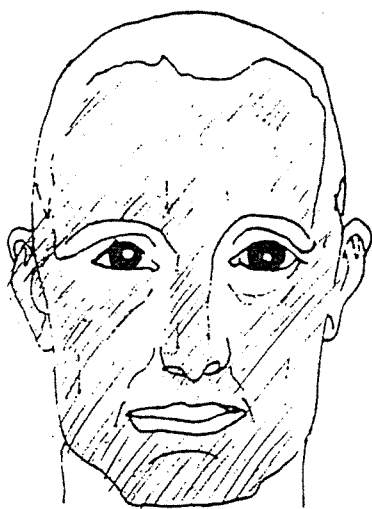
眉の毛の中で左右上下の真中に出る蒙色は遠視に特有の蒙色で、眉の薄い人は特に蒙色がよく目立つからこの蒙色を消して治療してやると眉が無くなったと言って悶着の元になるから予め了解させておく必要がある。

## 眼精疲労

眉頭の毛が立つ時は女子は生理、男子は氣を張りつめているとき、氣が抜けると毛が寝る。更に蒙色が出ると心労と眼精疲労。

## 田宅

田宅のや、上部に眼窩と眼球の境が弧状に凹んでいるが、この線状に先づ蒙色が出て、この線上の蒙色が上下に幅を拡げてゆき遂に田宅全体が蒙色で黒ずむようになる。90図の「中国の新しい治療点」小林良導絡研究所、一九七六年一〇月一日改定増補版發行



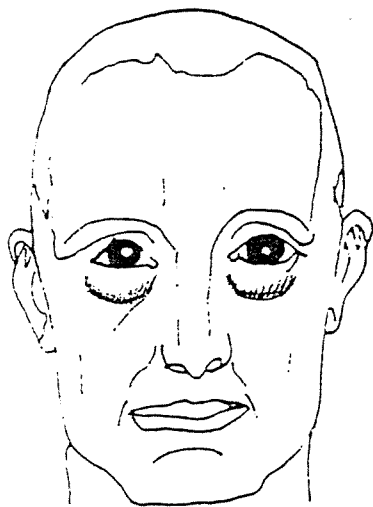
91図(b)

の頭頸部新穴図によるとこの眼窩の弧状の線上に上下に六ヶ宛の新穴が書かれているが、この十二ヶの点を線で結ぶと眼窩と眼球の境になって線状の蒙色と一致する。

また之等はすべて新しい治療点であるのに小入形法でこれを見ると右田宅は肝と乳であり、左田宅は脾と乳であるから之を診断点とすると肝脾のベタ蒙とみるからこの蒙色は肝障害の診断点であると共に眼疾患の治療点である所が優れている。

#### 肝障害

前述したように眼の周囲だけが黒くなる人、白っぽくなる人と色々あるが何れも肝障害。黒くなる蒙色は肝鬱を柴胡剤で散らせばよいので、一方白っぽくなるのは肝血の虚であるから当帰、芍薬等で補血すると良い(91図 a b)



92図

### 乳癌

この所は下瞼の涙堂と共に乳房を表すから乳癌に赤点や硬い赤苞を表わす。(赤色とは直径3mm以内のニキビのような小さな赤色のオデキで二、三ヶ以内のものを蒙色と同様に望診に用いる。一般に苞が出たときは蒙色と同断で、蒙色と重なる蒙色の重いもの、病の盛んな時である。この苞がつぶれて治りか、った時が病の最盛期に当る。)但し気のない赤点や赤苞が直径3mm以上のものは乳癌よりむしろ乳腺炎の場合が多い。

### 涙堂

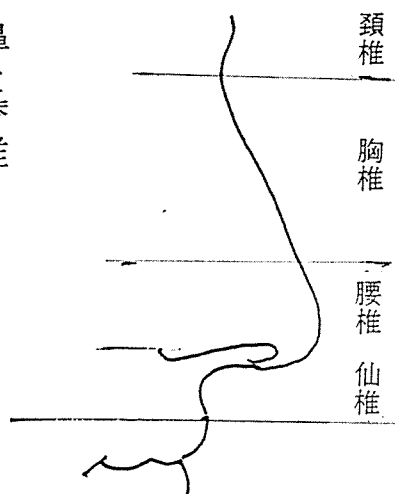
下瞼を涙堂と呼び津液(体液)の過多、過少を表わす。

### 腎臓病

此処が浮腫を起してきて丁度臥ている蚕のようにふくらんで来ると腎臓病となる。利尿剤の茯苓、沢瀉の適応となる。(92図)



# 鼻と脊椎



## 安産、難産

明潤なら氣血充実の象で妊婦なら安産。

蒙色は血虚して津液不足するから不妊症であるが妊婦なら母子共命に拘る程の難産とする。

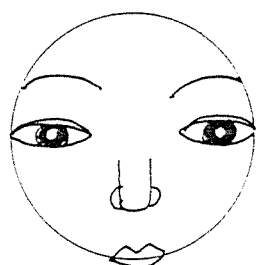
## 空驚の相

褐色の枯れた色は血虚、亡津液より更に悪化して血枯、津枯で涙堂の肉付も薄くてひからびたような者に多い。本人かその妻が頓死する相である。失精家（性生活の過多の者）に出易くて精血を枯らした為に倒れる。

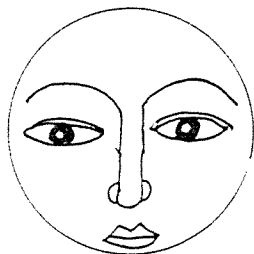
## 鼻

鼻が彎曲すると脊柱も曲る。山根曲るは胸椎、鼻梁曲るは胸椎、人中曲るは仙腸関節の垂脱臼である。

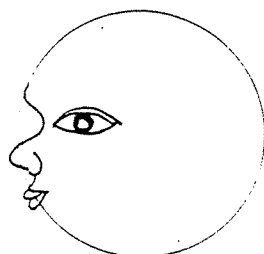
鼻全体は胃の氣（消化吸収能力）をみる所であるから鼻（特に山根、準頭）が明潤であるのは無病の健康体で病人なら回復の兆である。



A



B



C

93図

## 山根

山根の広さは眼が一つ入る幅を正常とするが之より広いもの(A)や狭いもの(B)山根が低過る者(C)はアレルギー體質で、しかも童面を表しているから薬なら小人の用量にすべきである。(93図 漢方薬なら小の入った薬がよい。(小陷胸湯、小建中湯、小柴胡湯、小承氣湯、小青竜湯、小半夏湯) 山根は胃を表わす。

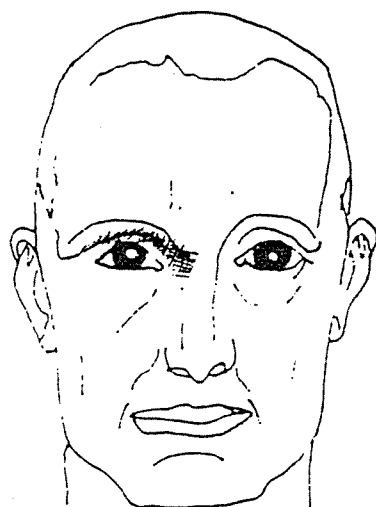
### 胃酸過多と無酸症

すり硝子のようにざらざらした感じで色艶のないものを気なしと言う。先づ胃酸過多、漢方では氣虚と判断する。

之が白っぽく見えて来ると亡津液(胃液の不足)で無酸症となる。

### 胃潰瘍、胃癌

直径5㍉から大きいものは山根全体を覆うに至る蒙色は嘔吐、留飲、吞酸、胃酸過多、胃下垂、胃潰瘍、胃癌までを蒙色の大小と濃淡で表わす。



94図

最も重症は蒙気色の上に赤点のおまけまでつく。

#### 肝障害と脾障害

右眼頭寄りに蒙色が出ると肝障害を伴う胃疾患で、前述したように眼頭を超えて田宅まで蒙色が伸る。(94図)

一方左眼頭寄りの蒙色は脾障害を伴う胃疾患でその病名も中巻の9頁を御参照下さい。

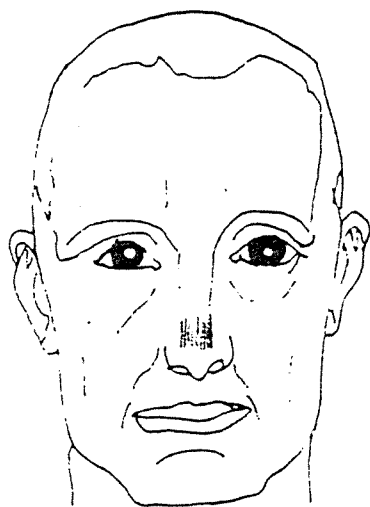
#### 年上、寿上

山根の下、準頭の上の鼻梁に当る所で此処は褐蒙の表れ易い所である。

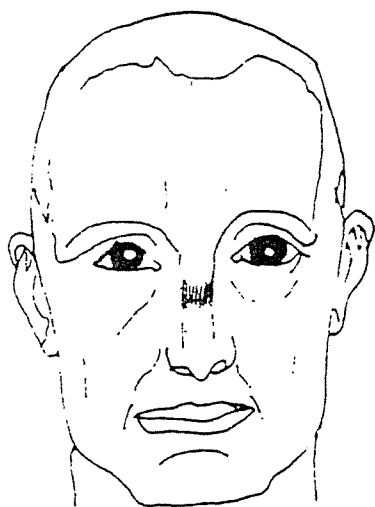
褐蒙とは蒙色を含む褐色、茶褐色、焦茶色の血色で慢性病に多く表れる。そして蒙気色よりも更に慢性化、痼疾化した病を表す。

#### 宿便

年上、寿上の褐色は宿便に特有の蒙色でどんな



B



A

95図

難病の病名がつけられていても、年上か寿上の褐蒙を発見すれば宿便を下すと治りますよと断言出来る。

次に年上の褐蒙は上行結腸から横行結腸のキャノンベーム点までの区間に溜っている宿便で大黃の適応であるが(95図A)寿上の褐蒙ならキャノンベーム点より残りの横行結腸、下行結腸、S状結腸に溜ったもので、カスカラ、フェノバリン、ラキサトル、アロエ、センナ、等普通の下剤で充分に効く。(95図B)

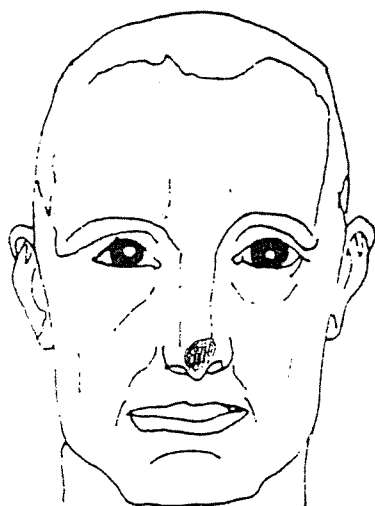
次に大黃は錦紋か唐大黃が一番で他の大黃は腹痛やら嘔吐やら副作用が多いので感心しない。

用量は一日量2gから始めて翌日出なければ毎日2g宛増量する。

もし2gで翌日排便があれば増量しないこと。また2gで翌日下痢する者は宿便は存在しない。

出ない場合は毎日2g宛増量してゆくのであるが排便もなし、腹鳴もない者が腹鳴が始ると間もなく排泄が始まるものである。

漢方薬ならそれぞれの証に大黃を加味すると良



96図

い。

大黃以外の下剤を使用する場合つまり寿上の褐蒙には常用量で簡単に出る場合が多い。

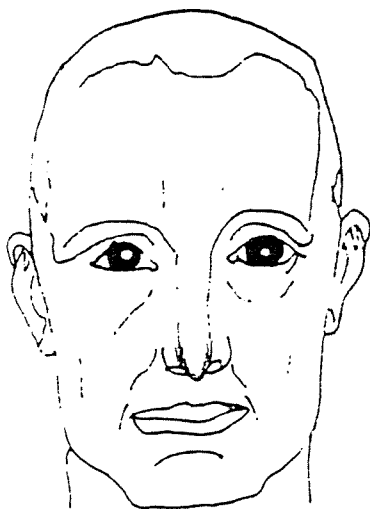
年上寿上と連続して褐蒙を表わすものは大黃とセンナ、カスカラと混合する方が量が少くて効果的である。更に塩類下剤や界面活性剤等を併用する方が更に効果的である。

## 準頭

### 便秘症

年上、寿上が宿便なら準頭は便秘症である。楕円形か円形の褐蒙が便秘症でセンナ、アロエのような下剤でも出るし、浣腸でもよい。(96図)

準頭が赤く腫れ上るのも便秘症で皮膚科でどうにも治らなかったものがセンナ葉を3g煎じて服用させた処大量の排便があつて赤鼻がすっかり治ってしまった例がある。



97図

### 安産

準頭が白くても艶潤いあるのは氣血の充実で妊婦なら安産の兆であるが艶潤いのないのは氣血の虚で死相とする。

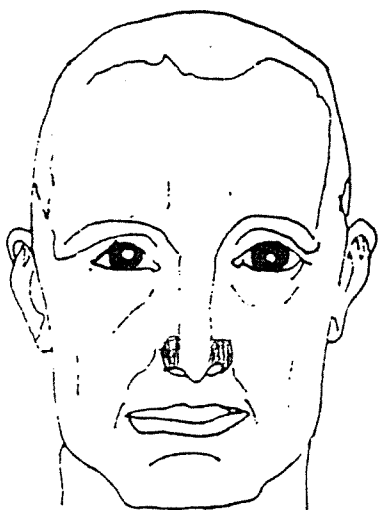
### 肝障害

準頭の末梢血管が拡張して網の目のように赤くなるのは酒渣鼻といふ、ひどくなると両頬に達するようになる。これは肝障害によるクモ膜状血管腫の一種である。

便秘症による赤鼻と見えないように。

### 痰飲

準頭の周囲が薄黒くなるのは痰飲で茯苓や白朮で利水する。(97図)



98図

### 子宮筋腫

人中の上端より準頭の尖端に向って表れる赤筋又は赤気は人中の赤点と同じく子宮筋腫。

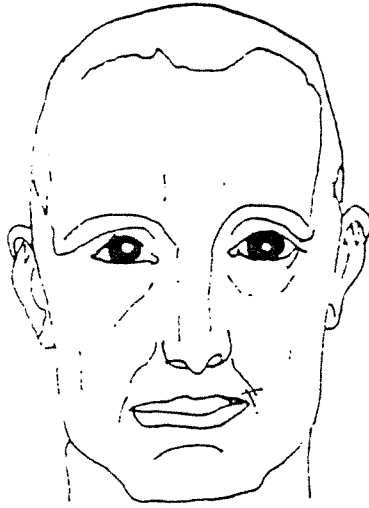
### 代償性月経

55才婦人赤鼻で来院。末稍血管の拡張ではなく赤腫でもなく桜色に赤くなって丁度金甲縁と昇降するメンスの桜色に似ている。

体蒙は腰眼に一对の蒙色があるのみ、これを消してやると無くなっていた生理がやって来たのと同時に赤鼻が消失した。(98図)

### 金甲

鼻を肺の竅というのは鼻孔のことで鼻孔とこれに続く金甲で肺の虚実寒熱をみる。



99図

### 気管支拡張症

この患者は左右の金甲の厚みが薄く、特に右側が著名であつた。肺の虚はこのように金甲である小鼻の肉付が薄くなり鼻孔が大きく見える。この逆で肉付良く孔小さく見えるのは肺実とする。

### 鼻炎

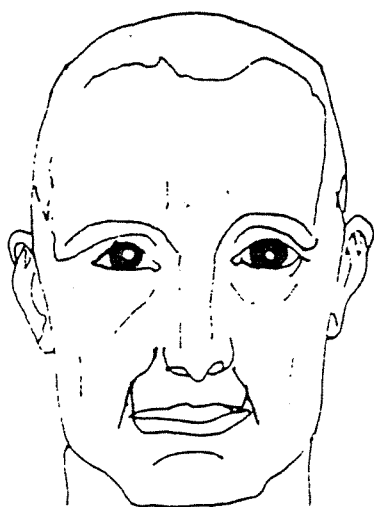
鼻水の多いのは主として寒で鼻孔や金甲下部が黒ずんでいる。アレルギー性鼻炎や子供の夜尿症、老人の頻尿症には辛温の干姜に甘温の甘草を配伍すると甘草干姜湯が出来る。

一方鼻塞には熱によるものが多いから鼻孔の赤や金甲の赤を参考にしながら辛寒の葶藶、辛寒の葶藶、辛微温の桔梗を配伍した処方を考える。

### 仙舎香田

油ぎって艶ある者は栄養過多であり、艶なく枯れ





100図

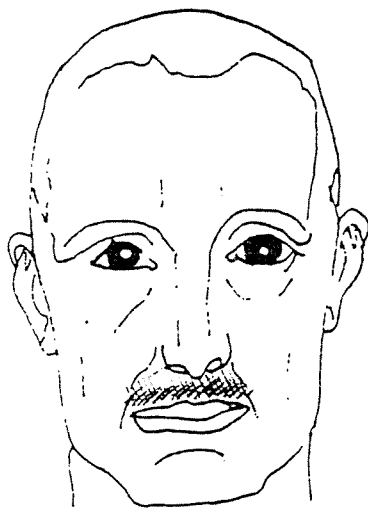
て気なきものは減食による栄養不足である。浪々の身である素浪人は鼻を剣背のように細くメークアップする。つまり仙舎香田を細く薄くするのである。

### 法令

足を表わすもので脚気、坐骨神経痛はその患部に相当する所に蒙色を出す。  
骨折する前には法令が切断し、治るとまた接續するから妙である。(99図)

### 餓死の相

法令が口に入るのは古典には餓死の相と書いてあるが〇市に法令が口に入る患者あり、裸にして蒙色を調査すると左右の期門から鳩尾にベタ蒙を出しており、全く食欲がなかった。施灸にて殆んどの蒙色を消すと口に入っていた法令が全く消失した。(100図)



101図

〇市の患者は噴門癌であつた。一方は食欲不振であり、一方は食べても吐いてしまつて結局は食べられないのが共通していた。

### 意欲旺盛

歯を喰いしげると法令が鮮明になり、顎の力を抜くと法令もぼやける。

いつも奥歯を噛みしめて働いている人や、ものをよく噛んで食べると法令が明瞭になり仕事に意欲の出ない人や、うどんやそばのように噛まずにのみ込む食事は法令を消してしまうようになる。法令を職業線と言つて職業が決まると法令がはっきり出て来るのは以上の理由によるものである。子供は麺類や白米よりも玄米で育てるように心掛けましょう。

### 乳房の発育

顎に來ている経絡は陽明胃徑で、上顎に巨膠と



102図

下関が、下顎に頬車、大迎、地倉があり、こゝから下行して左右の胸部の中央の乳房の真中を貫いて足に達する。

乳房の發育を良くするものもよく嚙むことで左の齒が悪い為に右ばかりで嚙んで食べていると右法令だけが發達すると共に右乳房だけが神経や血管の分化が進み、法令の下端の地倉がむっくり盛上つて来て右乳房が大きくなる。(地倉の高低が乳房の大小を表している。)一方、左乳房は發育しないので左右不揃の乳房になる。

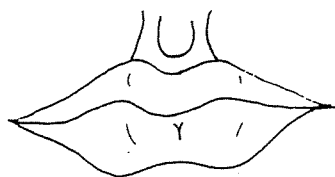
### 食禄

この蒙色と腰の蒙色は此例して腰の蒙色が濃くなると食禄の蒙色も濃くなり、腰の蒙色は年令と共に濃さを増してゆく(101図)

また食禄の蒙色は命門の陽氣の不足だから命門の陽氣を増す薬品や食品が不老長寿となる。

桂枝、附子、肉苁蓉、茴香、破胡紙、胡桃、山椒、淫羊藿、蛇床子、大蒜、等がそれに当る。

この中で誰でも手に入る品は大蒜のんにく、胡桃



少陽病	柴胡劑
	黃芩黃連劑
	陷胸劑
陽明病	承氣劑
	白虎劑

## 傷寒と唇色

(くるみ) 山椒がある。

一方冷症の人は大抵食禄に蒙色を出し、之等の薬品や食品はまた冷症を治す食品でもある。

### 喰扶持

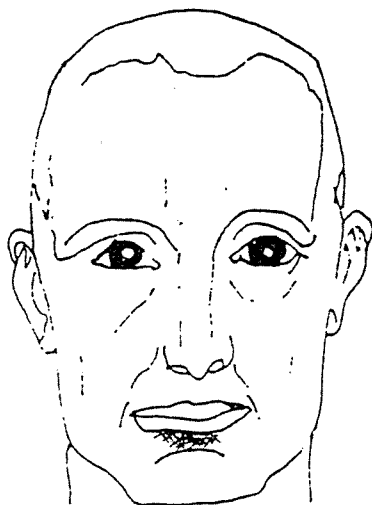
食禄の厚さは上唇の厚さであり、上唇を先天、下唇を後天とするから食禄の厚い人は所謂喰扶持の厚い人であり、之の薄い人は喰扶持の薄い人であるから薄い人は少食、粗食なら天命を全うしますが美食過食は少い天禄を食いつぶして寿命を縮めます。

### 自家中毒

食禄とは食倉と禄倉を一緒にしたもので左を食倉と言ひ右を禄倉という。

古書に食倉に赤氣乱髪之如く出るは急病と書かれてゐるが自家中毒のことである。

私の長男がまだ二、三才の頃、私が蒙色の勉強



103図

中の頃である。高熱が出て一向に下らず医者注射も内服薬も効なく途方に暮れてまだ勉強中の蒙色を探すことにした。

まだ未熟のせいで体はどこにも見当らず顔に一ヶ所、食倉に赤紫色の塊を発見しました。(102図)食倉とは食べものの倉だから冷蔵庫のようなもので、これが故障すると食物が腐敗する。

便通の有無を尋ねると排便がないと言う。

早速浣腸を買って来て一本注入、効果なく更に一本注入すると硬いコロコロの便が続いてどつと灰色の泥状便を排泄、悪臭が部屋に充満した。昼頃はぐったりしていたのに夕方になると走り廻るように回復した。

## 唇

上唇赤きを少陽病とし、下唇赤きを陽明病とする。

次に唇の色による望診法



鯽魚口



四字口

104図

# 承漿

承漿はのみものを承ると書くから飲食物の可否をみる所で現代なら食中毒、薬の副作用が分る。

白	胃虚、気虚	人参、白朮、甘草
青	胃寒	干姜
赤	胃熱	黄连、黄芩
赤黒	痔（瘀血）	牡丹、桃仁
燥裂	燥熱	知母、芒硝
腫張	湿熱	茵陳

## 食中毒（103図）

二人の婦人が同様に同じ大きさで同じ濃さの蒙色を承漿に出しており、食中毒の注意を与えた所、三日後出前の天井を食べて二人共中毒、一方は休み、一方は休まなかった。

この差は口の形態で休まなかった方は四字口で休んだ方は鯽魚口であった（104図）



B

A

105図

これは口のみに限らず他の五官に共通して言えることで形の良否は生来の臓腑の健否を表しており、蒙色は現在の臓腑の病気を表すものである。

### 溜飲

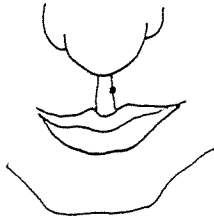
更に油っこいものを沢山食べていると承漿も油ぎって来る。

一方粗食していると先づ承漿が蒼白になり人中も仙舎香田まで蒼白になってゆく。

この蒙色が湿っぽいものであると溜飲やら浮腫を起す水気病となる。

### 人中

人中の二本の縦皺そのものは卵管を表しており、この中央が子宮を表す。そして金甲は卵巢（男は精巢）を表す。



106図

### ホルモン異常

卵胞ホルモンは人中の長さを伸し、黄体ホルモンは人中の幅を広くするから人中短い人は卵胞ホルモンの不足で人中狭い人は黄体ホルモンの不足でどちらも子供が出来にくい。

### 子宮後屈

卵巣を傷出手術した人の人中は傷出した方へ曲り、月日が経てばその方の金甲が萎縮する。

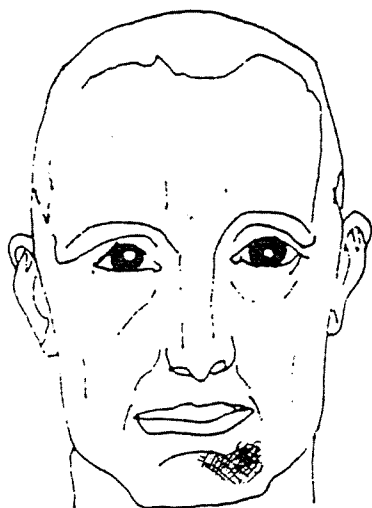
また人中の曲りは子宮後屈か仙腸関節の亜脱臼である。そして細長い人中が曲り易い(105図A)

### 不妊病

子供一人生んで横皺の出る人は以後出来悪くなるから、未婚の女性で横皺のある人はよほどの注意が必要である。(105図B)

卵管は二本の筋で表わされるから一本が真直で一本がよれよれになっているのは卵管の障害で、これも不妊に近い。





107図

### 卵管炎

人中の中央の赤点は子宮癌の疑いとするがこの人中に内接したり外接する赤点は卵管炎が多い。(106図)

### 地閣

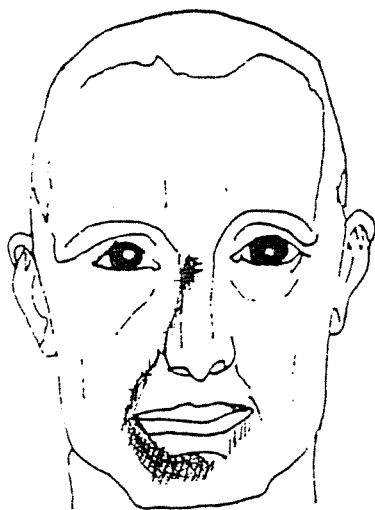
その年の大寒(一月二十日頃)より大暑(七月下旬)までの前半年は司天といって気候の変化を表す六淫が上から下へ侵入するのに対して大暑より来年の大寒までの後半年は在泉と言って主として冷や湿気等が下から上を犯すようになる。

(48頁 運氣論と蒙色を参照)

上を犯すと命宮に表れ、下を犯すと地閣に蒙色が表れる。

特に湿気は埋立地の住宅や湿地の分譲住宅の住人を犯すものでこの為に神経痛、リユーマチ、喘息患者の地閣によく発蒙している。

また自宅に沼や池がなくとも隣家の排水が悪く



108図

て自宅の地下にこの排水が侵入し、その為に隣家は勿論のこと、自分も発病するケースが比隣（隣家）から地庫へ侵入する蒙色でそれを発見出来る。

（107図）

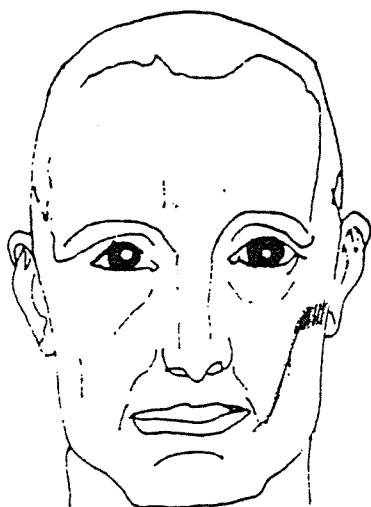
A市の40才婦人、胃の粘膜癌という診断である。肋骨弓から鳩尾に向う蒙色があり、これが粘膜癌の正体であろうと施灸解蒙すると肋骨弓をするする下り始め背中へ廻った。

今度は背中の太陽膀胱経に沿って下り始め腰部まで飛蒙する。

之も消してきて次は何処へ逃げたかと顔を参考にする。顔には地閣にべったり蒙色が濃く枝を法令に伸して上行している。

これは住宅から来る湿気だと気がつき尋ねてみると襖の張り紙がはがれて来る程のひどい湿気の住宅に出張の為仕方なしに住んでいるとの事、そこで腰から足へ下った蒙色も三陰交ですっきり追出してしまった。（108図）

三陰交とは大陰脾経、少陰腎経、厥陰肝経の三陰が交るから三陰交という名があるがこれが陰邪



109図

の侵入口であることが分るとこの名前の意味が恐ろしくなってくる。

### 命門・腎門

どちらも腎虚の時に蒙色を出す所であるが命門の褐蒙は命門の火の過多で陰虚火動と言って手足のほてり、午後の潮熱、等があるから六味丸のような腎陰虚を補う治法を施す。(109図)

一方腎門の蒙色は腎陽虚証であり、前者の逆で冷える方に傾き前者が比較的若年者に多いのに対してこれは老人に多く下半身の冷が著明である。そこで之に腎陽を補う桂枝と附子を加えて八味丸として与えたとよい。

### 運氣論と蒙色

運氣論とは自然界の天候氣候の変化が自然界や特に人体にどんな影響を及ぼすかを理論的に樹立した法則である。

六歩六氣と二十四節との關係表

六 歩	初	二	三	四	五	終
六 氣	厥陰風木	少陰君火	少陽相火	太陰濕土	陽明燥金	太陽寒水
節 序	大立雨啓 寒春水蛰	春清穀立 分明雨夏	小芒夏小 滴種至暑	大立処白 暑秋暑露	秋寒霜立 分露降冬	小大冬小 雪雪至寒

年支と司天在泉の規律表

年 支	司 天	在 泉
子 午	少陰 君火	陽明 燥金
丑 未	太陰 濕土	太陽 寒水
寅 申	少陽 相火	厥陰 風木
卯 酉	陽明 燥金	少陰 君火
辰 戌	太陽 寒水	太陰 濕土
巳 亥	厥陰 風木	少陽 相火

110図

22頁の患者を例にとると昭和五十四年は己未年で110図の表より丑と未年は司天が太陰濕土で在泉が太陽寒水となる。

そして一年の前半の大寒より大暑までは司天が大暑より大寒までの後半は在泉の氣が支配する。

この大陰濕土の司天の氣は上から下を犯すから手の大陰肺經より入り胸にて太陰脾經にバトンタッチして足まで侵入する。

濕氣が上半身にあるときは発汗剤で汗と共に去る治療法を施すが、下半身に到ると利尿剤で排尿する。そして司天の氣なら命宮に發蒙し、在泉の氣によって病むと地閣に發蒙する。

今濕氣の話をしているから在泉が大陰濕土で之に犯された例をあげると110図の表より辰戌年が在泉濕土になっている。今年が壬戌年だから八月以降はこのような患者が多かろうと思われる。

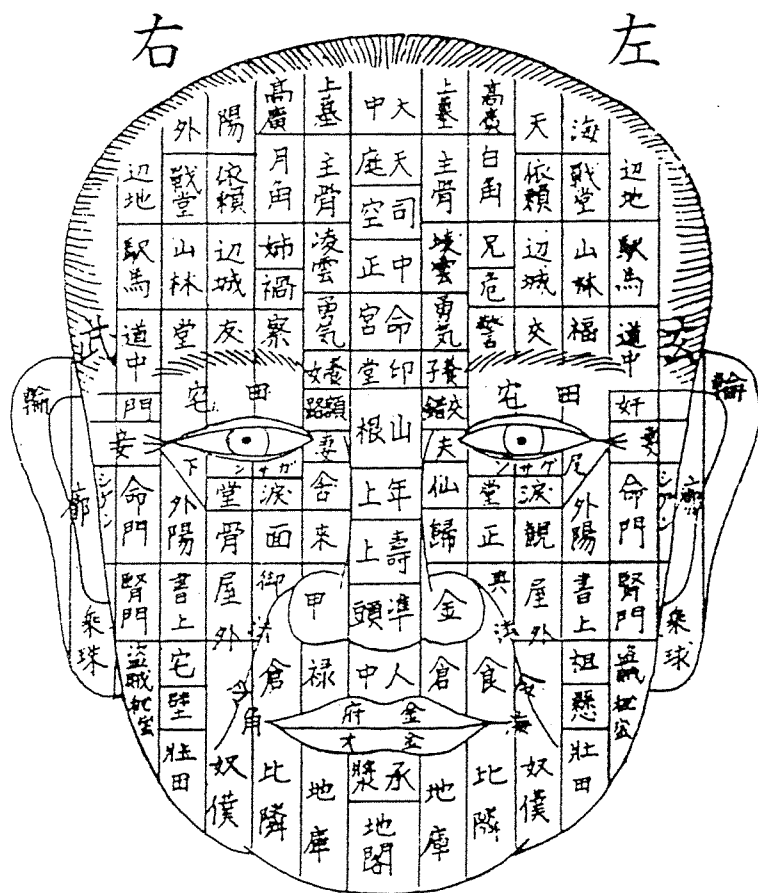
昭和五十一年丙辰年、十二月胸腹滿と神經痛の患者が来た。地閣の蒙色より在泉濕氣が病因であることが分る。

在泉の氣は足から上へ侵入するから足太陰脾經

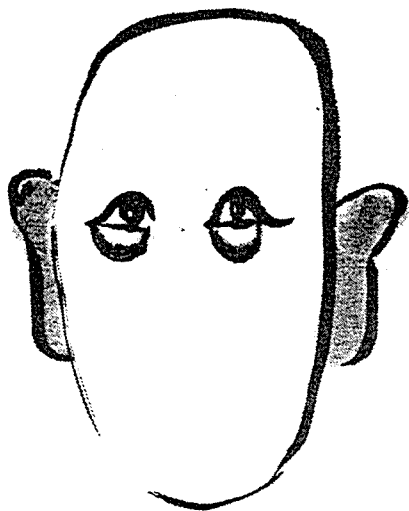
を上行し、血海に蒙色を出し（膝の痛み）、衝門に蒙色を出し（起居不自由）、腹哀の蒙色（腹満）食竇の蒙色（胸満、心煩）を出していた。

衝門の蒙色を消すと排尿を催し、三日間で全蒙色消失、大鼓腹がすっかり凹んで喜ばれました。以上で顔面蒙を終了します。

# 目黒玄龍子鑑定面図



蒙色望診通信講座 完結編



第 111 図

下巻で顔面蒙色を終了にする予定でしたが神相金較剪という本の「相疾病之総訣」に顔の形態と色との総合判断をする所が八面と蒙色で総合判断するのと似ており、しかもその判断法が面白いので解説してみます。

## 相疾病之総訣

### ○腎虧眼胞黒

腎欠ければ眼胞黒し

腎系統の故障は下瞼の涙堂の下縁が黒くなるというものであるが涙堂が腫れぼったくふくらんだり、更に進行すると耳も黒くなって来るものです。

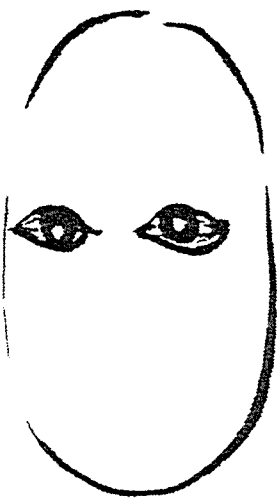
(第111図参照)

治法は茯苓剤で利尿する。例、八味丸。

### ○肺熱準頭紅

肺熱すれば準頭赤し





第 112 図

準頭は肺、大腸を表すから赤なら熱で黒なら寒とする。しかしこの色は準頭だけに表れるものではなく、準頭から金甲の上半にかけて表れるものである。鼻炎、喘息、蓄膿症の患者の用薬の寒熱を見分ける重要な望診点である。  
治法は麻黄剤。例、葛根湯。

### ○肝盛双眸赤

肝盛なら双眸赤し

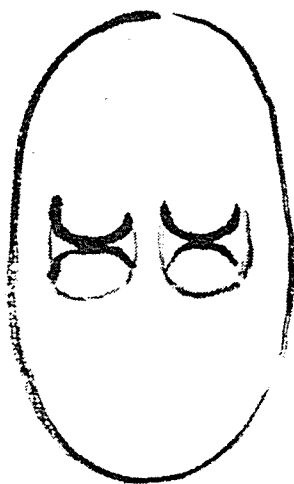
厥陰肝経は眼を通っているから肝盛なら（肝火）眼に赤脉が増えて赤く見える。（第112図参照）

治法は生地、知母、黄柏、芍薬、当帰、熟地で肝火を清熱する。その他いつもは健眼なのに斜視の様に見えるのも肝火とみます。

### ○寒喘両額烏

寒喘なら両額の烏

準頭と同様に両額も肺を表すから呼吸器系の病



第 113 図

は両頬と鼻準を参考にしなければならない。烏とは黒いことで黒は寒を表す。

治法は辛温の干姜、細辛、附子剤。

### ○多風藍眼白

多風なれば藍眼白し

藍眼とは黒目のことでこれが急に白く見えるときは傷寒、中風、破傷風等の外感によるものではないかと考えてみようというもの。

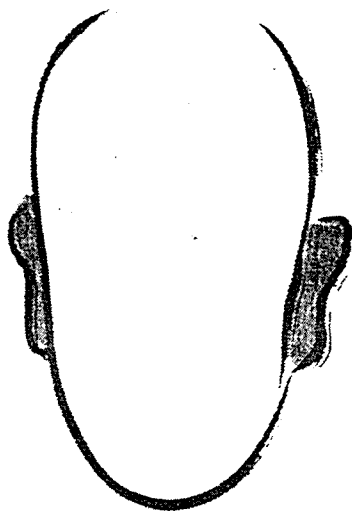
治法は辛温発散の麻黄剤。

### ○多痰眼胞腫

痰多ければ眼胞腫れる。

痰とは水毒のことだから水毒症になると両眼が腫れぼったくなる。この場合上下の瞼が腫れぼったくなるのは水気病として治療し、下瞼だけの腫れなら痰飲の治療をする。(第113図参照)

治法は水気病なら越脾加求湯の「面目黄腫」を



第 114 図

参考にして裏水を排除する。痰飲なら茯苓剤で利水する。

#### ○痰湿眼中黄

痰湿なれば眼中黄

痰飲でも湿病（風湿、寒湿、湿熱）でも水分代謝障害になると眼が黄濁する。

治法は下巻18頁参照。

#### ○寒胃口唇青

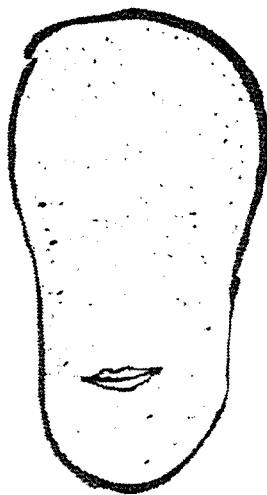
胃が寒すれば口唇青し。

口唇の青い人は胃が冷えている人だというのが顔も陽明胃経が走っているから青白くなる。

治法は下巻42頁参照。

#### ○腎絶耳黒槁

腎絶すれば耳黒く槁る。



第 115 図

腎臓が働かなくなると耳が薄黒く枯れた様に艶潤いがなくなつて見える。これは透折をやつてゐる患者に多く見られるが耳のみならず顔も青黒く枯れてみえる。(第114図参照)

### ○ 湿盛面皮黄

湿盛しつまつなら面皮黄めんひかう。

湿氣に犯された病は顔色が黄色くなるというが先づ眼が先に黄色くなる。

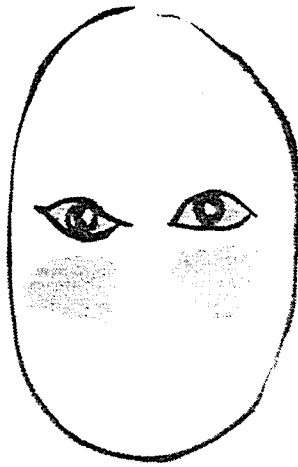
治法は下巻18頁参照。

### ○ 肺熱皮毛燥

肺熱はいねつすれば皮毛燥ひまうく。(第115図参照)

肺は皮毛を司る。だから肺熱なら顔や手足の皮膚が乾燥して粉をふいた様に見える。

治法は肺が燥くと空咳が出るが、これには麦門冬の様な潤燥剤を与える。例、麦門冬湯。



第 116 図

# ○血熱眼額紅

血熱ならば眼額紅し

血熱というは末梢血管や毛細血管の充血だから顔の一番目につき易い頬が赤くなり眼も充血して赤くなる。(第116図参照)

治法は黄連黄芩剤(虚証なら山梔子)で血熱を清す。

# ○夾色眼昏暗

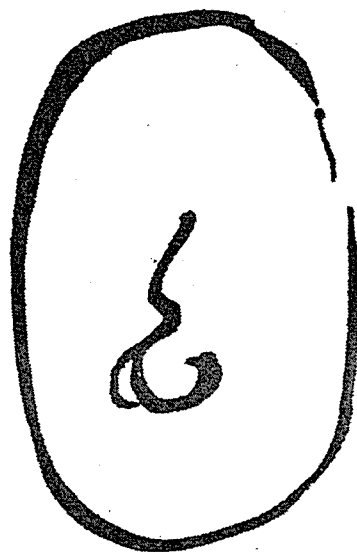
夾色なるは眼昏暗

夾色とは色あさりする人のことで金匱要略虚劳篇の失精家に相当する。この様な人は下睨は焦褐色で艶なく枯れている。そして眼はとろんとしてる。

治法は桂枝加竜骨牡蛎湯等がある。

# ○足傷月亭沈

足を傷めるは月亭の沈



第 117 図

手足も脾胃も五行は土で、鼻も五行は土に相当する。つまり手足は脾胃の支配下にあるから脾胃を表す鼻に欠陥のある人は手足が痿えたり骨折し易い。月亭の沈とは鼻の山根から年寿が沈んでいるというから鼻梁の折れたり低かったり、蜂の腰の様に急に細くなったりした山根をさす。

この様な山根の持主は脾胃も弱いし手足も弱い素質を持つものが多い。(第117図参照)

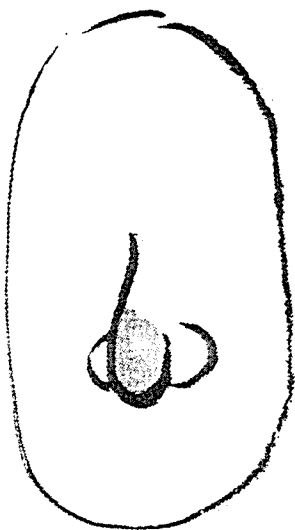
治法は金匱要略虚劳編十三条「虚劳裏急、悸、𪔐、腹中痛、夢失精、四肢痠疼、手足煩熱、咽乾口燥、小建中湯主之。」にある様に脾胃のある中をしゃんと建て、やると四肢の痠疼(だるくて痛む)は治ると。

つまり小建中湯証かどうかの看別は山根の低、狭を探せば良い。

### ○失血烏年寿

失血なれば年寿なんじうの烏く

失血する様な病気は年寿が黒いのでそれで分る



第 118 図

というもの。但し年寿の赤で失血するものもある。  
下巻 9 頁参照。(第 118 図参照)

治法は薄黒く見えるというものだから赤蒙から青蒙、単なる蒙色と三種類に分かれるが赤蒙なら瘀血で牡丹、桃仁剤、青蒙なら柴胡剤、蒙色なら当帰川芎剤等が考えられる。

#### ○遺洩面青黃

遺洩いんいなれば面青黃めんせいかう。

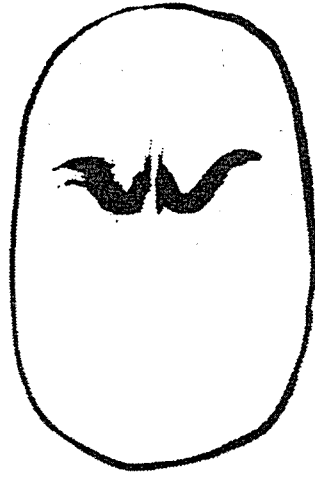
遺精する人は面が青黃という黄色を脾胃の色とし青を寒とすると脾胃の虚寒となる。

治法は補脾の小建中湯となるがもし顔が蒼黒なれば八味丸や桂枝加竜骨牡蛎湯となるし浅黒ければ滋陰降火湯がある。

#### ○気虚面黃腫

気虚ききょすれば面黃腫めんかうしゅ。

内臓の元気の虚したものを気虚というが、この



第 119 図

様な人は顔が黄色くむくんで見えるという。一方血虚（貧血等）では顔が白くて干からびて乾燥してみえる。

治法は下巻42頁参照。

### ○多汗面唇青

多汗なれば面唇青<sup>めんしんあせ</sup>し。

多汗症は顔も唇も青いというのがこの外に白もある。

治法は青なら柴胡剤、白なら建中剤や黄蘗剤。

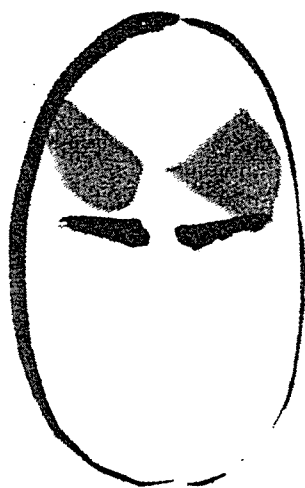
### ○痛甚眉心縷

痛甚しければ眉心縷<sup>びんしん</sup>。

猛烈な痛みは眉間に皺を寄せるというもので軽い痛みでも心痛や胃痛では眉間に皺を寄せるが猛烈なものになるとどんな痛みでもこうなるでしう。（第119図参照）

治法としては辛温の巴豆剤や烏頭剤。





第 120 図

○唇白勿嘗寒

唇白きは寒を嘗む勿れ。

唇白い人は冷い物を食べたり飲んだりしてはいけないという。しかし白を虚とし青を寒とするから白よりも青い唇の方がこの注意が必要である。

治法は下巻42頁参照。

○火燥額堂黒

火燥なれば額堂黒し

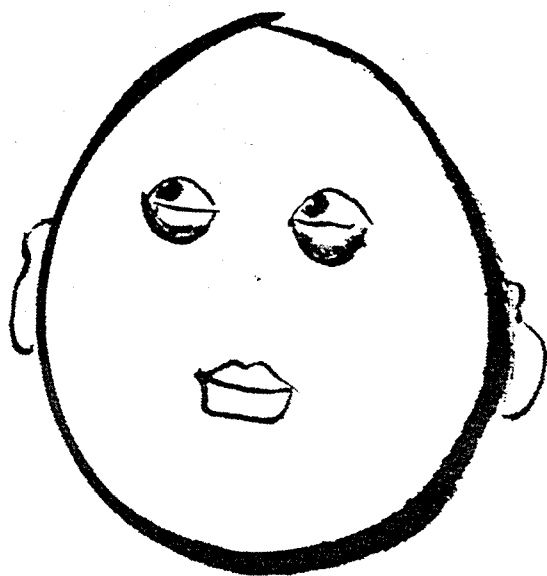
陰虛火動と云って腎水が枯れて肝火や命門の火が炎上して脾や肺を灼きつくす病氣は額（特に山林が）が赤茶けて焦げた様な黒さに見える。

治法は下巻19頁参照。（第120図参照）

○額焦宜補水

額の焦けたるは補水に宜し

額の焦げた様に見える人は陰虛火動だから陰の津液を生ずる薬を与えて潤してやるとよい。



第 121 図

前条と同じことを云っている。

治法は下巻 19 頁参照。

○ 頬赤宜清肺

頬の赤きは清肺に宜ろし。

頬と鼻準は肺の寒熱を表す所だから、この赤は熱だから肺熱を清す薬が良ろしい。

治法は辛平から辛涼、寒の桔梗、葶茎、葶芦劑。傷寒による肺熱なら麻黄劑。

○ 肥盛宜除痰

肥盛なら痰を除くに宜し。

肥り過ぎは水毒症の場合が多いから利尿劑で余分の水を除くとよい。(第 121 図参照)

治法は茯苓、白朮劑。例、真武湯。



第 122 図

### ○面黒藍防蠱

面の黒藍なるは蠱を防ぐべし。

顔色が黒藍になるのは住血吸虫病に感染したことを表す。(蠱とは住血吸虫病のこと、これにかゝると気管支炎、腸炎、腎臓肝臓の腫大、腹腔の蓄水、下痢血便等の症状を併発して衰弱して死んでゆく、中国の揚子江沿岸に流行した寄生虫病)

### ○羸弱防氣虚

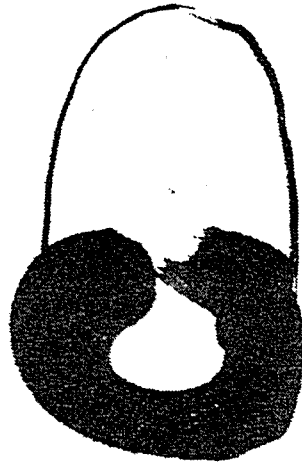
羸弱なるは氣虚を防ぐべし。

ひ弱い人は概して胃腸の弱った人が多いからもっと肥る食物を与えようと思つても受附けないから先づ胃腸の働きを旺盛にする薬を与えるべきである。(第122図参照)

治法、人参、白求剤。 例、四君子湯。

### ○洩瀉面黄白

洩瀉するは面黄白。



第 123 図

慢性下痢の人は顔色の黄白色の者が多い。  
治法は脾虚を補う。例、小建中湯。

### ○瘦人肝火盛

瘦人<sup>そうじん</sup>は肝火<sup>かんか</sup>が盛なり。

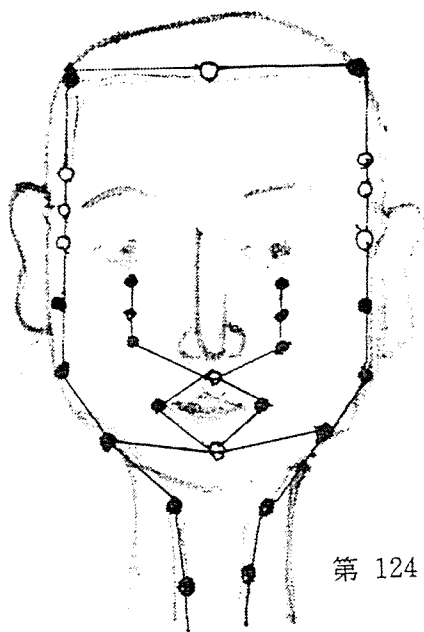
一般に痩せの大声という様に勘癪持ちは痩せた人に多い。この様に肝の嵩ぶる病氣も肝火なら、陰虛火動にも肝火がある。

治法は柴胡剤で平肝又は清肝する。

### ○鎖喉鬚噎食

喉<sup>のど</sup>を鎖<sup>くわ</sup>す鬚<sup>ひげ</sup>は噎食<sup>えっし</sup>ならん。

あごひげ（鬚）が咽喉まで連っているのを喉を鎖す鬚というが、噎食とは食物が咽につまるとも噎ぶとも読み食道狭窄や噴門狭窄を表している。つまり喉を鎖す様なひげの濃い人は陽明胃經の寒さを表しており、その為に食物がやがて咽喉を通らなくなるだろうと。



第 124 図

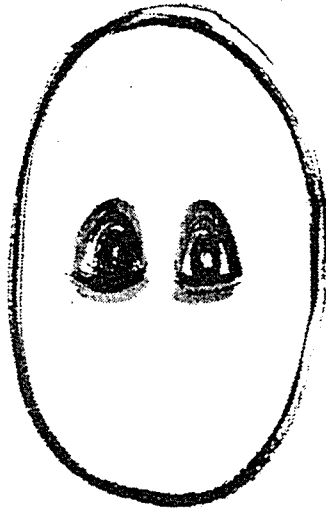
これは拡大解釈をすれば噴門癌とも考へられるし、もっと軽く考へるとお茶を服まないと食物が咽喉を通らない老人や丸剤やカプセルが服みこめない人にも適用できる。(第123図参照)  
治法は胃寒を温める干姜、人參剤。

#### ○困口髭胃寒

口を困<sup>い</sup>する髭は胃寒ならん。  
口を困<sup>い</sup>するとは口を覆い囲む様な濃い髭は前条と同様で胃寒によるものだろう。  
スターリンの髭等はこの困口髭に当るだろう。  
(第124図は陽明胃經の面部走行図)

#### ○腹痛面唇白

腹痛するは面唇<sup>めんしん</sup>白<sup>しろ</sup>し。  
よく腹痛を起す様な子供は顔色も唇も白かろうというものである。  
治法は補脾剤として小建中湯がある。



第 125 図

○眼円突防狂

眼円の突とつなるは狂を防ぐ可し。

眼玉の飛出した様に見える人は発狂し易いとい  
うものだがバセドー氏病も之に当る。

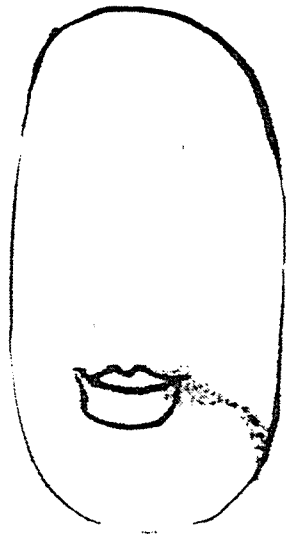
(第125図参照)

治法は眼を肝の竅とする。目玉の突出したのを  
驚とすると頬驚の柴胡加竜骨牡蛎湯がある。

○似病鶴癆症

病鶴びやかくに似たるは癆症ろうしちならん。

病氣の鶴はどんな形だか未だ見たことがないが  
多分首をシャンと伸してないのでしよう。鶴のよ  
うに痩せて細長い体で、それでいて体を真直にシ  
ャンと伸ばせず猫背のような形をしているのは肺  
結核に多いというもので、これは八面体質に分類  
すると若衆面に当る。



第 126 図

○如柴定骨蒸

柴の如く（肋骨の露なるは）定めて骨蒸ならん。  
瘦せているために柴を並べた様な肋骨が目立っているのは肺結核に多いものである。

○鬼味面藍黒

鬼味なるは面藍黒

狐つきと呼ばれる病気を鬼味というがこの様な病人の顔は藍の様になったり黒くなったりする。

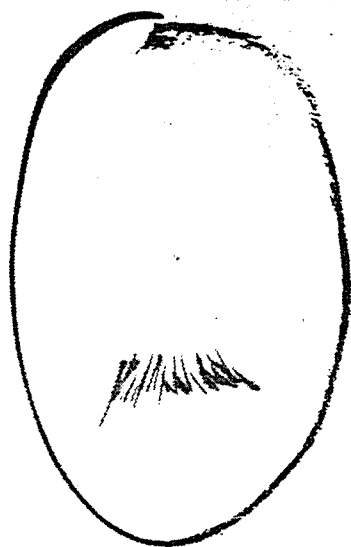
金匱要略狐惑病に「其面目乍赤乍黒乍白。」甘草瀉心湯主之。とある。

治法は甘草瀉心湯。

○服毒白入口

服毒すれば白口に入る。

白氣が口に入ると中毒するというものだが、白氣に限らず蒙色でも口に入ると食傷りや食中毒をするから要注意、この白氣や蒙色も解蒙治療する



第 127 図

と消失する。(第126図参照)

### ○鬚紅下血徴

鬚の紅なるは下血の徴なり。

鬚は血の余りだから之が赤茶けて来るのは血燥で放っておくとやがて下血するだろう。

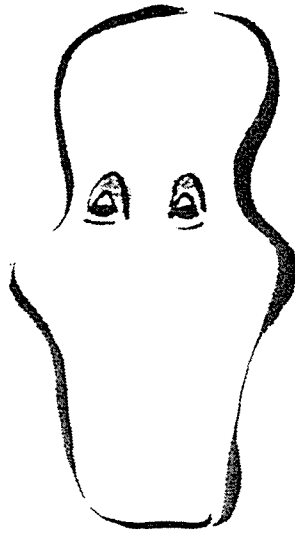
治法は血燥を潤す地黄剤。(第127図参照)

### ○面黄如染紙、傷風及血崩

面の黄なること染紙の如きは傷風及び血崩ならん。傷寒論では傷寒七八日、身黄なること橘子の色の如し。小便利せず、腹微満するものは茵陳蒿湯之を主る。(陽明病)と云うている。この傷寒を傷風に書き変えると同じことを云っている訳で、元来胃に湿気を持っている人(顔黄)が熱病に犯されると黄疸になり放っておくと下血する(血崩)様になるだろう。

治法は瘀熱、裏実を下す茵陳蒿湯。





第 128 図

### ○眼深成眼病

眼深きは眼病ならん。

眼が深く陥没して俗にいう金壺眼のことでこの様な人は奸門も深く陥没しているものだ。そしてこの面は肝系統の老面だから比較的早く老人性眼病といわれる緑内障や白内障にかゝるものである。

(第128図参照)

### ○鼻醜腰不寧

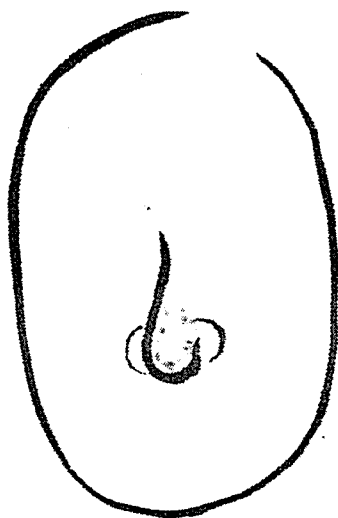
鼻醜くければ腰寧からず。

鼻は腰を表す所だから鼻の異常は腰痛等の持病を考える可きである。この鼻は準頭、年寿と比較的鼻の下部を参考にする。懸胆鼻といって胆嚢を垂らした様な形の鼻の者に多い。

### ○怪部黒憂痔、斑点亦同評

怪部黒きは痔を憂う。斑点も亦同評なり。

鼻の準頭あたりの黒氣や黒点は痔の存在を疑う



第 129 図

可しというものである。こうしてみると年寿や準頭の薄黒き蒙色は痔やその結果の痔出血を表していることになる。(第129図参照)  
治法は6頁参照。

# ○懸針兼鎖印、中焦病必成

懸針に鎖印を兼ねるは中焦病必ず成らん。

懸針紋とは印堂に木綿針を垂らした様な縦皺のあることで、更に左右の眉が寄つて来て印堂に連続する様(鎖印)なら必ず胃腸病となるだろう。

左右の眉が印堂に伸びて交る様な人は非常に神経質の人だからそれだけで充分神経性の胃炎や腸炎をやるだろう。更に上から気のある懸針紋が印堂を破ると当然胃病は間違いないだろう。この場合も形態は素質を表し蒙色は発病を表すからいよ／＼発病となると、蒙色を印堂や山根に表す様になる。(第130図参照)



第 130 図

○鼻上成三折、手足断驚

鼻上で三折を成すは手足断驚くに宜し。  
鼻が三段に折れる様な人は未だ見たことがない  
が山根の折れている人は多く見かける。  
この解説は5頁で解説済。

○痰盛面光亮

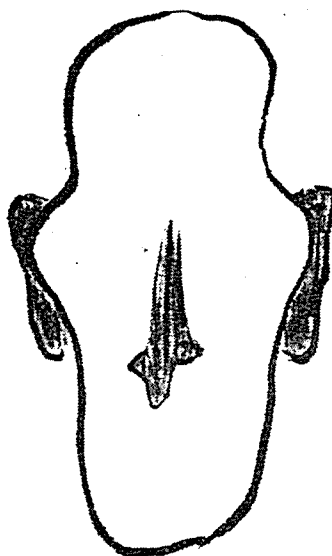
痰盛なれば面光亮る。

水毒症の病人は顔の光が風呂上りの様に水々しい。ぬるい風呂に入っていると水が毛穴から入り顔がツルツル光って来る。風邪引き等で表が虚しているところの様に寒のみならず湿までからんで来るから風邪気味は風呂に入れるなど云う。

治法は溢飲の小青竜湯、大青竜湯がある。

○気緊防癆瘦

気緊きは癆瘦を防ぐ可し。  
気短のやかまし屋は結核になっていたたり、やせ



第 131 図

ぎすの体質の者に多い。

これは若衆面や妾面の体質である。

### ○将亡鼻耳暗

将に亡びるは鼻耳の暗。

余命いくばくもない病人は鼻も耳も暗い。

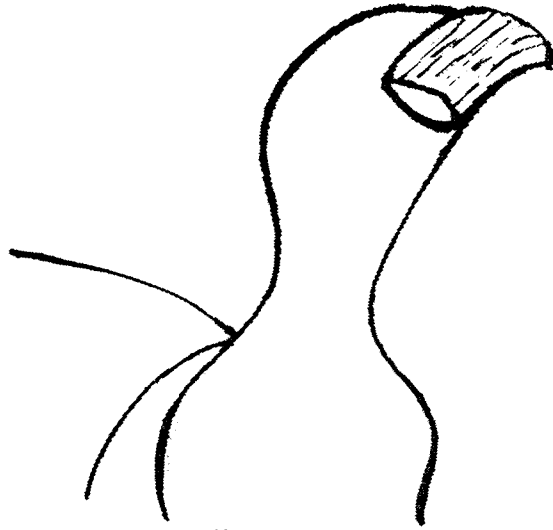
耳の黒気は前述しているので鼻について述べる  
と長病の死は鼻の気色を第一とし急病急死は眼の  
神気を第一とするという法則がある。

耳の黒気を腎の絶とすれば鼻の黒気を脾胃の絶  
とする。(第131図参照)

以上で相疾病の総訣を終わります。

次に細井東陽原述四診備要の内で察病色之伝が  
使えそうだから解説してみましよう。

○長病ノ人掌中ニ紅氣出テ指ニ登レバ次第ニ全  
快ス。長病ナリトモ天庭ノ黒氣去リ、土星ニ潤  
出テ、爪根ニ紅氣出レバ全快ス。



第 132 図

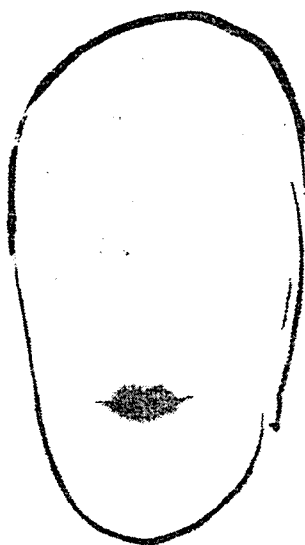
長病は急病と異り虚寒証が多い。虚寒証は手足の末端まで血行が達しないから蒼白な手掌をしているが、之が紅氣出て指の末端まで達すると全快するのは当然である。

次に長病でも額の生際（天庭）は陽明胃經の走行路で、この黒氣が去ると胃の氣の回復だから当然胃を表す山根（土星）に潤い出て来て、脾は運化（手足の末端まで栄養素を運ぶ）を司るから爪根に紅氣出る様になって全快す。

○爪薄ク立筋出来ルハ血分ノ虚ナリ。

爪が薄くなり細い立筋が沢山出来てスプーンの様になり返るものは貧血に多く表れる。

しかし厚い爪にも立筋が出来るがこれは貧血ではなく老化現象だという人もあるが神経を使う人に多い。（第132図参照）



第 133 図

○大指の爪色悪変スレバ一月ノ内二病起ル。

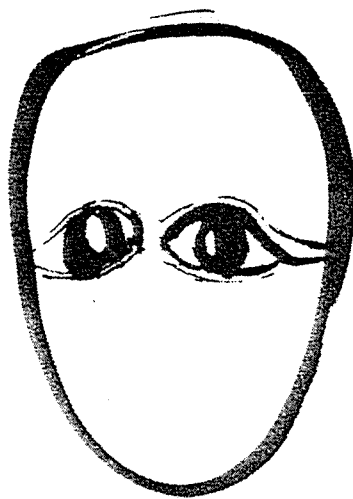
大指は親指で、親は他の指の代表格であるから、他の指の爪色悪くとも体調が悪い程度で発病とまではゆかないが、他の指と共に親指まで悪変すると発病すると云えましょう。しかし例外が沢山あります。下巻2頁参照。

○唇青キ者ハ老テ後、嘔噎ノ病起ル。

唇は胃を表し、青は寒で、胃寒の体質の持主である。若い間は陽気が旺んで胃弱程度で大した事がなくても老て来ると陰気が増して来るから胃寒の症状が著明になる。

胃は脾からの熱エネルギーで食物を消化するが、この熱エネルギーが無くなって来ると食物が消化せずに胃に停滞する。

嘔噎とは横隔膜（隔）の位置で噎とも、つまるとも読みますから、食物がいつまでも胃に停滞しているとおつまる感じがするし、停滞した食物が吐きそうになるとむせぶことになります、辛温の干



第 134 図

姜、人参剤で温補するのが治法でしょう。

(第133図参照)

○瞳孔トモニ大ニナリタルハ前夜姪事アリシナリ、或ハ大酒。

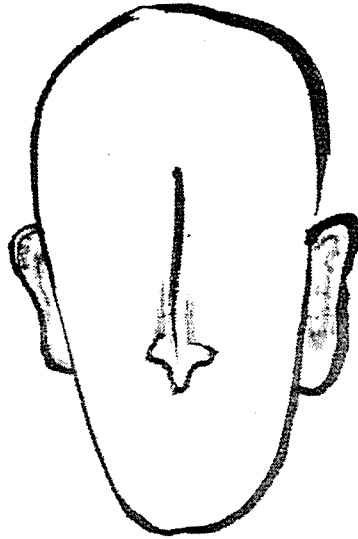
瞳孔共に大きくなるのは交感神経の緊張症、例へばバセドー氏病の如し。

今流行のヒロポン中毒者がこれで瞳孔が開けばまぶしくて昼間は歩けないからサングラスをかけて横行することになる。また昼酒をのめば太陽がまぶしくて外を歩けないし、それとおてんとう様が黄色く見えるのも同断です。(第134図参照)

○鼻ノ両脇枯レ耳黒ク物ノシミタル如クナル者ハ、百日ノ内二病起ル。

鼻の両脇とは法令のつけ根の所で法令を足とするとそのつけ根は腰になる。腰は腎の府と呼ばれるから腎を表している。

つまり腰痛を枯れた色が表しており、この腰痛



第 135 図

は筋肉、骨、疲労、腎障害、関連痛と色々の原因でおこるが耳の蒙色から腎障害だと判断出来る。また耳黒く物のしみたる如くとは蒙色のことで丁度永く風呂に入っていない浮浪者の耳の様に薄汚れて見えるものである。(第135図参照)

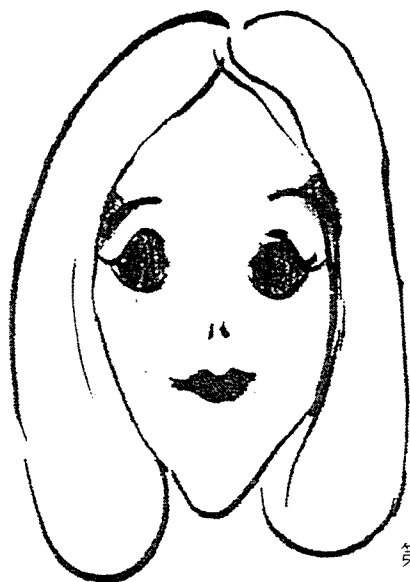
○鼻ニ赤氣出テ肉ニ附カズ、印堂ノ皮キラキラト滑カニシテ、天庭青黒色出ル者ハ病必ズ起ル。

印堂の皮きらきらと滑にしてとは風淫による外感(例へば風邪の初期)だから発熱頭痛。骨節痛。頂背強、悪寒等の症状をやがて表すでしょう。鼻の赤氣は肺熱とし、天庭(広義で額)の青黒は風寒が上から侵入した事を表す。

○眉ノ先ニ雲ノ如クニ白氣起リ、天庭準頭ニ赤氣ムラムラト見ルル者ハ病起ル。

眉の先には眉頭と眉尾があるが普通小人形法で考えても発病に関係深いのは眉頭の印堂になる。





第 136 図

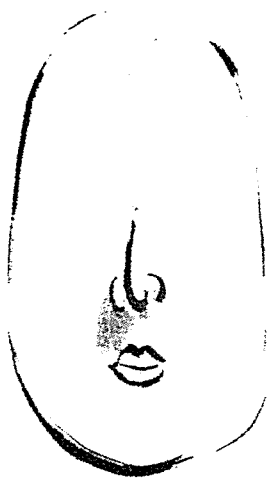
今度は印堂が白くなるというから白を燥金とすると燥淫になる。燥淫には寒熱があるが天庭（広義）や準頭の赤から燥熱に犯されたことが分る。

○唇黒ク舌白ク、奸門黒氣出デ眼中濁ルハ血虚ナリ。

唇黒は寒とする。舌白くは心血の虚つまり貧血。奸門の黒氣と眼中濁るを肝火とすると当归芍薬散となる。この場合貧血かどうかの判定なら舌白、唇白で充分であるがその他の情報が処方を決める参考となる。（第136図参照）

○準頭両額骨青氣出ルハ病起ル。

準頭も両額骨も肺を表すから、青黒を寒とする。これは寒喘（寒による喘息）になる治法は2頁参照。



第 137 図

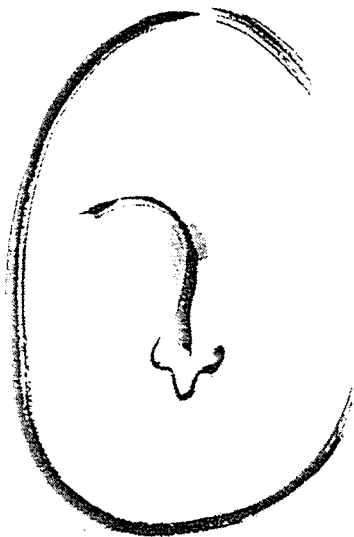
○面部ノ下停ニ青黒氣出ルハ、腫物起ルノ候ナリ。

化膿症は表裏して発汗すべきものあり（葛根湯）表虚して補うべきものあり（白朮附子湯）瘀血で下すべきものあり（大黃牡丹皮湯）それぞれ局所症状以外に全身症状を併うものだが、この条の様に局所の化膿性浸潤のみの場合には青黒の青を血滯とし黒を寒（陽虚）とすると治法は陰血を補い浸潤性疼痛を和げる枳実芍薬、枳実の芳香と桔梗は氣を利し氣滯を散らす枳実芍薬散又は排膿剤が考えられる。

しかも血症は下半身に起き易いから面部の下停と対立している。（第137図参照）

○惡色何レノ処ニテモ登ルハ、病進ムナリ。横タハルハ病長引クナリ。下ヘ下リテ次第ニ消散スルハ、急ニ治セズトイヘドモ自癒ス。

この惡色は蒙色のことで登るものも下るものも氣あるものは病は進みます。氣なきものは急変は



第 138 図

なくとも永引きます。気の散ずるものは上るものも下るものも治つてゆく。

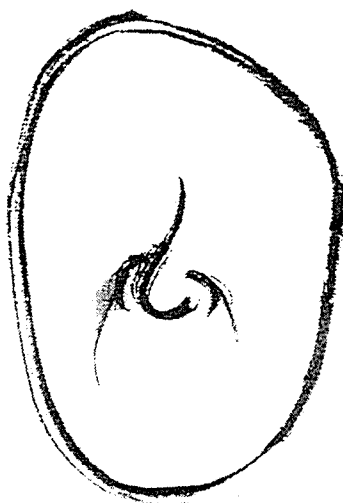
○印堂黒暗氣出ル者ハ、一月ノ内二病起ル。

印堂の黒暗は火淫の寒邪のいわゆる傷寒で一ヶ月どころか一週間も経たぬ内に頭頂強痛や惡寒發熱の症状が表れる。(第138図参照)

さて火淫も風寒、燥熱、寒と進んで来ましたので治法を考案すると素問の至真要大論篇に寒淫勝つ所、平ぐるに辛熱を以てし、佐くる甘苦を以てし、鹹以て之を瀉す。そこで辛温の麻黄桂枝、甘草杏仁の甘苦で麻黄湯が構成される。

○病ノ起ルヲ見ルハ第一二先ツ年上寿上ノ色ヲ見ル。年寿惡色出レバ必ズ病起ル。

前条までは外威による発病を述べて来たので今度は内傷による発病の記述である。この場合の年寿は広義の鼻全体を指す。鼻は上から山根、年上、



第 139 図

寿上、準頭と分かれており山根が胃、肝、脾、脾を、年寿、準頭で小腸、大腸と消化器系統全部を表しているからこの鼻に出る悪色は食生活の不摂生から招く病難である。

殊に山根の周辺を疾疫宮と呼んでいるから先づ山根から年寿、準頭と望診する必要がある。

○法令二青氣出テ赤氣交レバ病起ル。

法令は足を表わし、青氣は寒又は血滯とし、赤を炎症とすれば神経痛、リウマチ、関節炎等でしょう。(第139図参照)

治法は寒なら辛温の桂枝、附子、血滯に虚証なら当帰、川芎、実証なら牡丹皮、桃仁がある。

○人中二青氣出テ、黒暗ヲ兼ネル者ハ食傷ナリ。

人中に一番多く出る色は赤点、赤苞で青氣は未だ見たことが無い。

次に人中を含む位置となると食禄で、此処に横



第 140 図

一文字の蒙色は冷症で（中巻26頁参照）次にこの食禄を更に分類すると、食倉と禄倉に分かれるが食倉の青黒や青赤色は食傷である。（下巻39頁参照）

○都テ色青キハ血ノシマルナリ。メグラヌナリ。滞ルナリ。

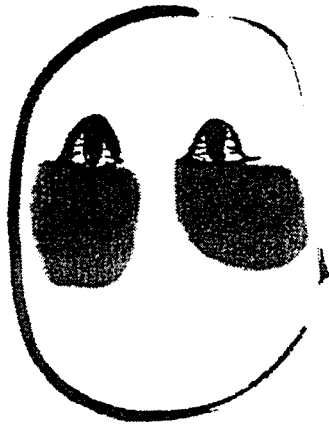
青色の着眼点は先づ眼、次に眼の周辺、つまり山根、印堂、奸門、次に頬から頤にかけて静脈の青く鮮明なものを探す。

治法は気が滞って緊張しそのため血凝りて滞るを解消する柴胡剤を使用する。（第140図参照）

○都テ色黄ナルハ脾胃ノ勞スルナリ。

脾胃の勞とは脾胃の虚で、脾胃が虚すと湿を悪むと云って、湿気を発散出来なくなつて体内で貯溜して来るようになる。

また脾胃が弱らなくてもいきなり湿気の侵襲が



第 141 図

あつても黄色くなるのは下巻18頁参照、  
すべて望診法で五色をみるときは先づ眼を見、  
次で顔全面に進んでゆく。この条文で役に立つの  
は子供の急性の腹痛で、眼黄なるは小建中湯を与  
え、青なる者には小柴胡湯を与える。

○都テ色赤キハ虚火ノ上ルナリ。

赤気の軽きものは虚火でいゝが赤気の甚しきも  
のは実火だから全部虚火を断じてはいけない。

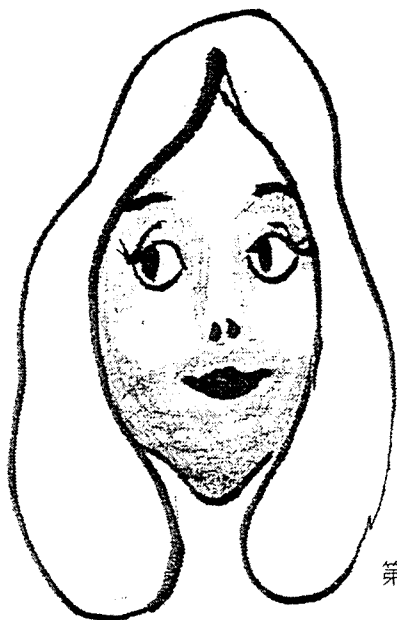
(第141図参照)

治法は実火は大黃、芒硝、黃連、黃芩、梔子等  
で瀉す。虚火は人參、黃芪、甘草等で補す。

○都テ色白キニ過ルハ氣血ノ枯ルルナリ。

肺は氣を司つて百脉を参集させ全身に氣血を配  
布しているから白くても艶あるは健康色ですが艶  
潤いのないのが氣血の虚である。

解説は下巻19頁参照。



第 142 図

○都テ色黒キハ寒トナシ痛トナス。

これは本文より脱落しているので追加して五色とした。

黒を寒とするから血脉が寒にあると凝固して不通となり。痛む様になる。(第142図参照)

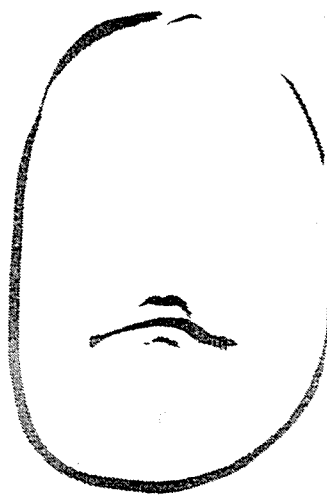
治法は24頁参照。

○都テ色潔白、鮮明、明潤、潤沢ノ四色ハ無病ノ吉色ナリ。

以上で五色の解説を終わりますが、どんな色でもその色に潤いがあるのを氣有余とし、健康色で潤いのないのを無氣として病色である。

○年上赤氣起リテ上ニ衝キテ上ルハ吐血ナリ、但シウネリ有レバ輕シ、真直ニ上下スレバ危ウシ。  
○寿上赤氣起リテ下ニ走ルハ下血ナリ。

解説は下巻9頁参照。



第 143 図

○唇ノ色黒キハ痔ヲ病ム。

唇の色は胃腸そのものと入口と出口を表しますから、この色の黒は寒だから苦温や辛温の当帰川芎剤が考えられる。

また赤黒なら瘀血だから牡丹皮桃仁剤でしょう。また準頭の蒙色や口角の周辺の蒙色も痔疾の望診点に重要です。

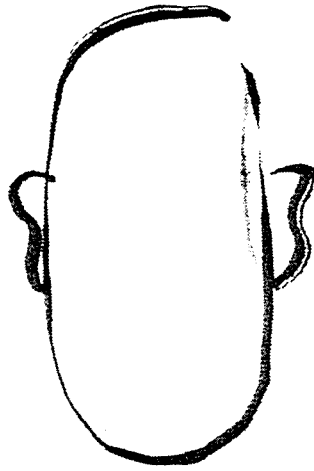
○地閣二黒氣出レバ下焦ノ病起ル。

司天の六淫は上から下え侵すから、先づ額の命宮に蒙色が表れて次で中停の鼻に進む。一方在泉は足から侵入するから下停に蒙色が表れて上へ侵すから、やがて中停の鼻に達する。

この地閣の黒氣も在泉の侵襲によるものだから先づ下焦の病から始るといえましょう。

(第143図参照)





第 144 図

○懸壁ヨリ馭馬二連ナリ黒氣出レバ、其ノ体二痛ム処アリ。

正面靦骨を胸の陽となし、側面靦骨を胸の陰となす。また黒氣を寒水とする。懸壁は側面靦骨だから胸部の水結と判断する。これは結胸で治法は陷胸剤を投与する。(第144図参照)

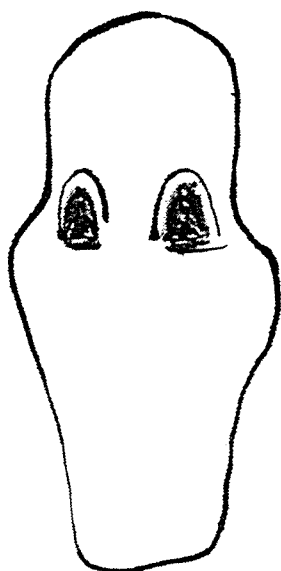
○金甲ニ土色起レバ、其年二病起ル。

金甲は肺を表すから金甲に土色が現れるということは肺寒の状態で、この時に風邪等を引くと肺寒によるアレルギー性鼻炎、喘息、咳、痰の症状が出て発病する。

治法は下巻36頁参照。

○腎尻常ニ冷ユレバ病起ル。

腎尻常に冷えるとは腰眠や左右の腰眼を結ぶ線と腰椎の交叉点に陽関という経穴があり陽関とは陽氣の入る関門という意味で冷症を治す経穴であ



第 145 図

る。この腰眼の蒙色は万病の元であることは上巻  
26 頁を参照下さい。

○元来肥満ノ人（急ニ）瘦セルハ痰ナリ。

脂肪肥りの人は急に瘦せることは考えられない  
が水肥りの人は発汗剤や利尿剤で急に瘦せること  
はあり得る。

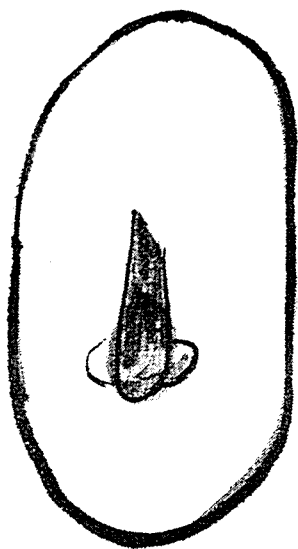
この様に急に瘦せる人は痰（水肥り）であつた  
というものです。

○眼眶色黒キハ痰ノ症ナリ。

眼眶とは眼の箱のことで眼がすっぽり入る眼窩  
を云います。これが黒くなるのは胆の病です。一  
方下眼瞼の下縁だけが黒くなるのは痰ですから本  
条では後者のことを云ったものでしょう。

（第145図参照）治法は下巻28頁参照。

治法は下巻28頁参照。



第 146 図

○能ク食シテ瘦ルハ、胃中熱アルナリ。

漢方の生理では胃は腐熟（消化）を司どり、脾は運化（吸収と栄養素の運搬）を司どるから胃も脾も機能旺盛ならどんだん食べてどんだん吸収するから肥ることになる。

所が胃は盛でも脾が虚しておると、いくら食べても不消化下痢になったりして身につかないから能く食して瘦ることになる。

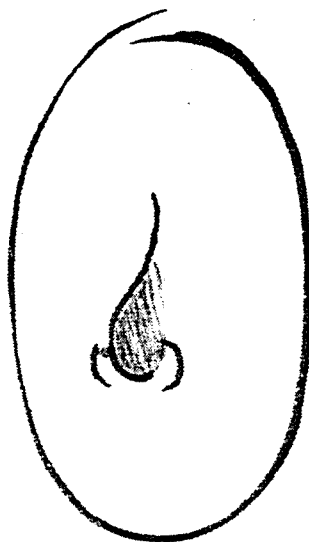
○鼻ノ色青キヲ見スハ腹痛ノ候ナリ。

金匱要略には鼻頭の色青きは腹中痛となっている。

青は血の締るものだから血管の痙攣であり鼻は胃腸を表すから腹痛となる。山根近くなら胃痛となり、準頭近いものは腸疝痛、痔の疼痛となる。

（第146図参照）

治法は柴胡剤から適當なのを選ぶ。



第 147 図

○鼻二微黒色ヲ見ルハ、水氣アリ。

金匱要略には鼻頭の微黒色は水氣ありとなつて  
いる。

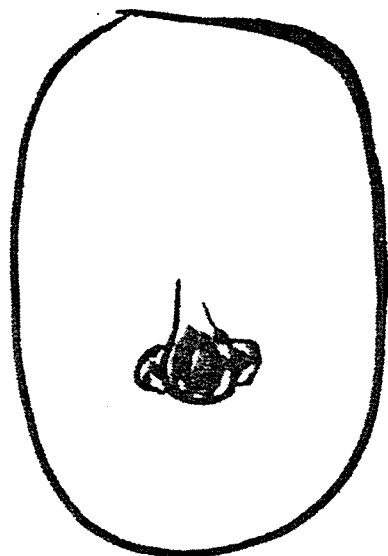
鼻頭は寒でも水氣でも微黒色になるから本条の  
様に水氣と決めてかゝるのは感心しない。治法と  
して寒を温める当帰川芎、利水の茯苓、白朮、沢  
瀉とすると当帰芍薬散等が使用出来る。

これを病名で考えると水氣だから浮腫を起す病  
氣、寒とすると足腰の冷え。腰痛、痔、神経痛、  
下腹痛等でしょう。（第147図参照）

○鼻二黄色ヲ見スハ、小便難ノ候ナリ。

金匱要略では目色黄なるは便難となつてゐる。  
つまり鼻よりも眼でみている。事実鼻よりも眼の  
方が早くから現れるし、目立ち易いからこの方が  
優れているでしょう。

黄色は脾は生痰の源といい、この痰なる水分を  
全身にくまなく行きわたる働きが衰えて来ると体  
内に水分が停滞して来るようになる。これを結果



第 148 図

的に見ると小便難になるとみえています。  
治法は下巻18頁参照。

○鼻赤色ヲ見スハ、肺熱ナリ。

これは鼻でも金甲のことで更に準頭まで続くものもあります。つまり鼻孔の周辺です。

この解説は下巻36頁参照。(第148図参照)

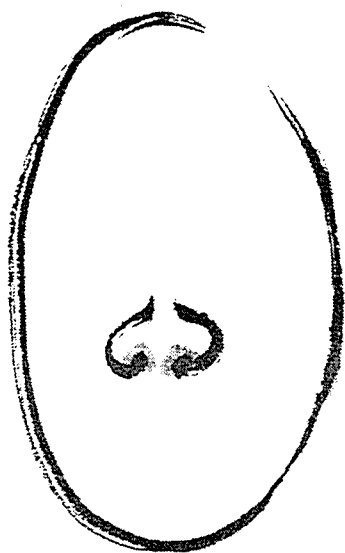
○鼻ノ色鮮明ニ過ルハ、内チ留飲アルナリ。

金匱要略には目色鮮明なる者は留飲とあり眼薬を滴した様に水々しい眼は留飲ありというもので眼と共に顔も水々しくなると鼻の色もそう見えてくるのでしよう。

解説は下巻16頁参照。

○鼻の孔乾燥スルハ、必ズ衄血ス。

鼻血は表実熱でも脾虚でも心熱でも血燥でも起



第 149 図

る。

本条は血燥によっておこる場合のことで鼻の穴が乾燥するのみならず口舌乾燥がある筈で治法は麦門冬剤で血燥を潤す。

○鼻ノ孔燥キテ烟煤ノ如キハ邪熱極ルナリ。

本条も前条と同じく邪熱の極るときは鼻孔燥くのみならず口舌乾燥、口渴、眼球乾燥、面赤等が合併して起り、鼻孔乾燥だけで邪熱を判断することとはまずありません。

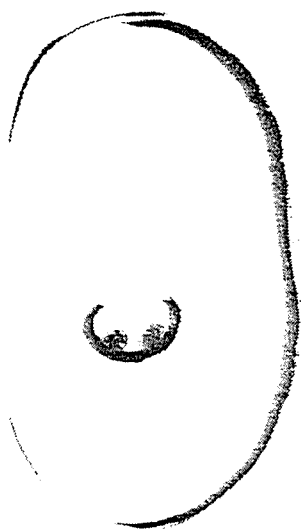
治法は自虎湯系を考えるべきでしょう。

○鼻ノ穴冷テ色黒キハ内寒甚シキナリ。

この条の解説は下巻36頁参照。(第149図参照)

○鼻清涕流ルル者ハ、肺寒ナリ。

この条では鼻の色よりもその排泄物から臓腑の寒熱を知ろうというもので、色が透明に近くて量



第 150 図

が多いものは（清涕流る、はと表現）肺寒ときめつけている。

この逆で量が少くて色は黄色く粘稠なものは肺熱と判断せよというものでしょう。

治法は下巻 36 頁参照。

○鼻ノ孔腫ルル者ハ、肺熱ナリ。

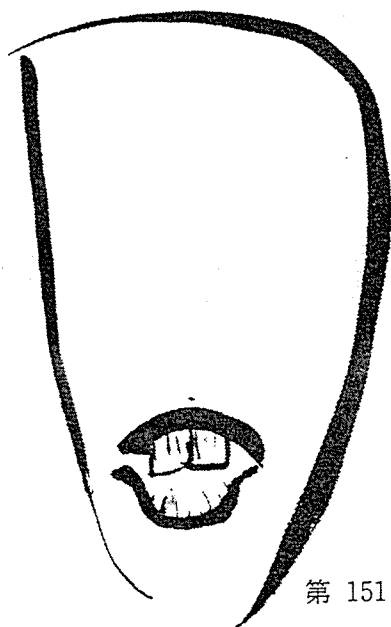
前条でその排泄物で寒熱を判定したから本条では肺の竅である鼻孔の赤く腫起したものから肺熱を判断する方法です。（第 150 図参照）  
治法は前条と同様です。

○唇青黒色ナル者ハ内寒ナリ。

下巻 42 頁参照。

○唇燥烈スルハ内熱甚シキナリ。

唇の青黒が寒なら赤を熱とするだけでは不十分で熱には燥と湿とがある。



第 151 図

燥なら唇は燥烈する筈だし、湿なら腫起する筈である。こゝまで分類しなければ治療方針は立たない。

治法は下巻42頁参照。

○齒燥キ津液無キ者ハ胃熱スルナリ。

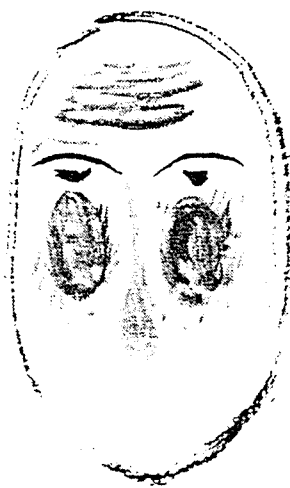
○前板齒燥キ脉虚スル者ハ、津液涸ルルナリ。

この二つの条文は体液を失ってしまっている病人（亡津液）は共通して、その原因が全く異っている。

前条は胃熱により高熱のために体液を失っているのに本条では慢性病で衰弱して体液を失ったものである。（第151図参照）

治法は前条は白虎加人参湯の様な先づ胃熱を消すことによって体液が焼けて失うことを防ぐ治療法が必要だし、本条では滋陰降火湯の様な陰血を潤おして津を救う治療法が必要になる。





第 152 図

○耳ノ色黒クシテ枯燥スルハ、腎虚ナリ。

解説は下巻 22 頁参照。

○夕刻毎二両頤骨ニ赤色ヲ発スルハ虚火ノ上昇ナリ。(第 152 図参照)

解説は下巻 9 頁参照。

○凡ソ病人目ヲ開テ見ルハ陽症也。目ヲ閉ジテ見ザル者陰症ナリ。目晴定メナガラ暫時ニ転動スルハ内痰アルナリ。

漢方の八綱の陰陽には病位の陰陽と病性の陰陽と病勢の陰陽があつて 2 の 2 乗の八綱が出来上るのであるが此処でいうのは病勢の陰陽で虚証と実証を区別している。

次に瞳(目睛)を一ヶ所に注いでいる様に見えていても、暫時に動いてゆくのは痰があるというので金匱要略、痰飲の心下有痰飲、胸脇苦満、目眩、苓桂求甘湯主之。がこれに当てはまる。

蒙色望診通信講座

昭和五十八年十二月十五日 初版発行

著者 竹 安 輝 高

発行所 郵便番号 五五六

大阪市浪速区下寺二丁目五―五

望 診 セ ン タ ー

電話 〇六(六四三)一八二二

印刷所 株式会社 カミヤ

大阪市浪速区恵美須東一―十一―十二